

令和5年度

愛知県埋蔵文化財センター

年報

2024

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

目 次

I. 令和5年度事業概要	1
調査の理由と工程	2
令和5年度調査遺跡位置図	4
II. 遺跡調査の概要	7
江南市 中般若北浦遺跡(本発掘調査B)	8
大口町 郷中遺跡(本発掘調査B)	10
岩倉市 蕎麦田遺跡(本発掘調査B)	11
豊山町 青山神明遺跡(本発掘調査B)	13
青山神明遺跡(本発掘調査B)	16
稲沢市 一色青海遺跡(本発掘調査B)	17
船橋宮裏遺跡(本発掘調査B)	19
清須市 廻間遺跡(本発掘調査B)	20
清洲城下町遺跡(本発掘調査B)	21
清洲城下町遺跡(本発掘調査B)	23
名古屋市 名古屋城三の丸遺跡(本発掘調査B)	24
安城市 寄島遺跡 姫下遺跡 寄島・姫下遺跡 姫下・向田遺跡 向田・亀塚遺跡(本発掘調査A) ..	28
寄島遺跡(本発掘調査B)	29
向田遺跡(本発掘調査B)	30
亀塚遺跡(本発掘調査B)	31
中狭間遺跡(本発掘調査B)	35
設楽町 万瀬遺跡(本発掘調査B)	37
上ヲロウ・下ヲロウ遺跡(本発掘調査B)	39
下延坂遺跡(本発掘調査B)	41
根道外遺跡(本発掘調査B)	44
豊川市 花の木北遺跡(本発掘調査B)	48
豊橋市 野添遺跡(本発掘調査B)	50
III. 刊行報告書抄録	53
第222集 万瀬遺跡	54
第223集 姫下遺跡Ⅱ・寄島遺跡Ⅱ・下懸遺跡Ⅲ	56
第224集 南山町遺跡・白木遺跡	58
第225集 引田遺跡	60
第226集 史跡 断夫山古墳	62
IV. 普及・公開活動の記録	65
埋蔵文化財展(春の埋蔵文化財展示『やとみ新発見展』2023・秋の埋蔵文化財展『名古屋城三の丸遺跡展』) ..	66
あいち朝日遺跡ミュージアム企画展 / あいち朝日遺跡ミュージアム ナイトミュージアム・体験! 弥生ムラへの出店 ..	68
連続歴史講座 / 愛知県生涯学習推進センター協力講座	70
清須市文化財講座(協力講座)	71
栄中日文化センター協力講座	72
あいち考古学フェア2023	73
あいち埋文サポーターズクラブ	76
V. 埋蔵文化財センターの活動	77
資料の貸出一覧 / ホームページ	78
地元説明会・成果報告会 / 報告書作成のための指導 / 発掘調査における遺構・遺物などの指導 ..	79
令和5年度愛知県埋蔵文化財センター組織一覧	80
浜池遺跡 発掘調査報告書	81
表紙図版 亀塚遺跡出土竖櫛(実寸)	

I. 令和5年度事業概要

調査の理由と工程

1. 発掘調査

事業主体		事業名	遺跡名	調査面積 (㎡)	調査期間	調査担当
国土交通省 中部地方整備局	木曾川上流 河川事務所	木曾川江南防災拠点整備事業	中般若北浦遺跡	2,000	令和5年9月～ 令和6年1月	武部・梶田
県建設局 道路維持課	一宮 建設事務所	交差点改良工事（一般県道斎藤羽黒線）	郷中遺跡	190	令和5年 5月～8月	永井宏・酒井
県建設局 道路建設課	一宮 建設事務所	道路改良工事（交付金）（主）春日井一宮線	蕎麦田遺跡	1,028	令和5年10月 ～令和6年1月	堀木・酒井
県建設局 河川課	尾張 建設事務所	中小河川改良事業（一級河川大山川）	青山神明遺跡	6,600	令和5年5月～ 令和6年3月	樋上・蔭山・渡邊
県防災安全局 防災危機管理課	防災拠点 推進室	愛知県基幹的広域防災拠点整備事業	青山神明遺跡	4,000	令和6年 2月～3月	鬼頭・川添・酒井・ 宮腰
県建設局 下水道課	尾張 建設事務所	日光川上流流域下水道事業 水処理施設築造 工事	一色青海遺跡	440	令和5年 6月～9月	樋上・鈴木恵
県建設局 道路建設課	一宮 建設事務所 尾張 建設事務所	道路改良事業（交付金）（一）津島稲沢線	船橋宮裏遺跡	570	令和6年 2月～3月	堀木・荒木
		名鉄新清洲駅付近鉄道高架事業の本線工事・ 仮線工事（側道工事あり）	廻間遺跡	720	令和5年 5月～9月	永井宏・蔭山
			清洲城下町遺跡	753	令和5年8月～ 令和6年3月	永井宏
橋梁整備工事・総合治水対策特定河川工事 （防災安全・緊急対策）（主）名古屋祖父江線 清洲橋		清洲城下町遺跡	300	令和6年 1月～3月	樋上・田中	
国土交通省 中部地方整備局	営繕部 計画課	名古屋第4地方合同庁舎整備等事業	名古屋城 三の丸遺跡	4,463	令和5年5月～8月、 令和6年1月～3月	永井宏・武部・ 梶田
県建設局 河川課	知立 建設事務所	中小河川改良事業（一級河川鹿乗川）	寄島・姫下遺跡	300	令和5年6月	堀木・河嶋・池本
			寄島遺跡	30	令和5年6月	堀木・河嶋・池本
			姫下遺跡	40	令和5年6月	堀木・河嶋・池本
			姫下・向田遺跡	60	令和5年6月・ 令和6年1月	堀木・河嶋・池本
			向田・亀塚遺跡	50	令和5年 1月～2月	堀木・河嶋・池本
			寄島遺跡	860	令和5年 6月～8月	堀木・河嶋・池本
			向田遺跡	55	令和5年12月	堀木・河嶋・池本
			亀塚遺跡	2,605	令和5年6月～ 令和6年2月	堀木・河嶋・池本
			中狭間遺跡	1,550	令和5年 9月～12月	堀木・河嶋・池本
国土交通省 中部地方整備局	設楽ダム 工事事務所	設楽ダム	万瀬遺跡	500	令和5年 6月～8月	鬼頭・川添・荒木
			上ヲロウ・下ヲロ ウ遺跡	580	令和5年 5月～7月	鬼頭・川添・荒木
			下延坂遺跡	920	令和5年 9月～10月	鬼頭・川添・荒木
			根道外遺跡	825	令和5年11月 ～令和6年1月	鬼頭・川添・荒木
県建設局 道路建設課	東三河 建設事務所	一般国道151号（一宮バイパス）	花の木北遺跡	375	令和5年 5月～7月	樋上・田中
		道路改良工事（交付金）（主）東三河環状線	野添遺跡	960	令和5年 8月～10月	樋上・田中
都市・交通局 都市整備課	東三河 建設事務所	街路改良工事（都）小松原街道線	浜池遺跡	110	令和5年 7月～8月	樋上・田中

2. 整理・報告書編集

	事業主体	事業名	遺跡名	調査面積 (㎡)	調査年度
整理	国土交通省 中部地方 整備局	設楽ダム 工事事務所	設楽ダム 万瀬遺跡・下延坂遺跡・ 上ヲロウ・下ヲロウ遺跡・ 根道外遺跡	2,825	R.5
整理・報告	国土交通省 中部地方 整備局	設楽ダム 工事事務所	設楽ダム 大畑遺跡 大崎遺跡	15,080 10,995	H.29・R.3 R.3・R.4
	県建設局 道路建設課	東三河 建設事務所 新城設楽 建設事務所	一般国道 151 号 (一宮バイパス) 道路改築工事 (国) 420 号	8,995 920	R.2・R.3・R.4 R.4
	県民文化局 文化芸術課	文化財室	史跡断夫山古墳調査事 業	290	R.2・R.3・R.4
	県スポーツ局	愛知国際 アリーナ課	愛知県新体育館整備・ 運営等事業	27,000	R.3・R.4
	印刷・刊行	国土交通省中 部地方整備局	設楽ダム 工事事務所	設楽ダム 万瀬遺跡	10,250
	県建設局 河川課	知立 建設事務所	中小河川改良事業 (一級河川鹿乗川) 姫下遺跡 寄島遺跡 下懸遺跡	1,820 3,228 1,152	H.26・R.3 H.26・H.28 H.28・H.30
	県建設局 道路建設課	一宮 建設事務所 新城設楽 建設事務所	道路改良工事一般国道 155 号 道路改良工事 (国) 473 号 (月バイパス) (D13) 引田遺跡	370 1,740 400	R.1 R.2・R.3 R.3
	県民文化局 文化芸術課	文化財室	史跡断夫山古墳調査事 業 断夫山古墳	290	R.2・R.3・R.4

3. 令和5年度刊行物

・埋蔵文化財調査報告書(計5冊)

第222集 万瀬遺跡

第223集 姫下遺跡Ⅱ・寄島遺跡Ⅱ・下懸遺跡Ⅲ

第224集 南山町遺跡・白木遺跡

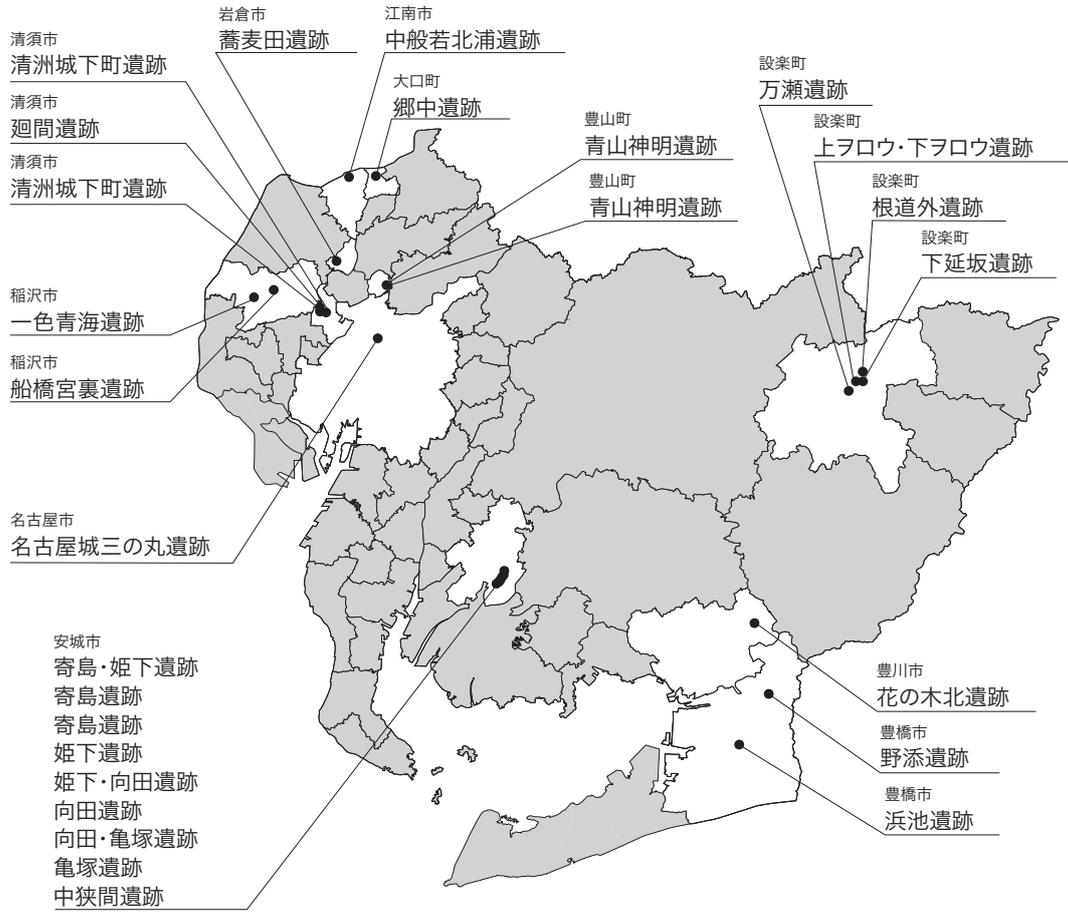
第225集 引田遺跡

第226集 史跡断夫山古墳

・令和5年度 愛知県埋蔵文化財センター年報

・研究紀要 第24号

令和5年度 調査遺跡位置図

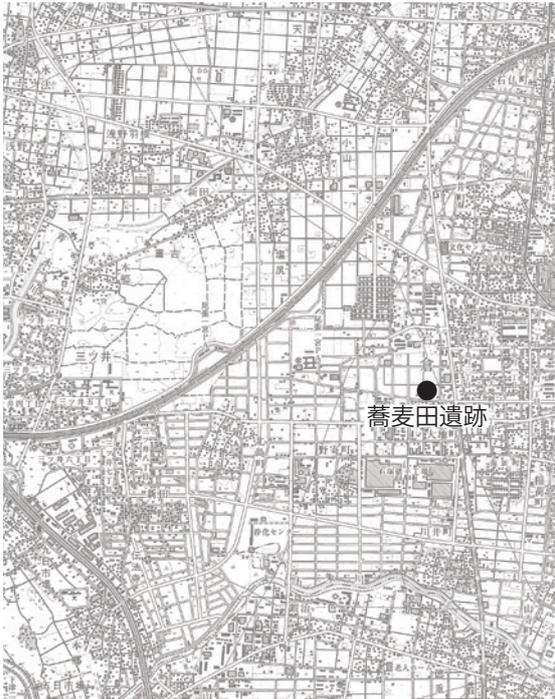


国土地理院 1/2.5 万地形図「犬山」



国土地理院 1/2.5 万地形図「犬山」

※地形図は 50%縮小しています。



国土地理院 1/2.5 万地形図「一宮」



国土地理院 1/2.5 万地形図「清洲」



国土地理院 1/2.5 万地形図「清洲」



国土地理院 1/2.5 万地形図「小牧」



国土地理院 1/2.5 万地形図「名古屋北部」

※地形図は 50%縮小しています。



国土地理院 1/2.5 万地形図「安城」・「西尾」



国土地理院 1/2.5 万地形図「田口」



国土地理院 1/2.5 万地形図「新城」



国土地理院 1/2.5 万地形図「豊橋」



国土地理院 1/2.5 万地形図「豊橋」

※地形図は 50%縮小しています。

II. 遺跡調査の概要

なかはんにやきたうら
中般若北浦遺跡 (本発掘調査B)

所在地 江南市中般若北浦地内
(北緯35度37分28秒 東経136度89分25秒)

調査理由 木曾川江南防災拠点整備事業

調査期間 令和5年9月～令和6年1月

調査面積 2,000㎡

担当者 武部真木・梶田真由



調査地点 (1/2.5万「犬山」)

調査の経過 調査は、国土交通省中部地方整備局木曾川上流河川事務所による木曾川江南防災拠点整備事業に伴うものであり、愛知県県民文化局を通じた委託事業として、令和5年9月から令和6年1月にかけて実施した。調査面積は、2000㎡である。

立地と環境 遺跡は、愛知県の北部、江南市の北東の端、扶桑町との市境に位置している。木曾川の左岸に立地し慶長13年に築堤が開始された御囲堤の北側に位置している。周辺には郷前遺跡や宮山遺跡など中世の遺物の散布地が所在している。今年度は、調査区を南北にA、B区の2区に分割し調査を行なった。

調査の概要 御囲堤に近い南側のA区と木曾川に近いB区では様相がやや違っていた。A区は流路(080NR、220NR)に挟まれておりその間が浅い凹地や微高地となっており、B区は、調査区の広範囲に流路と河原石が広がる。A・B区の東側は攪乱である。両区から中世の遺構・遺物が確認された。遺物は12世紀から16世紀のものがみついている。

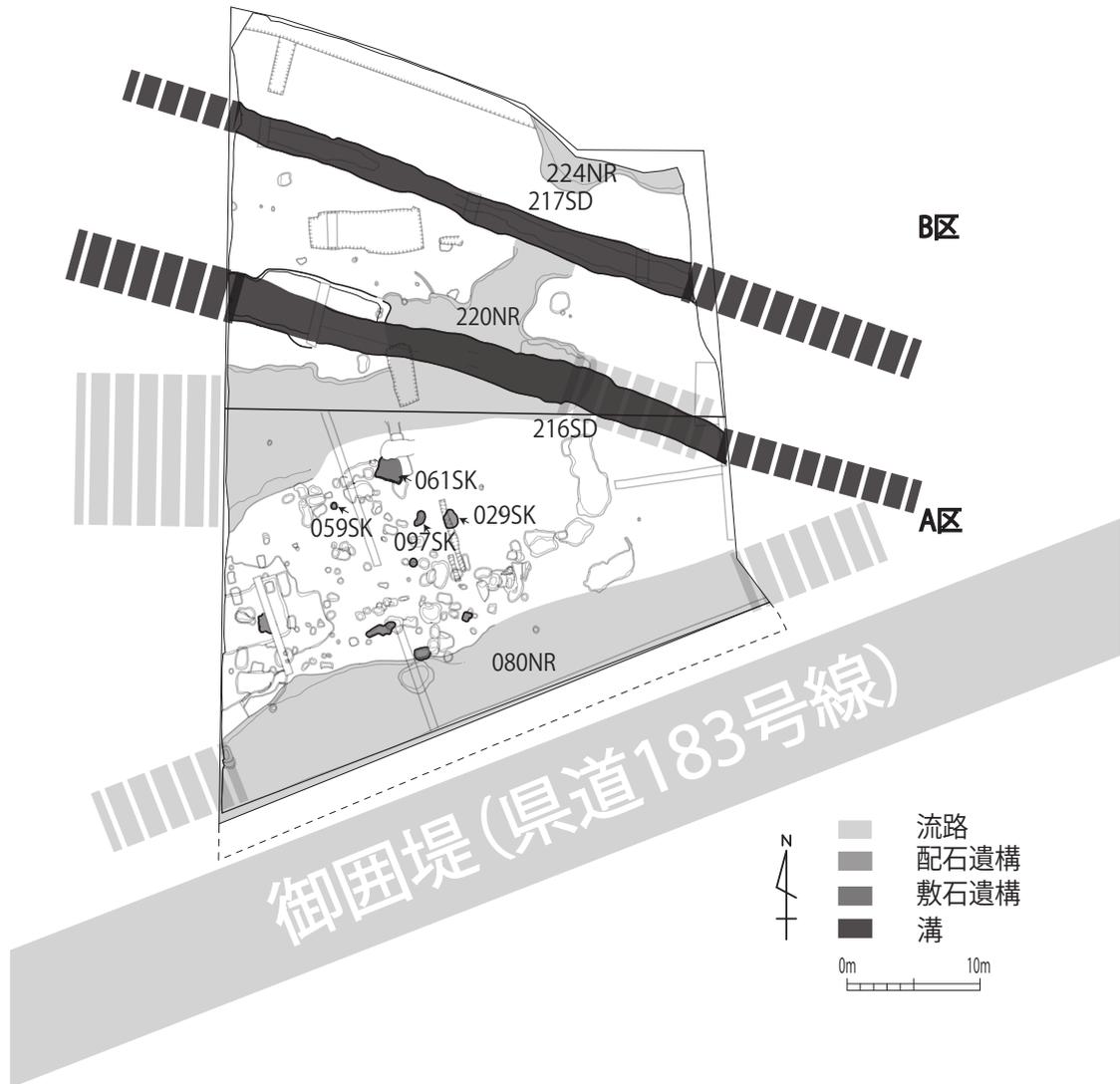
遺構は、A区の微高地ではまとめて土坑が確認され方形、円形、楕円をしており、大きさとしては、1mを超えるような大きな遺構は少ない。また、周辺の河原から選択し、人為的に礫を配置した遺構も複数確認できた。主な遺構は、A区の敷石遺構(061SK)は、1.3×2.5mの範囲に扁平な礫が20個以上並べられている。礫の大きさは、ほぼ同じで20cm～30cm程度で、礫を除去した面は平坦であった。配石遺構(029SK)は、直径1.2mの円形の土坑として見つかり中央が少し凹んだ径40cmの扁平な円礫が中央に据えられ周囲は円礫で支えられている。他にも大型の扁平な円礫が1個置かれている遺構(059SK、097SK)などがある。

B区は溝以外の遺構はほとんど検出することができなかったが、直線的に並行した延びる大型の溝(216SD・217SD)が検出された。調査区のほぼ中央にある216SDは、深さ2.2m、幅2.8m、検出長20m以上である。10m北側で並行に延びる217SDは、深さ1.5m、幅2.3m、検出長20m以上ある。

遺物は、両区から山茶碗(東濃型)、天目茶碗、播鉢などが出土した。A区の敷石遺構の近くで金属製品や古銭が出土し、B区の溝(216SD)の黒褐色の層から青磁皿、灰釉や鉄釉の皿、土師質鍋、茶臼(下臼)、のほか、灰釉四耳壺や常滑窯産の壺、中国産の青磁短頸壺などの陶磁器が出土している。

まとめ 今回の調査では遺構・遺物に生活感が乏しく、建物が立ちにくい立地であることと、蔵骨器と思われる陶磁器や古銭などの金属製品も出土していることから墓域としての可能性が考えられる。溝2条の性格は不明であるが軸線方向は、新堤と同じ向きであった。

(梶田真由)



主要遺構配置図(S=1/400)



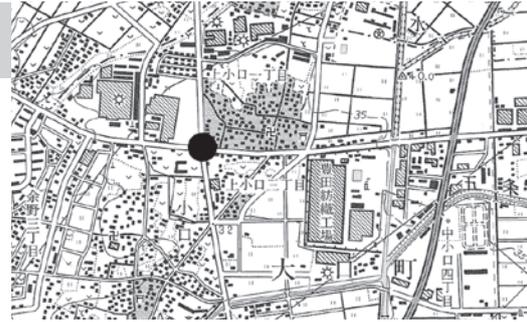
061SK 配石遺構 (北から)



216SD 青磁皿出土状況(西から)

ごうなか
郷中遺跡 (本発掘調査B)

所在地 丹羽郡大口町上小口一丁目地内
(北緯35度20分48秒 東経136度55分03秒)
調査理由 交差点改良工事(一般県道斎藤羽黒線)
調査期間 令和5年5月～8月
調査面積 190㎡
担当者 堀木真美子・酒井俊彦



調査地点(1/2.5万「犬山」)

調査の経過 調査は交差点改良工事(一般県道斎藤羽黒線)に伴い、愛知県県民文化局を通じて委託を受けたものである。昨年度は上小口交差点西側と東側の県道沿い北側で370㎡の調査を行い、2度目となる今年度は、交差点東側の県道沿い南側190㎡の調査を行った。

立地と環境 本遺跡の所在する大口町は犬山扇状地に位置し、遺跡は五条川左岸の沖積微高地上に立地する。昨年度の調査では縄文時代中期後半の竪穴建物1棟と土坑が検出され、同時期の縄文土器および石器類が出土している。

調査の概要 今年度の調査では近世から近代の溝が検出され、これに伴う陶磁器類が出土した。また、戦国時代以前の溝と土坑が検出された。戦国時代以前の遺物として須恵器、山茶碗、戦国時代の陶器類などが少量出土した。

近世および近代の溝は主に南北方向に2条一組で走り、6条が検出された。これに直交する東西方向の溝2条が検出された。溝より近世末から近代初めの瀬戸窯産陶器(各種碗・皿類、すり鉢、常滑窯産甕)、磁器(皿)などが出土した。遺構に伴わない主な遺物として少量の戦国時代の天目茶碗、すり鉢が出土している。また、近世の溝より規模の大きい北西から南東方向に走る時期不明の溝が調査区西端で1条検出された。調査区内で部分的に確認されたため全体の状況は不明である。遺物は出土しなかった。中世以前の時期と考えられる。

まとめ 今回の調査で確認された近世の溝は現存の集落の道路および建物に近い方向をとる。近世以降の屋敷地に伴うものである。調査区のある区域は戦国時代から近世に有力だった丹羽氏の本拠地であり、遺構・遺物はこれに関連するものと推定される。屋敷地の溝とは方向が異なる時期不明の溝は中世以前の集落に伴う可能性がある。(酒井俊彦)



調査区完掘状況(東から)



近世の溝(南から)

そばた
蕎麦田遺跡(本発掘調査B)

所在地 岩倉市大地町
(北緯35度16分31秒 東経136度51分45秒)

調査理由 道路改良工事(交付金)(主)春日井一宮線

調査期間 令和5年10月～令和6年1月

調査面積 1,028㎡

担当者 堀木真美子・酒井俊彦



調査地点(1/2.5万「一宮」)

調査の経過 調査は道路改良工事(春日井一宮線)に伴い、愛知県県民文化局を通じた委託事業である。遺跡は、愛知県埋蔵文化財調査センターが平成29年度に16㎡、令和2年度に32㎡の試掘調査を行っている。この結果に基づき、今回の調査は遺跡範囲の東から西にかけてA区134㎡B区59㎡C区48㎡D区330㎡E区245㎡F区98㎡G区111㎡の7調査区を設定し、総面積1,028㎡である。調査はB・C区より開始し、G・F区、A・D区、E区の順序で実施した。また、全て一面調査で基盤面で遺構検出と遺構掘り下げを行った。

立地と環境 遺跡は尾張平野五条川左岸の沖積低地に所在する。古墳時代以前に存在し、遺跡範囲内において南北方向に走る旧河道の後背湿地を中心にして東西に沖積微高地が広がる。遺跡はこの微高地上に展開する。遺跡の南側には大地遺跡が所在する。

調査の概要 調査によって北西から南東方向に走る旧河道に伴う後背湿地がD区で確認されている。この東側(A～C区)と西側(E～G区)に広がる沖積微高地上で遺構が検出された。遺構・遺物は主に古墳時代、平安時代、近世の3時期に属する。古墳時代前半の遺構としてA区で溝3条、E～G区で溝7条が検出された。古墳時代後半はD・E区で溝4条が検出された。これらは南北方向の溝である。平安時代の遺構としてはE区で南北方向の溝1条が検出された。その他、時期不明の南北方向の溝が2条検出された。近世の遺構はG区西端で南北方向の溝1条が検出された。遺物は古墳時代の土師器と須恵器、平安時代の灰釉陶器と須恵器が出土した。近世の溝からは瀬戸窯産陶器類などが出土した。

まとめ 古墳時代の遺構として溝のみが遺存している。これらは集落に伴うものである。竪穴建物、掘立柱建物および土坑などは確認されない。後世の土地改変によって沖積微高地が削平され、溝以外の遺構は消失したと考える。D区の旧河道を中心に東側と西側に古墳時代集落が展開する。平安時代の遺構は溝のみ1条が検出され、集落に伴うものと考えられる。近世の溝は幅が広く、流水の痕跡が認められることから水路ないしは小河川と推定される。
(酒井俊彦)



遺跡全景(北西から)



D区旧河道セクション(北から)



F区古墳時代前半溝群（南西から）



A区古墳時代前半溝群（南西から）



G区古墳時代前半遺物出土状況（西から）



E区遺構完掘状況（西から）



E区古墳時代後半遺物出土状況（南から）



E区平安時代溝（南から）



E区平安時代遺物出土状況（北から）



G区近世溝（北から）

あおやましんめい
青山神明遺跡(本発掘調査B)

所在地 西春日井郡豊山町大字青山字神明地内
(北緯35度15分40秒 東経136度54分53秒)

調査理由 中小河川改良事業(一級河川大山川)

調査期間 令和5年5月～令和6年3月

調査面積 6,600㎡

担当者 樋上昇・蔭山誠一・渡邊峻



調査の経過 調査は、愛知県建設局河川課による一級河川大山川の中小河川改良事業に伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じた委託を受けて、令和5年5月から令和6年3月に実施した。調査面積は6,600㎡で、豊山町神明公園内の南部を23A区、同公園内の西部を22B区、同公園の西側水田地帯を22C区とする、計3か所に調査区が設定された。

立地と環境 遺跡は、西春日井郡豊山町大字青山字神明地内にある遺跡で、小牧台地の南端付近の低位段丘上に立地する。遺跡の南東側には、北東から南西に流れる大山川が存在する。『豊山町史』によれば大字青山には旧字稲荷の畑地内で銅鏡、旧字北畑地内で縄文土器・石器、旧字居屋敷で土器・石器類が確認されている。

調査の概要 調査は23A区、23C区、23B区の順で行った。

基本層序は以下の通りである。23A区は、公園の造成の盛土の下にわずかな耕作土があり、その下層に褐灰色の粘土質の基盤層がある。23C区は、表土の耕作土の下層に明黄褐色の粘土質の基盤層がある。23B区は、23A区のように公園造成時の盛土の下に耕作土があり、23C区のような明黄褐色の粘土質の基盤層がある。遺構の覆土は、主に中世までの遺物を含む黒褐色の粘土と近世から近代にかけての遺物を含む褐灰色の粘土を確認した。

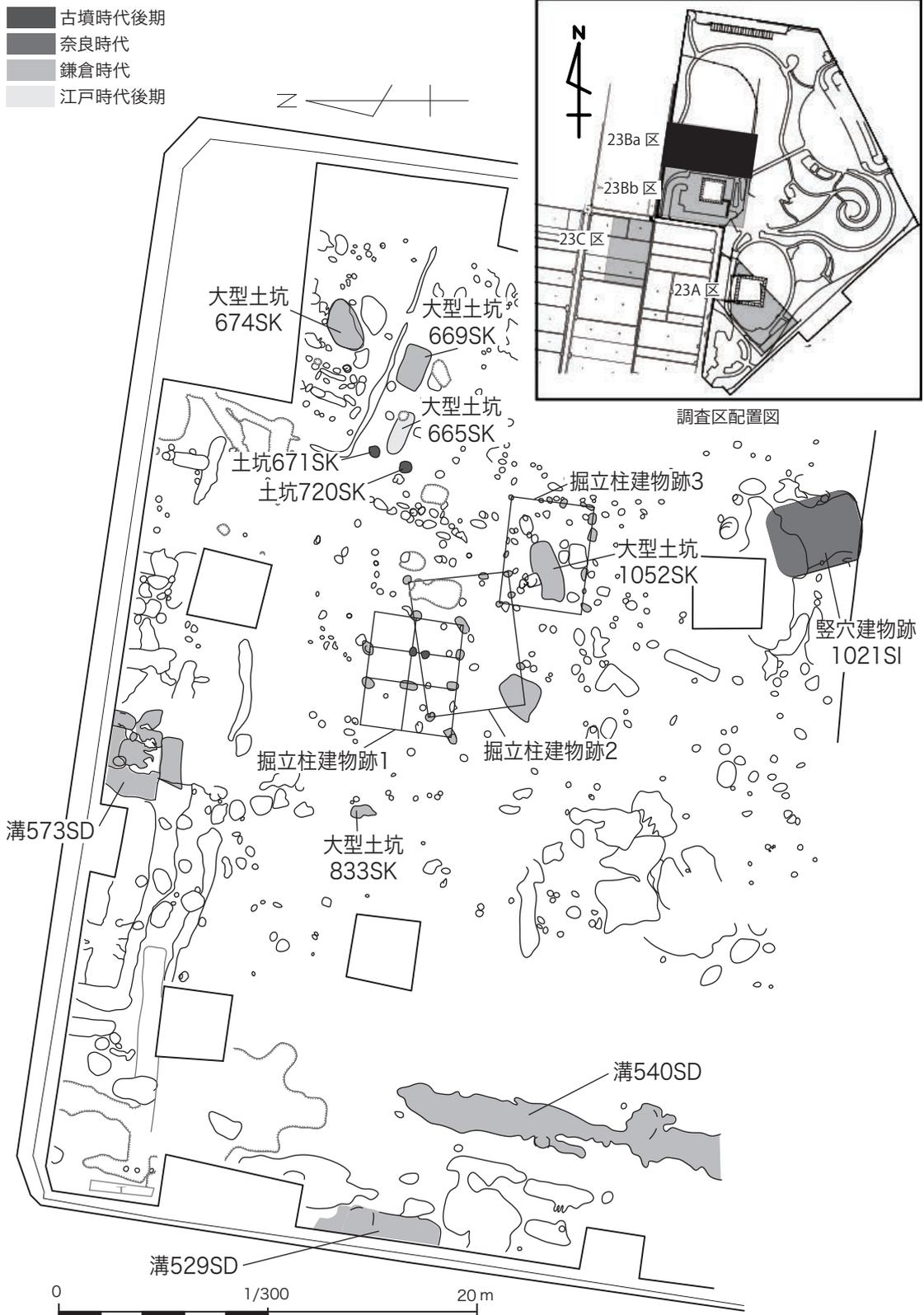
23A区 23A区では、中世と江戸時代後期から近代の2時期の遺構や遺物が確認された。調査区の西側で確認された旧河道跡178NRは中世の山茶碗などが出土し、その東岸で大小の土坑が13基検出された。178NRは北東から南西に流れており、大山川の旧河道跡の可能性がある。

23C区 23C区では中世の溝が5条、江戸時代後期から近代にかけての溝が13条確認され、それらの間を南北に通る道462SFや池411SXが確認された。遺物は、中世以後の陶磁器片が主体であるが、溝301SDからは弥生土器の高杯が出土した。

23B区 23B区では、調査区北側の23Ba区で古墳時代後期の土坑が2基、奈良時代の竪穴建物跡が1棟、鎌倉時代の掘立柱建物跡が3棟、南北に流れる溝が3条、江戸時代後期の土坑1基が確認された。その中で調査区南側にある竪穴建物跡1021SIは奈良時代のもので東西2.8m・南北4.0m、平面形は隅丸長方形で柱穴と周溝が確認された。掘立柱建物跡は調査区中央にあり、掘立柱建物跡1は桁行3間、梁間2間の東西棟の総柱建物で、鎌倉時代のもと考えられる。出土遺物は古墳時代の須恵器の杯身・杯蓋、土師器の甕、古代の灰釉陶器や鎌倉時代の小皿や山茶碗の破片が多数出土した。

まとめ 以上により、本遺跡では古墳時代後期から鎌倉時代にかけての集落が営まれ、中世から近代には遺跡の南東側を流れる旧河道跡の周辺に集落が展開していたものと考えられる。

(渡邊峻)



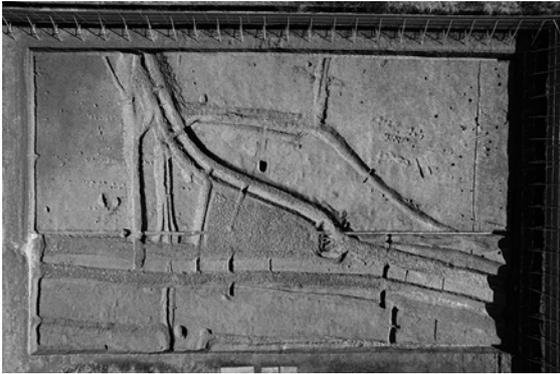
23Ba区 主要遺構全体図 (S=1/300)



遺跡全景(南西から)



23A区全景(西上から)



23C区全景(西上から)



23Ba区全景(北上から)



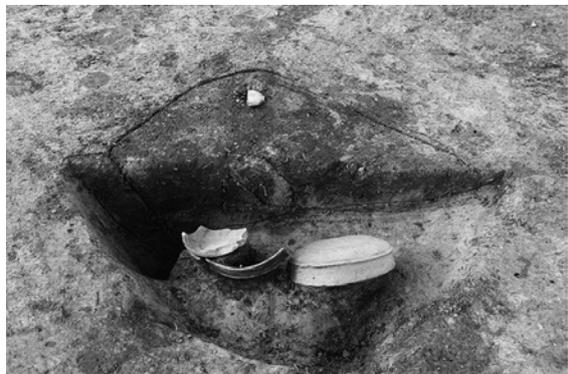
23Ab区旧河道跡178NR遺物出土状況(東から)



23Ca区溝301SD遺物出土状況(北から)



23Ba区竪穴建物跡1021SI(北から)



23Ba区土坑671SK遺物出土状況(東から)

あおやましんめい
青山神明遺跡 (本発掘調査B)

所在地 西春日井郡豊山町大字青山字神明地内
(北緯35度15分42秒 東経136度54分36秒)

調査理由 愛知県基幹的広域防災拠点整備事業

調査期間 令和6年2月～3月

調査面積 4,000㎡

担当者 鬼頭剛・川添和暁・酒井俊彦・宮腰健司



調査の経過 調査は愛知県防災安全局による広域防災拠点(調整池)工事に伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じた委託事業として実施した。調査区は県営名古屋空港の約0.6 km西にある。調査面積は4,000㎡で、調整池に関わる23D区、幹線水路に関わる23E区を東西方向に細分して調査を行った。

立地と環境 遺跡は、小牧市および春日井市から連なる上部更新統がつくる低位段丘上に立地する。調査地は段丘の南端にあたり、段丘上を流下する大山川と中江川とに挟まれた堤間湿地内にある。標高は9.5m～10.5mである。

調査の概要 調査対象地では、23D区の中央から西と北西へ向けて地表の標高が次第に低くなるにつれて、遺跡地下の基盤層となる礫層の現れる深度が地表と同じように深くなり、遺跡の北を北東から南西方向に流下する中江川の河岸地形の影響を受けている。一方、23E区の南東や23E区に向かうに従って地形標高が高くなると共に、遺構の密度や遺物の出土量が多くなる。出土する遺物は調査対象地の北西では中世陶器が、東や南東では古墳時代前期に比定される土師器の鉢や中世陶器・近世磁器が出土する。

(鬼頭 剛)



調査区位置図 (1/4,000)

いっしきあおい
一色青海遺跡 (本発掘調査B)

所在地 稲沢市儀長町1丁目

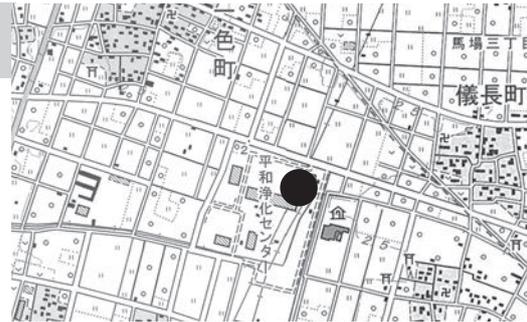
(北緯35度14分11秒 東経136度45分18秒)

調査理由 日光上流流域下水道事業 水処理施設築造工事

調査期間 令和5年6月～9月

調査面積 440㎡

担当者 樋上昇・鈴木恵介



調査地点 (1/2.5万「清州」)

調査の経過 調査は、愛知県建設局下水道課による日光川上流流域下水道事業水処理施設築造工事に伴う事前調査として、愛知県民文化局を通じて委託を受け、令和5年6月から令和5年9月に実施した。調査対象地の現況は埋め立てられた旧耕作地である。近代の耕作土を除去した状態を第1面として、鎌倉時代～江戸時代までの主に土坑を中心とする遺構、さらに弥生時代中期後半の方形周溝墓を検出・掘削した。第1面の遺構および包含層掘削後に検出される弥生時代中期後半の竪穴建物跡を中心とする遺構を第2面とした。調査面積は440㎡である。

立地と環境 遺跡は、三宅川と日光川に挟まれた沖積低地の旧河道南岸自然堤防上に位置する。遺跡周辺の現況は主に水田として整備され、大規模な圃場整備によって旧地形は残っていない。現況の遺跡周辺の標高はわずかに北東から南西側に向って下る地形となっている。地下水位は高く、標高0.8m以下で湧水が発生する。遺構検出面は標高0.7m前後であり、調査には常時排水設備が必須であった。

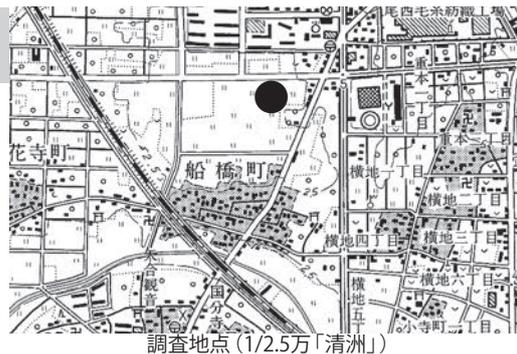
調査の概要 これまでの周辺の調査結果から、本調査区では、弥生時代中期後半の方形周溝墓や竪穴建物跡の検出が想定されていたが、想定通り方形周溝墓の周溝3条、竪穴建物跡8棟を検出した。方形周溝墓はいずれも隣接する過去の調査区で確認されていたもので、竪穴建物跡は2棟が隣接調査区の連続部分、それ以外の6棟は隣接調査区で未検出、あるいは本調査区で初めて検出されたものである。その他の遺構では焼土や炭化物、土器を多量に含む土坑がある。058SKは竪穴建物跡との切り合い関係が無いため前後関係は不明だが、第1面では検出されておらず第2面の竪穴建物跡と併存したと推定される。竪穴建物跡は、最も下層で検出された065SIと066SIは、遺構検出時の標高が0.5m以下、これより上層で検出された竪穴建物跡 (051SI、053SI: 図では記載省略)の検出面の標高は0.7m以上であり、間に整地層と考えられる遺物包含層を挟んでいた。また竪穴建物跡の内、065SIは埋土に炭化物、炭化材を多く含んでおり、焼失竪穴建物と考えられる。

まとめ 本調査区では、北半部で検出される遺構が多く、南半部では遺構が少ない結果となった。関西電力送電線鉄塔の基礎部分によって大きく削平を受けるなど後世の影響も考えられるが、過去の調査結果を踏まえた遺構分布によれば、本調査区南半部から03区東端付近にかけて竪穴建物跡の検出されない範囲があり、その範囲では方形周溝墓、中世の土坑群が検出されるのみとなっている。この部分では旧河道400NRが破堤し北から南に向かい流路が形成されたと考えられており、これにより居住域として不適な範囲では竪穴建物跡の検出が減少したものと思われる。

(鈴木恵介)

ふなばしみやうら
船橋宮裏遺跡(本発掘調査B)

所在地 稲沢市船橋宮裏町地内
(北緯35度14分54秒 東経136度46分37秒)
調査理由 道路改良事業(交付金)(一)津島稲沢線
調査期間 令和6年2月～3月
調査面積 570㎡
担当者 堀木真美子・荒木徳人



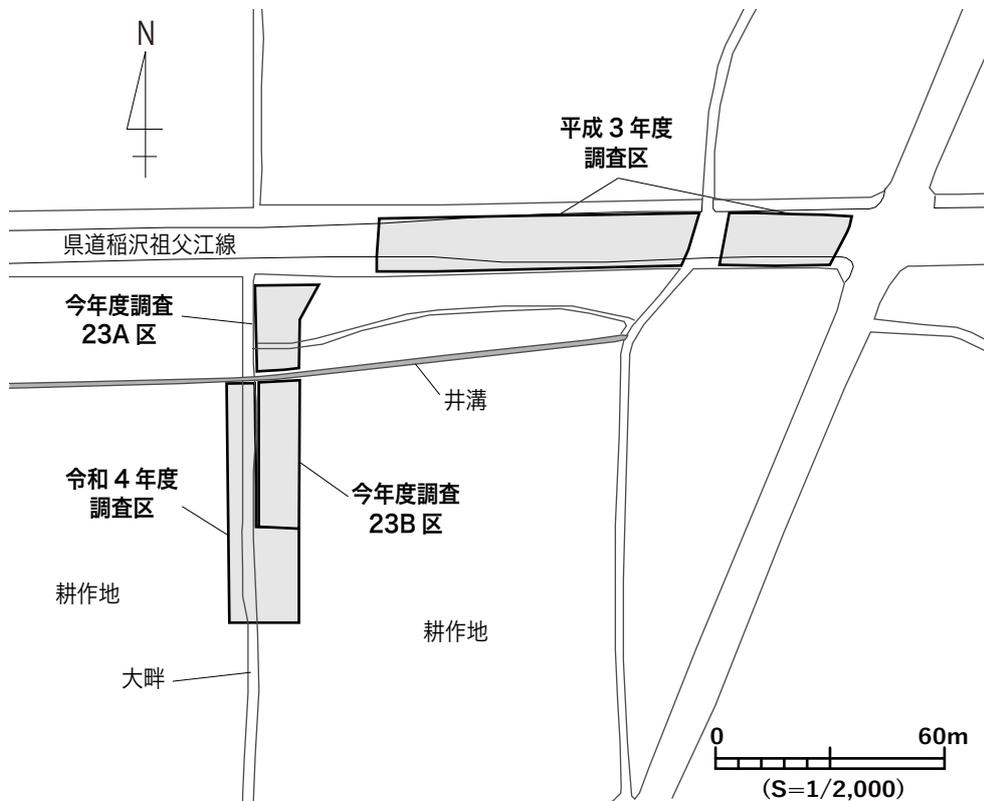
調査地点 (1/2.5万「清洲」)

調査の経過 調査は、道路改良工事(交付金)(一)津島稲沢線に伴うものであり、愛知県建設局道路建設課(一宮建設事務所)から愛知県民文化局を通じた委託事業として、令和6年2月～3月にかけて面積570㎡の発掘調査を行った。

立地と環境 遺跡は、稲沢市の中心部を流れる三宅川の右岸自然堤防上に立地し、現況は水田耕作地となっている。今年度の調査区は工程上の都合により調査区の中央、東西方向に流れる井溝を境に北側を23A区、南側を23B区と設定した。

調査の概要 船橋宮裏遺跡では平成3年度と令和4年度に調査が行われている。平成3年度の調査では多数の土坑群や火葬施設など中世の墓地跡が確認された。一方、令和4年度の調査では地形的に低く湿地状であることから居住地として適さない環境であったため、遺物は出土したが住居遺構は確認されなかった。今年度の調査区は過去の調査区との間に位置しており、集落周縁部の範囲を確認することができた。

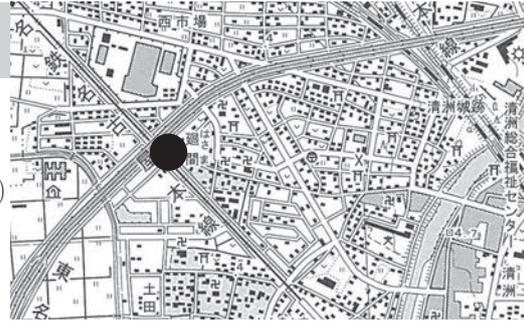
(荒木徳人)



調査区の位置 (S=1/2,000)

はさま 廻間遺跡 (本発掘調査B)

所在地	清須市廻間地内 (北緯35度13分2秒 東経136度49分45秒)
調査理由	名鉄新清洲駅付近鉄道高架事業の本線工事・仮線工事 (側道工事あり)
調査期間	令和5年5月～9月
調査面積	720㎡
担当者	永井宏幸・蔭山誠一



調査地点 (1/2.5万「清洲」)

調査の経過 調査は、名鉄新清洲駅付近鉄道高架事業の本線工事・仮線工事 (側道工事あり) に伴う事前調査として、愛知県建設局道路建設課 (尾張建設事務所) より愛知県県民文化局を通じた委託事業として実施した。調査期間は令和5年5月～9月で、調査面積は720㎡である。

立地と環境 遺跡は清須市の中央西寄り、稲沢市と接する付近、名古屋第二環状自動車道と名鉄名古屋本線が交差する付近に位置する。遺跡は清須市域の東側を南北に流れる五条川右岸の沖積低地に立地する。標高は現況で3m前後をはかる。今回の調査は、かつて名古屋第二環状自動車道建設に伴う事前調査として実施した廻間遺跡の調査区を挟んだ両側で行った。調査区は北西側に23A区、南東側に23B区を設定した。

調査の概要 廻間遺跡は古墳時代初頭を中心とする居住域 (北側) と墓域 (南側) が展開し、今回の調査区はいずれも墓域の北端に位置する。23A区は既報告C区 (松の木遺跡60A区) の墳丘墓SZ04の西側に隣接する。23A区では古墳時代初頭の溝を数条確認した。溝は墳丘墓に伴うものとかんがえられる (23Ae区ほか)。また、これら溝の下位から方形プランの遺構もいくつか検出した。焼土と炭化物が広がる箇所もあり、居住域と墓域が重複する可能性もある。これら古墳時代の遺構面より上位には古代から戦国・近世にいたる遺構群が展開する。23B区は既報告D区 (松の木遺跡60D区) 墳丘墓SZ06の東側に隣接する。23B区は古墳時代初頭の遺構・遺物はなく、古墳時代後期の溝から須恵器・土師器 (宇田甕) を確認した。これらの上位には23A区と同様に古代から戦国・近世にいたる遺構を確認した。主に水田関連遺構とかんがえられる。23B区は旧地形が南東側へ低く傾斜していることから、廻間遺跡の東端に相当すると思われる。 (永井宏幸)



23Ae区古墳時代初頭の溝 (北西から)



23Bc区調査区より北西を望む (南東から)

きよすじょうかまち
清洲城下町遺跡(本発掘調査B)

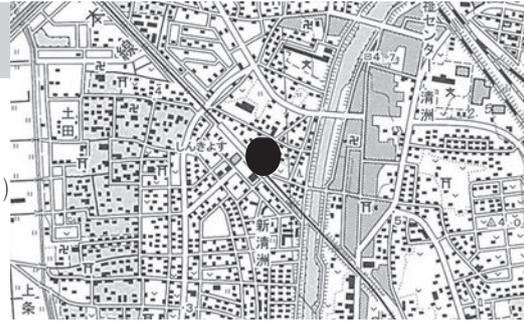
所在地 清須市清洲地内
(北緯35度12分59秒 東経136度50分10秒)

調査理由 名鉄新清洲駅付近鉄道高架事業の本線工事・仮線工事(側道工事あり)

調査期間 令和5年9月～令和6年1月

調査面積 753㎡

担当者 永井宏幸



調査地点(1/2.5万「清洲」)

調査の経過 調査は名鉄新清洲駅付近鉄道高架事業の本線工事・仮線工事(側道工事あり)に伴う事前調査として、愛知県建設局道路建設課(尾張建設事務所)より愛知県民文化局を通じた委託事業として実施した。調査期間は令和5年9月～令和6年1月であり、調査面積は753㎡である。

立地と環境 遺跡は清須市の中央、清洲公園周辺に所在した清須城を中心に五条川沿いに広がる。今回の調査区は23A区と23B区を設定した。いずれも現況で標高3m前後、五条川沿いの沖積低地に立地する。23A区は名鉄新清洲駅東口近くに位置し、23B区は23A区から名鉄名古屋本線沿いに名古屋方面へ約400m進んだところに位置する。

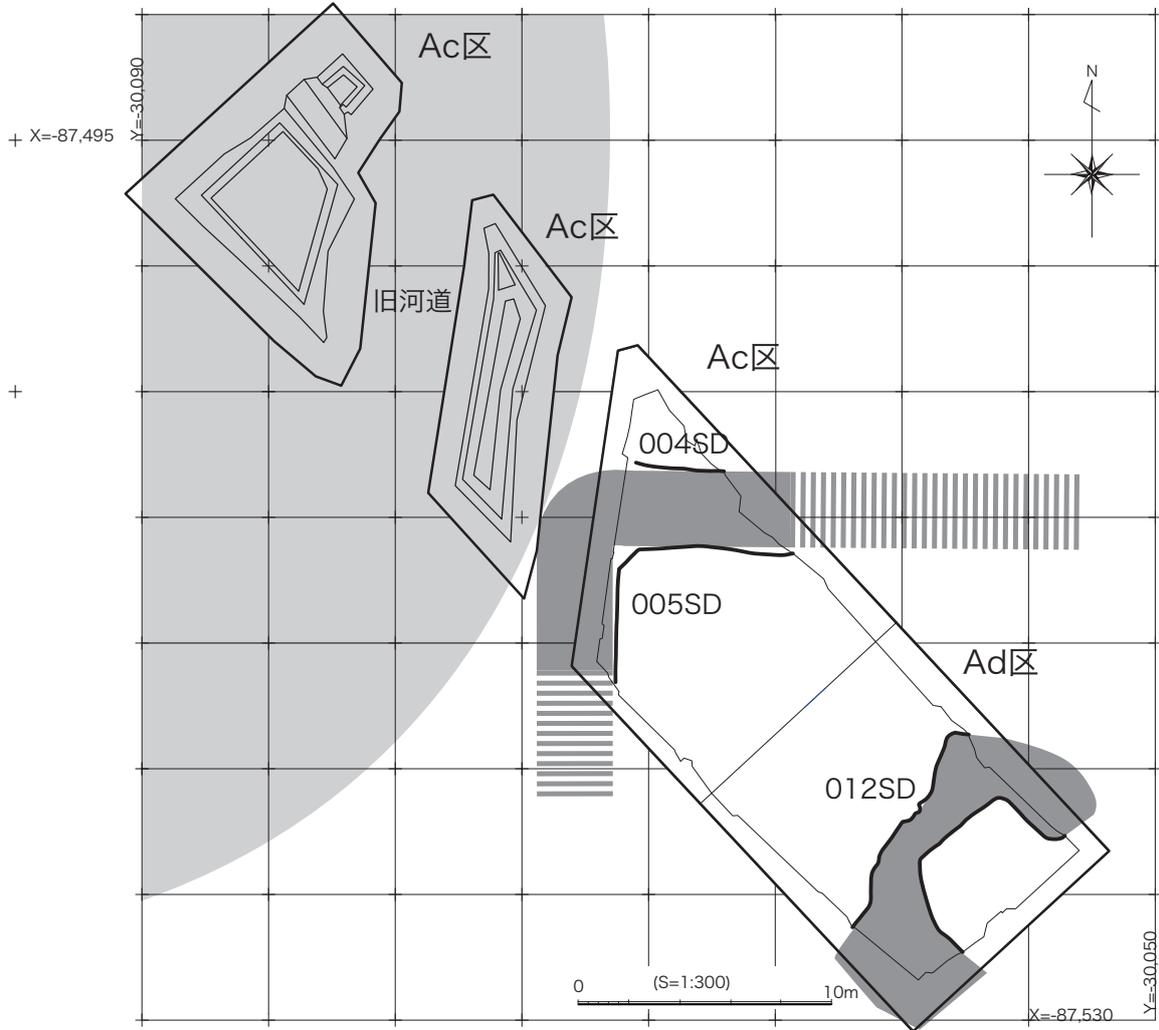
調査の概要 23A区はaからd区に4分割して行った。このうち西寄りの23Aa区と23Ab区は中世から近世の遺物が出土したものの、調査区内は河川堆積が続き、遺構は確認できなかった。今回の調査区北西の名鉄新清洲駅付近にかつて溜池があったことと、23Ab区より西側は旧地形が北西側に低く傾斜していることから、近世以前は自然流路が南北方向に流れていたと思われる。

23Ac・d区は北東側で清須市による発掘調査が進められていたことから、戦国から近世初頭を中心とする後期城下町期の遺構が展開すると予想された。ところが調査区の上位は大きく削平されており、旧地表面はすでになかった。したがって、深く掘り込まれた遺構のみが残存していた。Ac区では方位に軸線を合わせた004SDと005SDを確認した。当初は別遺構として認識していたが、交差する箇所にトレンチを入れ、層序を確認した結果、同一層序が続くと判明した。004SDは東西軸、005SDは南北軸に延びる。この溝は断面観察から2回掘削されていることが確認できた。規模は現況で004SDが幅2.5m前後、深さ0.8mを測る。出土遺物は004SDの最下層付近から土師器茶釜、天目茶碗、志野皿などがまとまって出土した。004SDは東へ続くと予測でき、さらに清須市の調査区では方向と規模が同一の溝があり、接続すると推定される。したがって、004SD・005SDは武家屋敷など規模の大きい区画溝であろう。23Ad区ではコの字状に屈曲する溝を確認した。周辺に攪乱が多く点在して面的に検出できなかった。各所でトレンチを入れて底面を確認しながら進めると不定形ではあるものの、溝底がコの字状につながった。溝の規模は現況で上位の幅3～4m、底面の幅1m前後、深さ65cm前後を測る。平面形は内法が約5mの正方形、外法が不定形を呈する。出土遺物は少ないが、溝底付近から土師器皿、陶器類が出土し、Ac区004SDと同時期に相当する。

B区はaからc区の3分割して行った。調査区は県道127号(清須新川線)が南北方向へ延びる西側に位置する。現状は県道沿いに宅地が立ち並ぶ。現況地表面から約1.5m下に近代以降の水田が確認された。この水田造成時に戦国から近世初期の遺構面は削平

を受けていた。上位は削平を受けていたものの、井戸をはじめ溝や土坑など方位の軸線あるいは美濃路に規制された遺構群を確認した。Ba 区の井戸 026SE は結桶の井戸側が残存していた。これらの遺構はいずれも後期城下町期に相当し、街道沿いに展開した町屋の一角と思われる。

(永井宏幸)



23A 区全体図



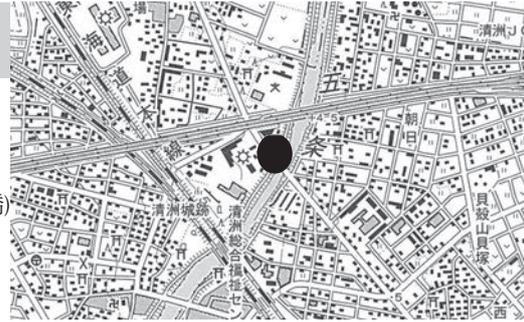
23Ac 区より西を望む (東から)



23Ba 区井戸 026SE 井戸側出土状況 (北西から)

きよすじょうかまち
清洲城下町遺跡(本発掘調査B)

所在地 清須市一場地内
(北緯35度13分8秒 東経136度50分38秒)
調査理由 橋梁整備工事・総合治水対策特定河川工事
(防災安全・緊急対策)(主)名古屋祖父江線(清洲橋)
調査期間 令和6年1月～3月
調査面積 300㎡
担当者 樋上昇・田中良



調査地点(1/2.5万「清洲」)

調査の経過 調査は、愛知県建設局道路建設課(尾張建設事務所)による橋梁整備工事総合治水対策特定河川工事(防災安全・緊急対策)(主)名古屋祖父江線(清洲橋)に伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じた委託事業として実施した。調査区は、2000年度調査区00B区に隣接した北側にあたり、調査面積は300㎡の2面調査である。

立地と環境 遺跡は、清須市中央部を流れる五条川兩岸の自然堤防状の微高地とその後背湿地に広がる遺跡で、今回の調査区(23C区)は清須城天守台跡の北にある北曲輪(北の丸)にあたる。

調査の概要 今回の調査では、戦国時代から江戸時代にかけての遺構と出土遺物が確認された。戦国時代から江戸時代前期初頭では、瓦や陶磁器を含む整地層が検出され、同層を掘り込むかたちで多量の瓦を含む瓦溜まり(005SX)や、陶器や内耳鍋を含む廃棄土坑(001SK)などの遺構が検出されている。

さらに、上記の整地層とそれに伴う遺構群の下層には、00B区から伸びる石垣が23C区内にも続くことが確認された。当該地点が絵図などから推測される北曲輪に相当し、櫓状建物の石垣の可能性もある。また、石垣の下層には16世紀の遺物を含む包含層があり、ここからもさらなる遺物の出土が期待される。
(田中 良)



1面目調査区全景(南から)

なごやじょうさん まる
名古屋城三の丸遺跡 (本発掘調査B)

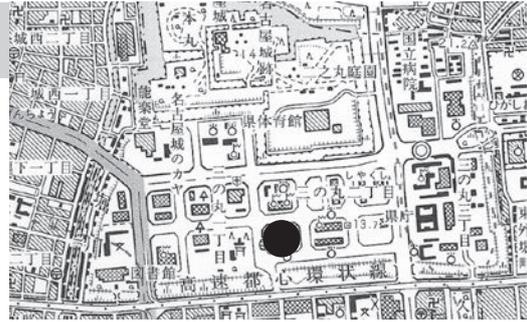
所在地 名古屋市中区三の丸2丁目6-2
(北緯35度10分46秒 東経136度54分05秒)

調査理由 名古屋第4地方合同庁舎整備事業

調査期間 令和5年5月～8月、令和6年1月～3月

調査面積 4,463㎡

担当者 永井宏幸・武部真木・梶田真由

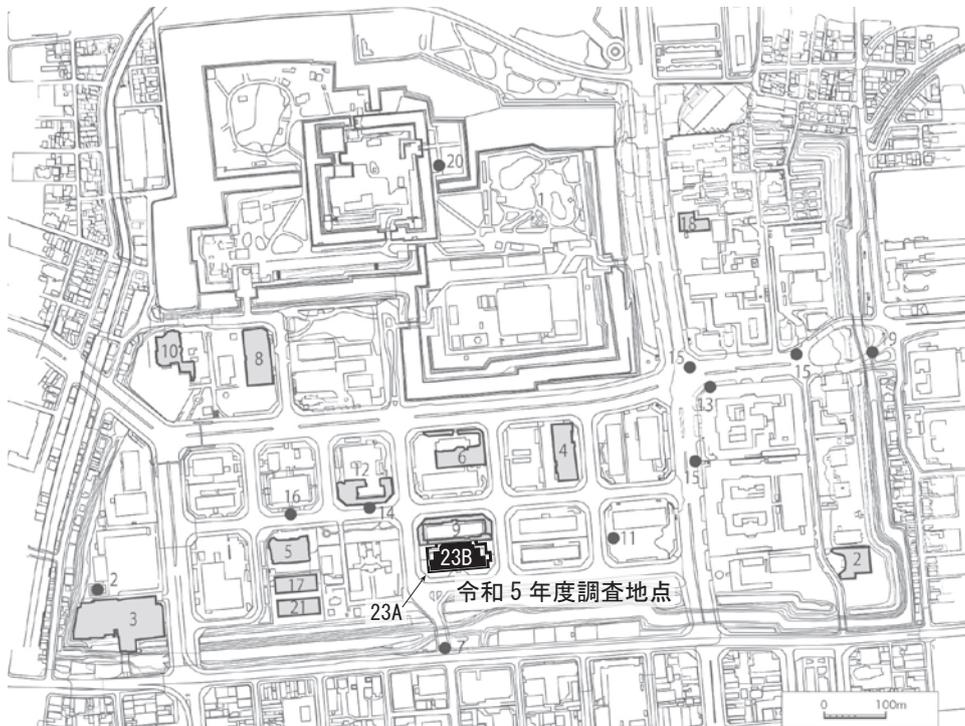


調査地点 (1/2.5万「名古屋北部」)

調査の経過 調査は、名古屋第4地方合同庁舎整備事業に伴い国土交通省中部地方整備局から愛知県県民文化局を通じた委託事業として実施した。調査対象地は、旧庁舎建物の周囲で北側中央付近を除く範囲のA区 (1,463㎡) と、建物跡の範囲のB区 (3,000㎡) である。まずA区の調査を令和5年5月～8月の期間で実施し、その後、建物基礎など構造物の撤去工事の進捗に合わせて、令和6年1月～3月の期間でB区の調査を行った。

立地と環境 遺跡は名古屋台地の北西端付近に立地する。名古屋城築造時に本丸・二の丸の南側に配置された三の丸の範囲が遺跡とされている。これまでに20カ所を超える調査が行われ、尾張藩上級藩士の屋敷地に関わる江戸時代の痕跡ばかりでなく、旧石器時代から戦国期までの遺構・遺物、近・現代の旧陸軍関連施設の痕跡が検出されている複合遺跡である。

調査の概要 表土、近・現代の整地土層 (攪乱) を除去し、江戸時代の包含層が確認されたAa区とAb区北側については上・下面で調査を行った。Ab区南側、Ac,Ad区では攪乱を除去して黄灰色粘土質土の基盤層 (熱田層) を検出面とした。A区上面検出面が標高12m前後であるのに対して、B区での検出面標高は8.5m前後であり、熱田層の砂層および黄白色の粘土層中で井戸と大型の溝を確認した。



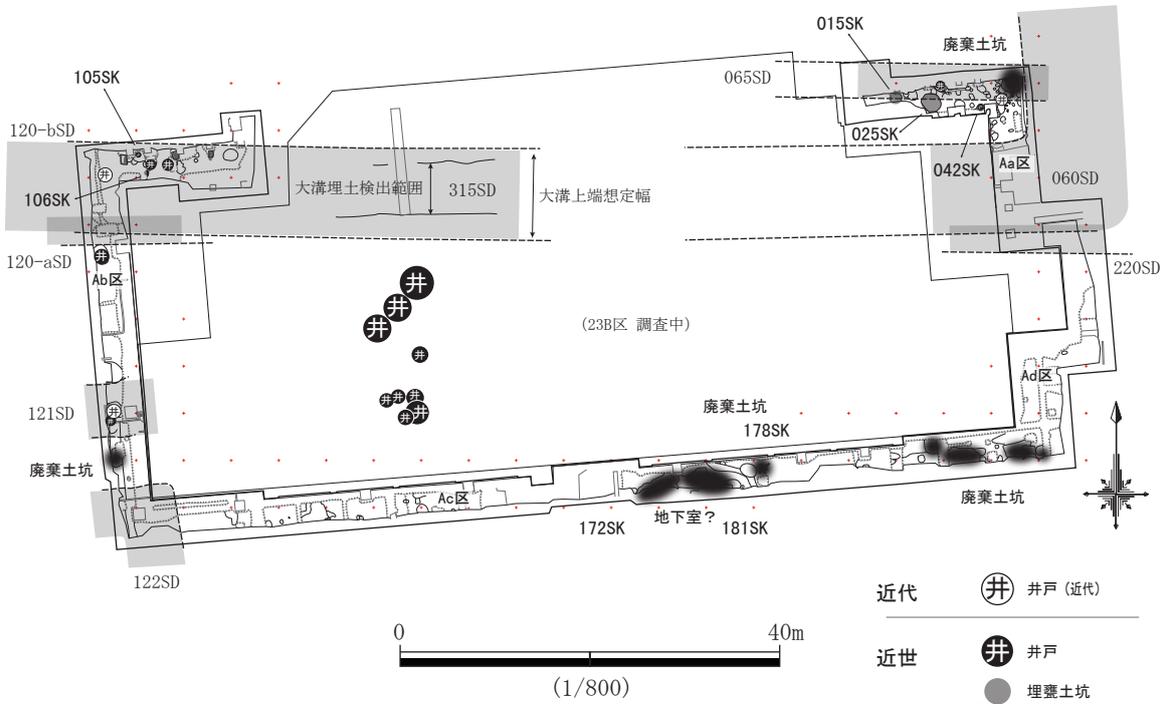
調査地点位置図 (数字のあるものは過去の調査地点)



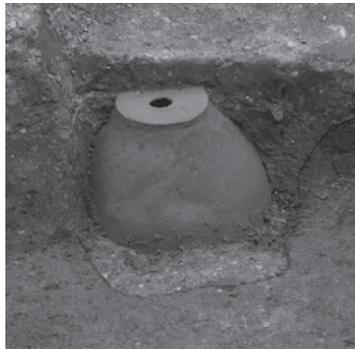
Aa区全景 (写真上が北)



埋甕遺構025SK上部構造 (北から)



水琴窟015SK断面 (西から)



埋甕遺構042SK検出状況 (北から)

23A・B区主要遺構配置図 (縮尺1/800)

検出された主な遺構には、戦国時代の溝7地点、近世の井戸5基、埋甕遺構5基、池状遺構、廃棄土坑多数、近・現代の井戸2基がある。

戦国期 戦国期の溝はV字状の断面となる薬研堀のタイプが、少なくとも5か所で認められた。065SD・121SD・122SD・120-aSD・220SDは、これまでの調査事例によれば規模が深さ2.5m前後となる方形屋敷地の区画溝と推定される。これらとは別にAa区で確認された060SDは、北側に隣接する旧調査地点から延びる深さが5m前後となる大型の溝(堀)であり、今回の調査範囲東端で西へ屈曲することが明らかとなった。西側のAb区では120SDが検出され、別の溝の重複があるものの上端で幅12m前後となる。B区の調査ではこの大型の溝(堀)の下部(315SD)を検出し、最深部の標高は7.5m前後であった。調査区を東西に横断する巨大な区画溝は北側から短期間で埋められた状況が埋土断面から看取され、北側に土塁が存在したと考えられる。また、断面V字状の溝(120-aSD・220SD)より新しいことを確認した。

江戸時代 絵図によると、今回の調査地点は南辺に門をもつ武家屋敷の屋敷裏に相当する範囲であり、屋敷地を東西に分ける境界がB区中央付近に想定される。東側の屋敷地の遺構は、Aa区を中心に井戸筒を漆喰で作る井戸1基、土坑内に18～19世紀の常滑窯産甕を天地逆にして据えた埋甕遺構3基(015SK・025SK・042SK)、Aa区の廃棄土坑(001SK・002SK)と廃棄土坑に転用された大型の地下室、南側Ac区、Ad区の大型の廃棄土坑(172SK・181SK)などがある。埋甕遺構のうち025SKは景石を配した漆喰の導水部分と水門、5個の玉石が置かれた上部構造をもち、水門から繋がる植木鉢や常滑窯産甕が埋設された下部構造とセットで確認された。015SKでは甕の内側にさらに湛水を意図した下部構造が検出されており、排水時の反響音を楽しむための「水琴窟」であった可能性が考えられる。埋甕遺構にも用いられているが、周辺の廃棄土坑からも様々なサイズの植木鉢が多数出土している。

西側の屋敷地で見つかった遺構は、常滑窯産の井戸筒を数段重ねて井戸側にした大型の井戸2基(102SE・104SE)、他に2基の井戸と埋甕遺構が2基(105SK・106SK)、廃棄土坑1基がある。このほか、Ab区北西部には人為的に施された白色粘土層が分布する範囲があり、屋敷内に設けられた庭園の池底の痕跡の可能性が考えられる。

近・現代 近代陸軍関連の施設と思われる建物煉瓦基礎、井戸側を明褐色の漆喰でつくる井戸などが確認された。

まとめ 戦国時代那古野城の時期の遺構はこれまでも注目され、方位・規模などから先後関係やその性格について検討が加えられてきた。今回確認された060SD・120SDと315SDから復元される突出した規模の遺構は、過去の調査において北側に隣接する三の丸庁舎地点と西へ170mほど離れた簡易家庭裁判所地点で確認されており、それぞれ西側と北側に土塁が想定されている。那古野城の時期の中心域の南限を画する施設であるのか、重要な資料を新たに加えることとなった。

三之丸武家屋敷のうちでも本町門に近い今回の調査地点は、重臣クラスの広大な屋敷地が立ち並ぶ一画であった。西側の屋敷地は家老職を代々勤めた渡辺家が近世を通じて居住し、埋甕遺構が複数設けられていた東側の屋敷地は、18世紀後半から幕末まで横井家が居住したとされる。これまでの調査事例から、屋敷裏は日常的あるいは引越しの際の廃棄土坑が設けられる空間との認識であったが、必ずしも一様ではなく、重臣屋敷地においては庭園を設けたり、当時流行した園芸趣味のスペースであったりと、階層等により空間の利用状況が異なることが明らかとなった。

(武部真木)



Ab区遠景 (東から、奥は護国神社)



102SEの井戸筒 (東から)



土坑181SK上層 遺物出土状況 (北西から)



土坑178SK遺物出土状況 (北西から)



戦国期溝065SD完掘状況 (東から)



戦国期溝122SD断面 (北西から)



戦国期溝120SD上部断面 (東から)



戦国期溝120SD下層断面 (東から)

よせしま
寄島遺跡 (本発掘調査B)

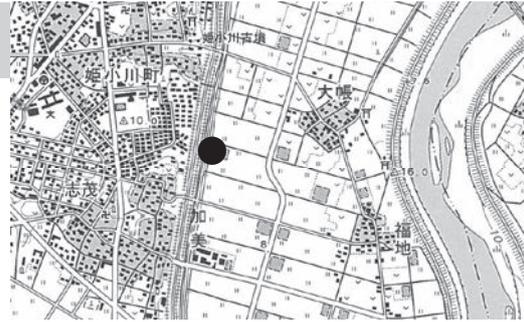
所在地 安城市小川町地内
(北緯34度54分42秒 東経137度05分46秒)

調査理由 中小河川改良事業(一級河川鹿乗川)

調査期間 令和5年5月～6月

調査面積 860㎡

担当者 堀木真美子・河嶋優輝・池本正明



調査地点 (1/2.5万「安城」・「西尾」)

調査の経過 調査は、愛知県建設局による鹿乗川改修工事に伴う事前調査として、愛知県民文化局を通じて委託を受けて行った。調査区は鹿乗川左岸の市道となるが、横断する農道と排水路を切り回す都合上、5区に分割して実施した。南から順に23A区～23E区となる。

立地と環境 遺跡は鹿乗川流域遺跡群(南群)の一部を構成している。地形的には碧海台地東側縁辺に位置する沖積低地中の微高地となり、調査区地表面の標高は約8.3mを測る。

調査の概要 今回の調査は、平成24年度調査区12A・B区の西側に接する位置となる。いずれの調査区も市道下の細長い形状となる。検出された遺構は、弥生時代終末期～古墳時代に属するものが主体となる。調査区の幅が限定されており詳細は不明確だが、A～D区では竪穴建物が6棟程度存在する見込みとなる。また、最も北側のE区は、調査区のほとんどが旧河道となり、方向的には台地を開析する小河川の可能性が考えられる。ここからは中世以降の遺物を若干採集している。(池本正明)



23B・C・E区全景 (北から)



23B区1020SI (北から)



C区2015SP出土状況 (北から)



23E区旧河道 (北から)

むかいだ
向田遺跡 (本発掘調査B)

所在地 安城市東町秋葉下
(北緯34度55分06秒 東経137度05分52秒)

調査理由 中小河川改良事業(一級鹿乗川)

調査期間 令和5年12月

調査面積 55㎡

担当者 堀木真美子・河嶋優輝・池本正明



調査の経過 調査は愛知県建設局河川課による中小河川改良事業(一級河川鹿乗川)に伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じた委託事業として実施した。調査面積は55㎡である。本遺跡ではこれまで平成29年度・令和元年度・同4年度に本発掘調査Bを実施し、今回で4度目となる。今年度は令和4年度調査区の北側に隣接する地点で調査を行った。

立地と環境 遺跡は矢作川下流域の鹿乗川左岸の沖積地に立地する。北には鹿乗川流域遺跡群の北群、南には向田遺跡を含む南群が広がり、西方の碧海台地上には桜井古墳群が展開する。今年度調査区の南方で行った平成29年度調査では中近世・古墳時代初頭～前期の2時期の遺構面が確認され、完形の甕が出土する土坑などが確認されているものの、今年度調査区の東に隣接する令和元年度調査区、および南に隣接する令和4年度調査区では遺構が確認されておらず、沼地や河道であったと推測されている。

調査の概要 調査区南半には現代の盛土がなされており、その下には現代の堆積層が確認される。地表面下約0.8m、標高約7.3mで灰色砂質シルトの基盤層が確認され、更に0.1～0.3mほど掘り下げると灰色極細粒砂の堆積が変わる。

地表面から基盤層の間に遺物包含層は確認できなかった。基盤層上面で遺構は検出できず、調査区西側に時期不定の畦畔と思われる堆積が見られるのみである。調査区西側に方形の掘り込み、中央部に隅丸方形の掘り込み2基、東側に深い落ち込みがあったが、プラスチックごみの出土や層序から、全て近現代の攪乱と考えられる。また、基盤層に2m×2mのトレンチを設定し下層確認を行ったが、遺構・遺物は確認できなかった。

遺物は、攪乱土中から土器または土師器および山茶碗、近世陶器の細片が出土した。

まとめ 今年度調査区の範囲では遺構は確認できなかった。基盤層に関しては、遺物が出土しないため時期は不明であるものの、南に隣接する令和4年度調査区と同様、河川による堆積と考えられる。
(河嶋優輝)

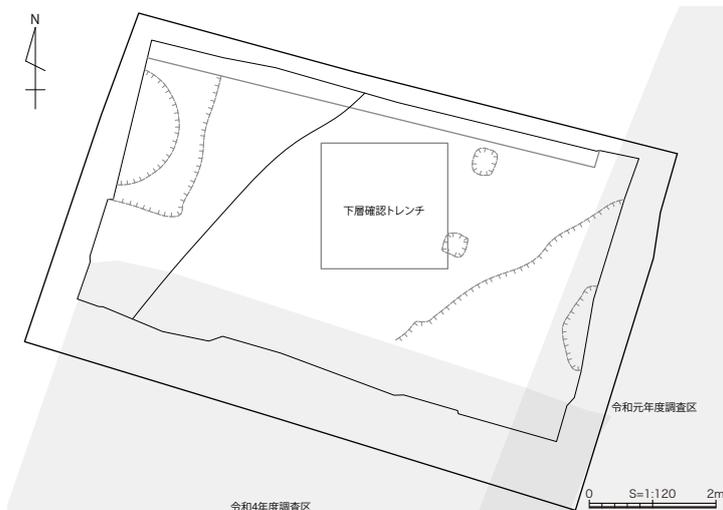


図1 調査区平面図 S=1/120

かめづか
亀塚遺跡 (本発掘調査B)

所在地 安城市桜井町地内
 (北緯34度55分16秒 東経137度05分56秒)

調査理由 中小河川改良事業(一級鹿乗川)

調査期間 令和5年6月～令和6年2月

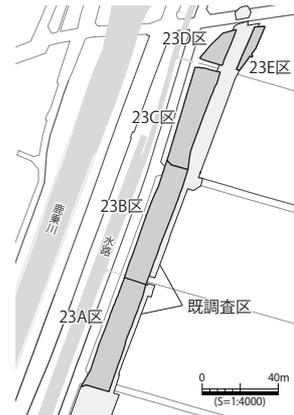
調査面積 2,605㎡

担当者 堀木真美子・河嶋優輝・池本正明



調査地点(1/2.5万「安城」)

調査の経過 調査は愛知県建設局河川課による中小河川改良事業(一級鹿乗川)に伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じた委託事業として実施した。本遺跡では1970年代に安城市による発掘調査が行われたほか、平成28年度以降、愛知県埋蔵文化財センターが断続的に本発掘調査Bを実施しており、今年度で5度目となる。今年度は、大橋南東から2016年度調査区の北端まで、現市道部の東に隣接する帯状の範囲を主に調査した。調査区は南から23A～23E区に区分し、23A区はAa～Ac区、23B区はBa～Bc区、23C区はCa・Cb区に細分した。調査面積は計2,775㎡である。



23年度調査区配置図
 S=1/4000

立地と環境 遺跡は碧海台地東縁部から沖積地に広がる鹿乗川流域遺跡群の一部であり、遺跡群の北群の南端部に位置する。

調査の概要 23A区では、南部で東西方向の旧流路00003NRを確認した。これは東に隣接する19区や西方で実施された安城市第一次調査でも確認されていたもので、深さは1m以上、幅は約15mを測る。弥生時代後期から古墳時代前期の遺物を多量に包含する。出土遺物は土器、木製品があり、土器には甕、壺、高坏、器台、鉢、浅鉢、ミニチュア土器、土玉、手焙型土器がある。木製品には杭、又楯、掘立柱建物部材、竪杵、竪櫛などがあり、流路の南側斜面では杭列も確認された。

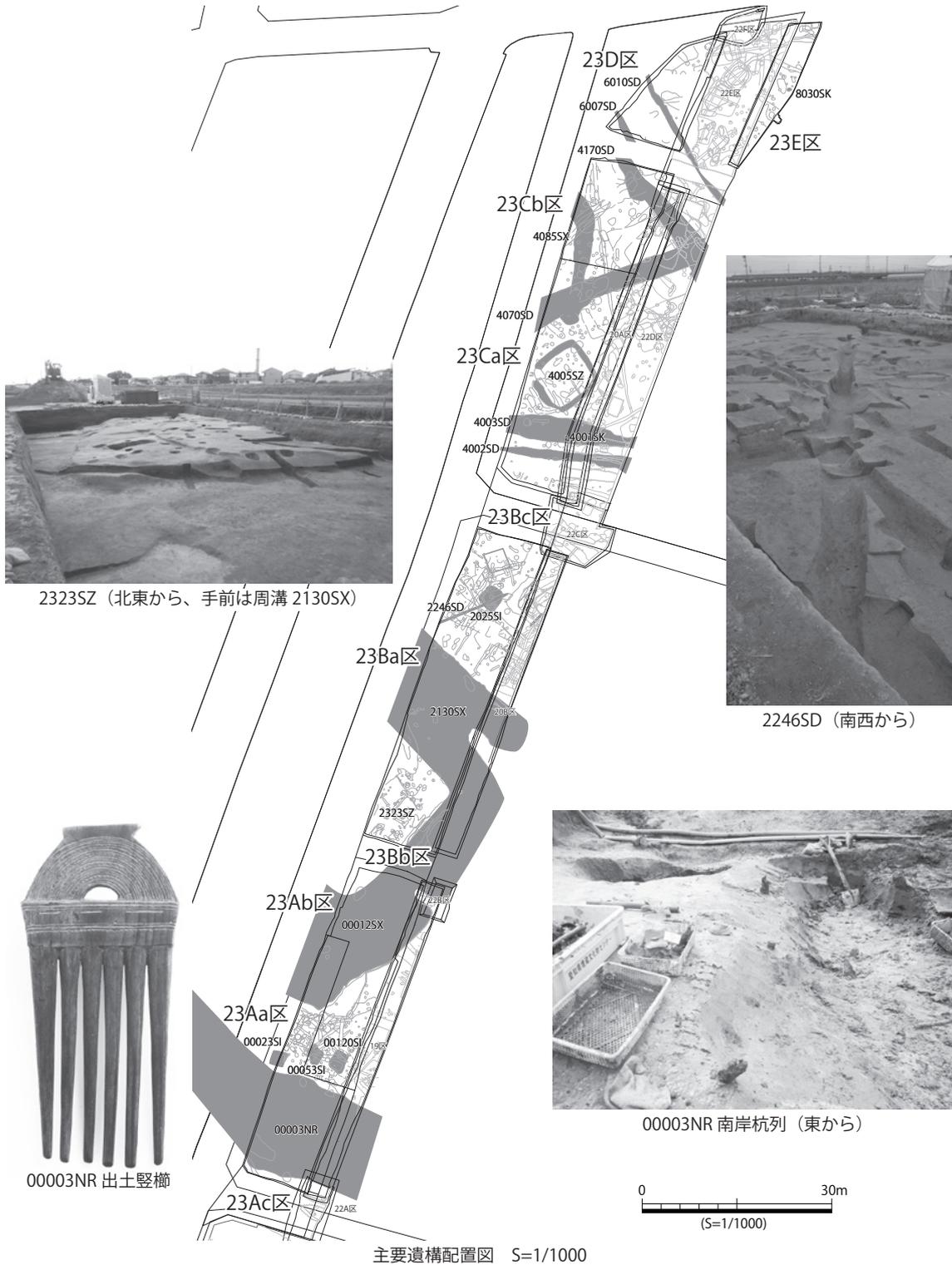
00003NRの北側、23A区中央部では竪穴状遺構3基および無数の土坑、溝を検出した。出土遺物は弥生時代末期から古墳時代初頭を中心とし、古墳時代前期の遺物は00003NRの北岸より北では確認されていない。竪穴状遺構では明瞭な柱穴が確認できなかったため、住居とは断定できないが、生活空間であったものと推定される。

竪櫛 00003NR出土竪櫛は長さ約109mm、幅約50mm、厚さ約6mmで、板材から削り出したものである。ムネ部の一端が欠ける以外は完存する。ムネ部の線刻は、歯を束ねて製作する結歯式竪櫛を模したものであり、線刻部や凹部には赤色顔料が遺存する。顔料は蛍光X線分析により水銀朱であることが確認されている。

23B区 23B区の北側では23A区中央部と同様に竪穴状遺構と土坑、溝が展開するほか、掘立柱建物跡も確認される。23A区同様に竪穴状遺構では柱穴を確認できなかった。出土遺物は弥生時代後期から古墳時代初頭が中心であるが、23A区と比べて弥生時代後期に属すると思われるものが多く、弥生時代中期に遡る遺物がまとまって出土する遺構が数基(2246SD等)存在する。

大型方形周溝墓 23A区北側から23B区南側にかけては、00012SX(23A区側)、2130SX(23B区側)と呼称

する溝状の遺構があり、23A区で外側、23B区で内側の屈曲部が確認され、コの字状を呈する。中央には基盤層を掘り残した高まりがあり、その上部には盛土層らしきものも認められる。23A区側は攪乱により明確でないものの、大溝を周溝、中央部の高まりを墳丘部と考え、方形周溝墓2323SZと呼称する。規模は周溝幅が北東側約13.3m、南西側約12.0m、南東側約9.9m、墳丘の北東-南西軸の想定長が約31.5mで、周溝の両端間長が約56.8mとなる。帰属時期は周溝出土遺物から弥生時代後期～終末期と推定される。(河嶋優輝)



2 3 C 区 23C区は、北側で幅6.0m以上の4070SD、北東隅では幅5.0mとなる4120SDが検出された。これらの溝は、23C区の東側に位置する。いずれも埋土中からは12世紀代の山茶碗類が散見できるが、これに前後する土器類も出土しており、帰属時期は若干の検討を要する。

4070SDと重複する4085SXは、幅2m程度の溝状の遺構だが、南端部は不整形となっている。埋土中からは弥生時代中期後葉の土器類がややまとまって出土している。

中央部では方形周溝墓4005SZが検出された。規模は一辺約7.0～7.5m程度で、主軸は45度程度東西に偏する。南東部には幅約1.0m程度の陸橋部を有する。北東溝と南西溝のほぼ中央からほぼ全形を残す弥生時代後期の高杯が出土している。

南側では中世以降となる4003SDと4002SDが、主軸を東西方向に向けて、ほぼ並行して展開する。なお、前者の基底部から検出された4001SKからは、遠賀川系土器の壺の大型破片も出土している。

2 3 D 区 23D区は、C区で確認された4120SDに連続すると思われる6007SDを、南西隅で検出している。埋土や出土遺物は4120SDと類似する。

中央には大規模なドーナツ状の攪乱が存在する。平成10年度に埋文センターが実施した、鉄塔の移設に先立つ発掘調査に関連する旧鉄塔の撤去痕と思われる。遺構検出面が残存する中央部分では、6007SDと主軸が一致する幅0.8m程度の6010SDを確認するが、出土遺物も乏しく詳細は不明となる。なお、22D区と22E区からは6010SDに連続すると思われる溝が検出されている。

2 3 E 区 23E区は、22E区、22F区の西側となる細長い調査区となる。中央部から検出された8030SKは、長径0.7m、短径0.5mの楕円形の土坑で、弥生時代中期後葉の太頸壺が埋設されており、土器棺墓と考えられる。太頸壺は焼成後穿孔による円窓付土器が使用され、穿孔部を上面とし、斜め方向に埋設されていた。口縁部と穿孔部には別個体の土器底部片を被せて蓋としている。なお、市道を挟んだ23E区の北側は中狭間遺跡となり、市道を挟んだ北側が22A区、その西側は23A区となるが、8030SKと近接する位置からはほぼ同時期の土器棺墓が22A区で1基、23A区で4基検出されている。このエリアには中期後葉の土器棺墓により構成される墓域が展開していた可能性も考えられる。

(池本正明)



調査区遠景 東から



23A 区 00003NR 中層の自然木堆積状況 (西から)



23Ba 区全景（上が西北西）



23Cb 区全景（南から）



23Cb 区 4050SZ（南から）



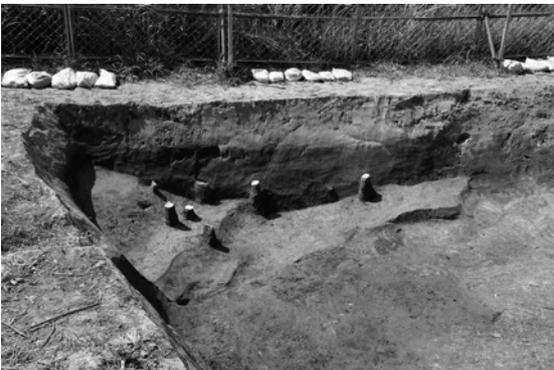
23Cb 区 4050SZ 出土状況 1（北から）



23Cb 区 4050SZ 出土状況 2（南から）



23E 区 8003SK 上面（南から）



23D 区 6007SD（東から）



23E 区 8003SK 下面（南から）

なかほざま
中狭間遺跡(本発掘調査B)

所在地 安城市桜井町・川島町地内
(北緯34度55分05秒 東経137度05分53秒)

調査理由 中小河川改良事業(一級河川鹿乗川)

調査期間 令和5年9月～令和6年1月

調査面積 1,550㎡

担当者 堀木真美子・河嶋優輝・池本正明



調査の経過 調査は愛知県建設部による鹿乗川改修工事伴う事前調査として、愛知県民文化局を通じた委託を受けて行った。調査区は横断する農道と排水路を切り回す都合上、南から順に、23A区～23C区として設定された。

立地と環境 遺跡は鹿乗川流域遺跡群(北群)の一部を構成し、亀塚遺跡の北側に接する。地形的には碧海台地東側縁辺に位置する沖積低地中の微高地で、地表面の標高は約8.3mである。

調査の概要 本年度の調査区は、昨年度の調査区の西側に接する。検出された遺構は弥生時代中期後葉～弥生時代終末期、平安～鎌倉時代にまとまりが確認できる。

23A区の主な遺構は、方形周溝墓1基と土器棺墓4基である。このうち、方形周溝墓である0131SZは、昨年度調査区で検出されている22A区131SZの西側部分に該当する。本年度の調査によりその全形を確認し、一辺約11.0mの規模となる。北側が陸橋部となり、幅は約1.5mをはかる。出土遺物は、弥生時代中期後葉と終末期に大きく二時期に区分できる。前者に構築され、後者に再構築されたものと考えられる。なお、北西溝中央部の基底部からは、弥生時代終末期の高杯数個体分の破片がまとまって出土しているが、杯部の内面に赤色顔料(水銀朱)の付着が観察できる。また、土器棺墓(0030SZ・0040SZ・0050SZ・0060SZ)は、いずれも弥生時代中期後葉で、0131SZの南側に集中する状況が確認しており、土器棺墓の分布域が限定されている可能性も指摘できる。

23B区の主な遺構は、方形周溝墓3基と溝1条となる。まず方形周溝墓から概観する。0130SZは昨年度調査区で検出されている22A区130SZの西側に該当する。本年度の調査によりその全形を確認し、一辺6m程度のやや不整形な隅丸方形となる。西側が陸橋部となり、幅は0.8m程度をはかる。新たに確認された方形周溝墓は、0141SZと0150SZで、前者は規模一辺9.0m、後者は西側が調査区外へと伸びるが、一辺は7.0m程度と思われる。次に、0133SDは、後期前葉に掘削され、3回程度掘り直されながら、終末期まで存在する溝で、幅1.5m程度となる。方形周溝墓群の中央を突き抜けて北西から南東へと伸び、北西端部は調査区外、南東は22A区を貫き調査区外へと伸びる。なお、0131SZの北東溝と、0141SZの南西溝がこれと接する。015SZに近接した位置からは、ミニチュア土器がまとまって出土しており、特徴的となっている。

23C区の主な遺構は、竪穴建物4棟を確認した。出土遺物は乏しく、いずれも時期は特定できないが、遺構の分布状況などは、東側に接する22C区と類似している。

なお、全ての調査区で幅0.4～1.0m程度の溝が10条程度確認されている。主軸は北西から南東となる。出土遺物は乏しいが、いくつかの溝から若干の山茶碗片が出土しており、おおむね平安～鎌倉時代に帰属するものと考えられる。

(池本正明)



23B区 0141SZ(南から)



23A区 0030SZ(西から)



23A区 0050SZ(南から)



主要遺構の分布 (航空写真を合成) ▶

まんぜ
万瀬遺跡(本発掘調査B)

所在地 北設楽郡設楽町川向字マンゼ
(北緯35度06分43秒 東経137度33分54秒)

調査理由 設楽ダム

調査期間 令和5年6月～8月

調査面積 500㎡

担当者 鬼頭 剛・川添和暁・荒木徳人



調査地点(1/2.5万「田口」)

調査の経過 調査は、国土交通省中部地方整備局による設楽ダム工事関連事業に伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じた委託事業である。令和5年6月から8月にかけて実施した。

立地と環境 遺跡は豊川支流の一つである境川右岸に所在し、丘陵末端の緩斜面上に立地する。今年度の調査区は県道432号小松田口線道路直下の位置にあたり、調査面積は500㎡で設定された。調査区の調査前の標高は412～415mを測る。

調査の概要 調査は中世から近世の遺構を中心とする上面、縄文時代早期前半を中心とする下面の2面に分けて行われた。

中世以降 上面では中世から近世を中心とした遺構が調査区全体に展開しており、主な遺構として、土坑墓2基、鍛冶関連の遺構が挙げられる。

3115SZは調査区の東端に位置する楕円形の土坑墓で、人骨や煙管、鉄製品、灰釉摺絵鬘甕が出土した。一方、調査区の西端に位置する隅丸方形の土坑墓3018SZでは歯や人骨、副葬品として小玉、鉄製品、寛永通宝、煙管等が出土した。3115SZと3018SZから出土した骨はどちらも焼けていないことから土葬であったことがわかる。

調査区の東端に位置する平坦面からは鍛冶関連の資料がまとまって見つかった。3081SLは、焼土を多く含む地床炉と思われる遺構である。また、3074SKと3085SKからは鉄滓が、3004SKと3109SKからは多くの炭化物が出土しており、周囲にピットなどもあることから、この平坦面は鍛冶関連の活動を盛んに行った場であったと考えられる。

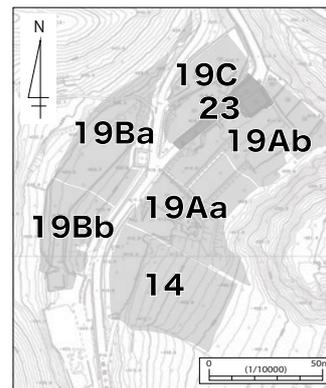
また、上面では調査区の東側から岩偶岩版類が出土した。形状は長円形、長さ4.3cm、厚さは2.2cmあり、中央に深く溝が1条、上部に6条の細い横線が刻まれている。岩偶岩版類は縄文時代のものであるが、恐らく、中世から近世の造成によって混在したと考えられる。

下面では縄文時代早期前半を主体とし、主な遺構として、竪穴建物跡や煙道付炉穴、遺物包含層が確認された。

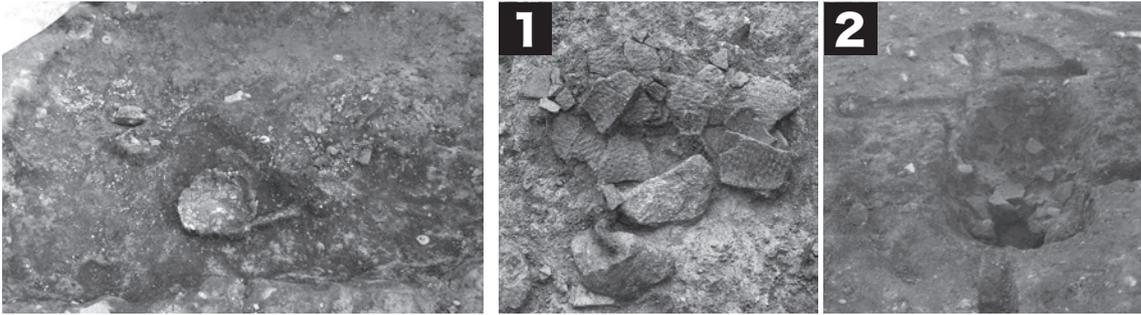
縄文時代早期前半 19C区を調査した際に今年度の調査区である23区にまで範囲が及ぶ、竪穴建物跡が5棟重複した形で確認されていた。本調査では31171SI、3118SI、3135SI、31150SI、計4棟の竪穴建物跡が確認された。

3147SKの煙道付炉穴内には石器、押型文土器や撚糸文土器の土器片が形状がわかる状態で出土した。炉穴内の埋土は二層になっていることから、複数回にわたって何度も使用していたことが考えられる。

(荒木徳人)

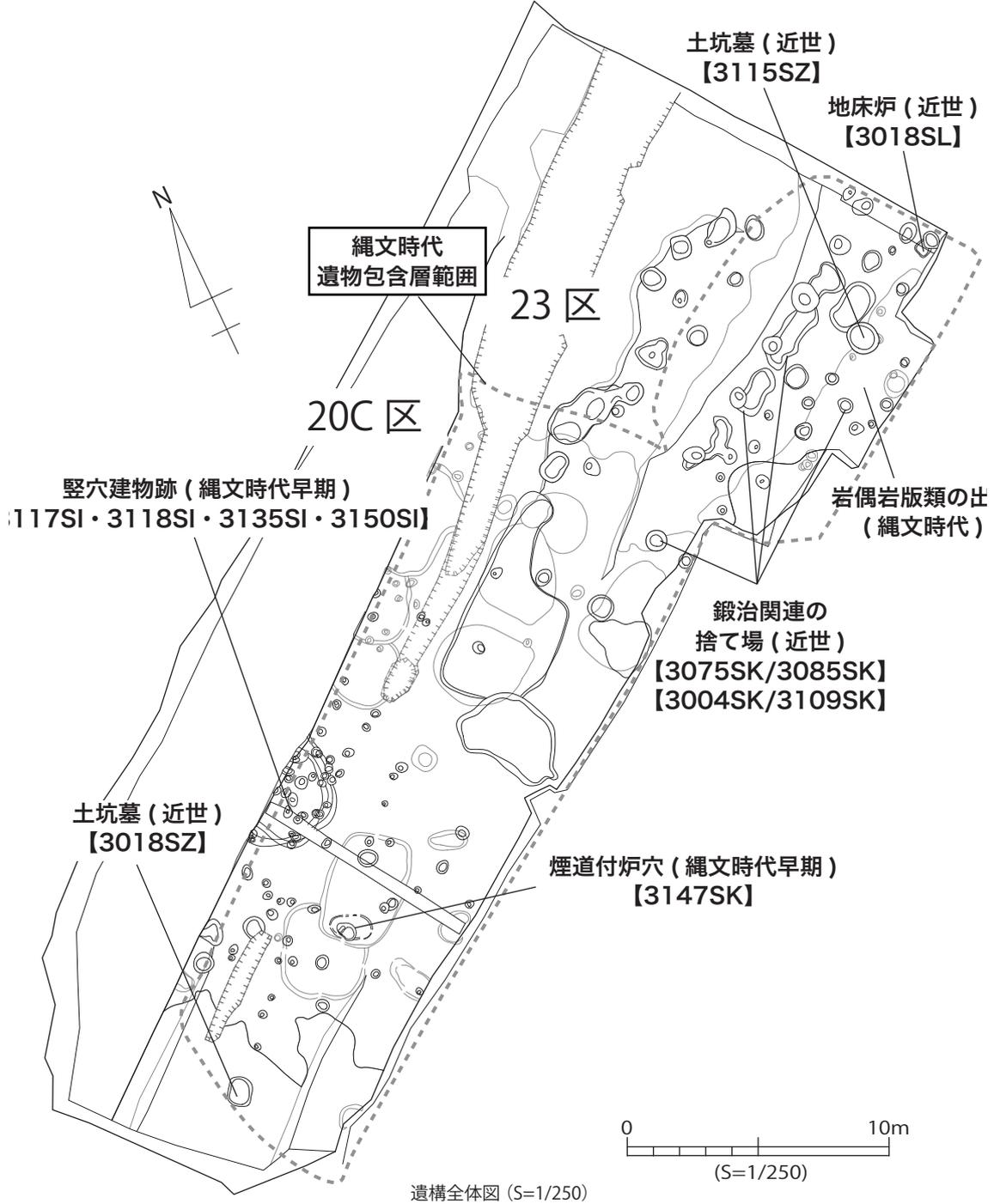


調査区位置図



3018SZ 土坑墓 (南から)

3147SK 煙道付炉穴 1. 遺物の出土状況 (北から) 2. 全体図 (西から)



遺構全体図 (S=1/250)

かみおろう しもおろう
上ヲロウ・下ヲロウ遺跡(本発掘調査B)

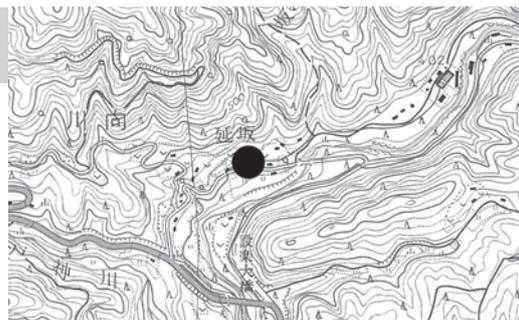
所在地 北設楽郡設楽町川向地内
(北緯35度06分51秒 東経137度34分05秒)

調査理由 設楽ダム

調査期間 令和5年5月～7月

調査面積 580㎡

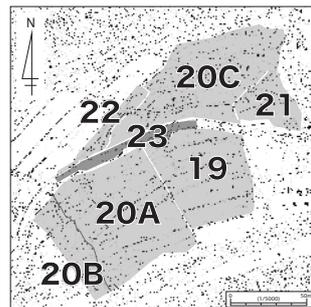
担当者 鬼頭剛・川添和暁・荒木徳人



調査地点(1/2.5万「田口」)

調査の経過 調査は国土交通省中部地方整備局による設楽ダムに伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じた委託事業として令和5年5月から令和5年7月にかけて実施した。

立地と環境 遺跡は、境川北岸の緩斜面上に立地する。当地には、斜面上方北側から幾筋もの沢が流れ込んでおり、緩斜面は度重なる扇状地堆積(土石流堆積)の累積によって形成されている。今年度の調査区は県道432号小松田口線道路直下に位置し、調査面積は580㎡で設定された。調査区の調査前の標高は、396～403mを測る。



調査区位置図

調査の概要 調査区の東端は20C区および19区でも確認されている谷地形がのびており、調査区の西側に向かうにつれて、地形の高まりが確認された。本調査区では谷地形より西側にかけて中世から近世の遺構が展開しており、主な遺構として土坑墓2基、建物跡、道状遺構、柵列跡4条が挙げられる。

土坑墓 6006SZは楕円形の土坑墓であり、埋土は土坑墓の底面から粘土質の土壌の上に径10cm程度の礫が埋め込まれている状態であった。6006SZの底面付近から寛永通宝、煙管、銅鏡、毛抜き等の鉄製品、繊維製品、灰釉摺絵鬘盥が出土した。銅鏡の裏面には流水紋と江戸時代の鏡師である藤原の銘が施されていた。灰釉摺絵鬘盥は扁平な筒状の形状をし、表面には摺絵で紋様が施されており、瀬戸美濃窯産のものであると考えられる。

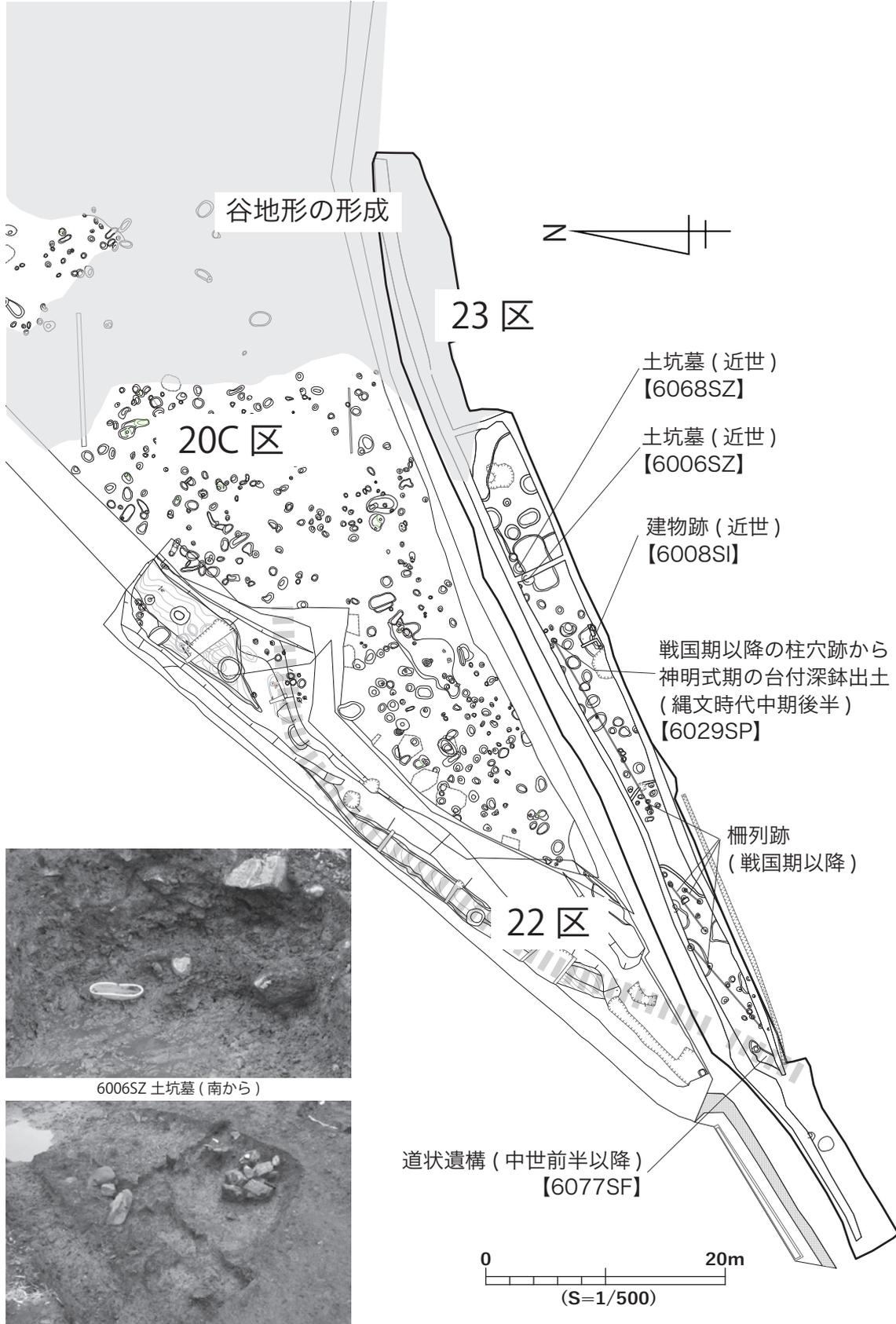
6006SZ に隣接した場所に位置する6068SZは近世以降の整地や耕作により、土坑墓の一部が消失していたが、残存している形状から楕円形であると考えられる。この土坑墓の底部からは寛永通宝、鉄釉丸碗が出土した。鉄釉丸碗はほとんど完品の状態で出土しており、高台部以外にはツケガケが施されている。

道状遺構 調査区の西側では中世前半以降の道状遺構に伴う整地層6077SFが带状に残存しており、22年度調査区の道状遺構と繋がるように展開していた。

建物跡 6008SI内では建物跡と思われる落ち込みが重複した形で確認された。遺物は近世の播鉢片や鍋片、被熱を受けた金床石が出土しており、これらの遺構は近世の段階で鍛冶関連の作業場として使われていたものと思われる、建物も重複した建て替えが行われていたと考えられる。

神明式期 台付深鉢 また、6029SPから縄文時代中期後半の神明式期の台付深鉢の台部分が出土した。遺構の年代は戦国期以降のものであるが、20年度調査C区でも縄文時代中期後半の活動痕跡があることから紛れ込んだものであると考えられる。

(荒木徳人)



調査区全体図 (S=1/500)

しものべさか
下延坂遺跡(本発掘調査B)

所在地 北設楽郡設楽町川向字上延坂・下延坂
(北緯35度06分58秒 東経137度34分28秒)

調査理由 設楽ダム

調査期間 令和5年9月～10月

調査面積 920㎡

担当者 鬼頭 剛・川添和暁・荒木徳人



調査地点(1/2.5万「田口」)

調査の経過 調査は国土交通省中部地方整備局による設楽ダム工事関連事業に伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じて委託を受け、令和5年9月から10月にかけて実施した。調査面積は920㎡で、調査対象地は町道79号道路敷に当たり、調査区は北から順に、23Aa区、23Ab区、23Ac区、23Ba区、23Bb区の5か所を設定した。

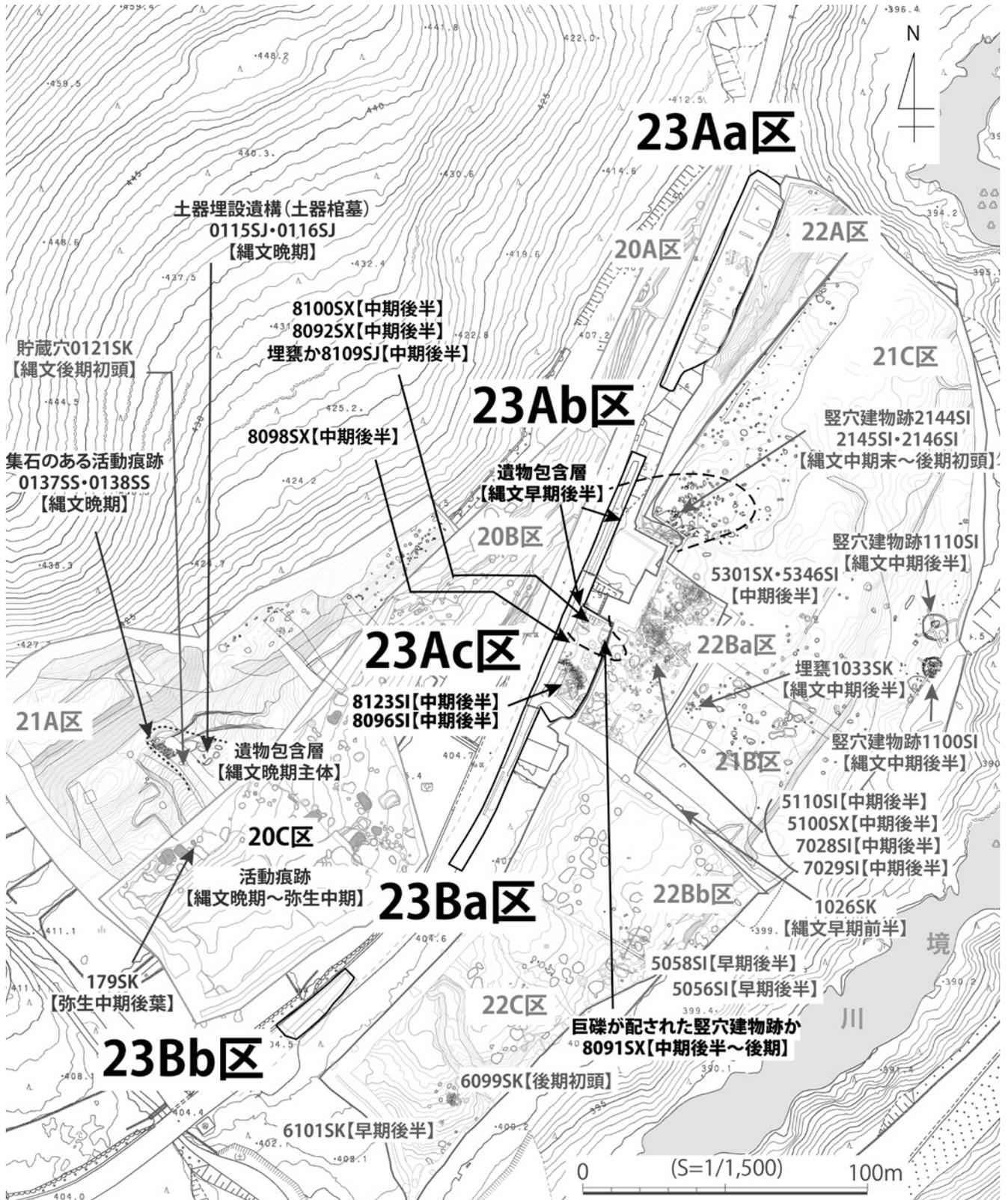
立地と環境 下延坂遺跡は境川右岸の河岸段丘から山麓の丘陵斜面に立地する遺跡である。町道79号は遺跡範囲中央を北東から南西に向かって貫く形となっており、北西から南東方向へと境川に向かって傾斜する地形の変換点に当たる。かつての調査区の位置関係は、以下の通りである。23Aa区は20A区および22A区の間、23Ab区は20B区と21C区の間、23Ac区は20B区と22Ba区の間位置する。また23Ba区は20C区と22Bb区の間、23Bb区は20C区と22C区との間に位置する。

調査の概要 基本層序は23Ac区西壁の土層断面情報が参考になる。上からI層：表土・盛土・灰褐色粘土(道路整地層、旧耕作土1、120cm)【近代以降】、II層：灰褐色粘土(旧耕作土2、80cm)【近世】、III層：灰褐色粘土(旧耕作土3、40～60cm)【戦国期～近世】、IV層：黒褐色粘土(遺物包含層、60cm)【縄文時代中期～中世】、V層：茶褐色の砂礫層(土石流堆積層、20cm)【縄文時代前期か】、VI層：灰褐色粘土質シルト層(水成堆積層・遺物包含層、20cm)【縄文時代早期後半】、VII層：一部砂礫を含む黄褐色粘土・シルト層、である。地形は、23A区から23Ab区に向かって傾斜している一方、23Ba区ではV層の堆積が厚くなり、地形的高まりが形成されていた。各調査区の調査成果は、下表の通りである。

項目	調査区	23Aa区	23Ab区	23Ac区	23Ba区	23Bb区
堆積層	I	○	○	○	○	○
	II	○	○	○	○	○
	III	○	○	○	○	×
	IV	×	?	○	×	×
	V	○	○	○	○	○
	VI	×	○	○	確認できず	確認できず
	VII	○	○	○	確認できず	確認できず
検出遺構		耕作地	耕作地	耕作地・竪穴建物跡4・土坑・ピット	耕作地	谷地形・耕作地
出土遺物		弥生土器片	縄文土器・石器	縄文土器・石器	縄文土器・石器	縄文土器

最も良好に保存されていた23Ac区では、II層上面、III層上面、IV～V層上面で調査を実施し、最後にVI層の範囲を確認した。V層上面では、縄文時代中期後半に属する竪穴建物跡を4基調査した。本調査区内では炉石が残された状態での石囲炉跡は検出されなかった。8091SXでは、掘り方隅で一列に配された巨石群を検出した。竪穴建物跡の構造の一部であったと考えられる。

(川添和暁)



下延坂遺跡 調査区全体図



23Bb区 全景(南から)



23Ba区南半分 (南から)



23Ac区近世耕作地 全景(北から)



23Ac区戦国期～近世耕作地 全景(北から)



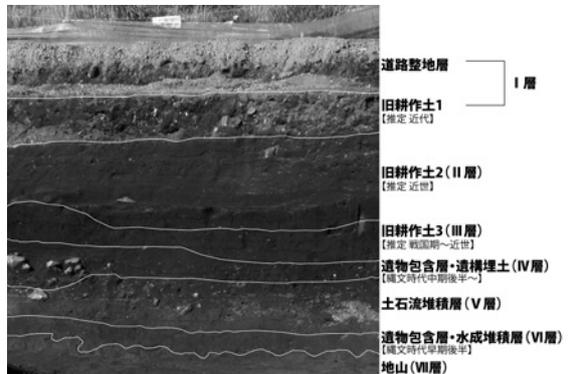
23Ac区 縄文時代遺構全景(上が西)



23Ac区 8091SX(南から)



23Ac区 8123SI(北から)



23Ac区西壁 土層断面

ねみちそといせき
根道外遺跡(本発掘調査B)

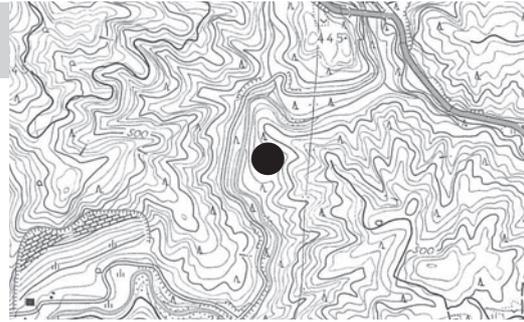
所在地 北設楽郡設楽町八橋字根道外
(北緯35度07分23秒 東経137度34分42秒)

調査理由 設楽ダム

調査期間 令和5年11月～令和6年1月

調査面積 825㎡

担当者 鬼頭 剛・川添和暁・荒木徳人



調査地点(1/2.5万「田口」)

調査の経過 調査は国土交通省中部地方整備局による設楽ダム工事関連事業に伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じた委託を受け、令和5年11月から令和6年1月にかけて実施した。調査面積は825㎡で、調査対象地は遺跡範囲の南西側に設定された。

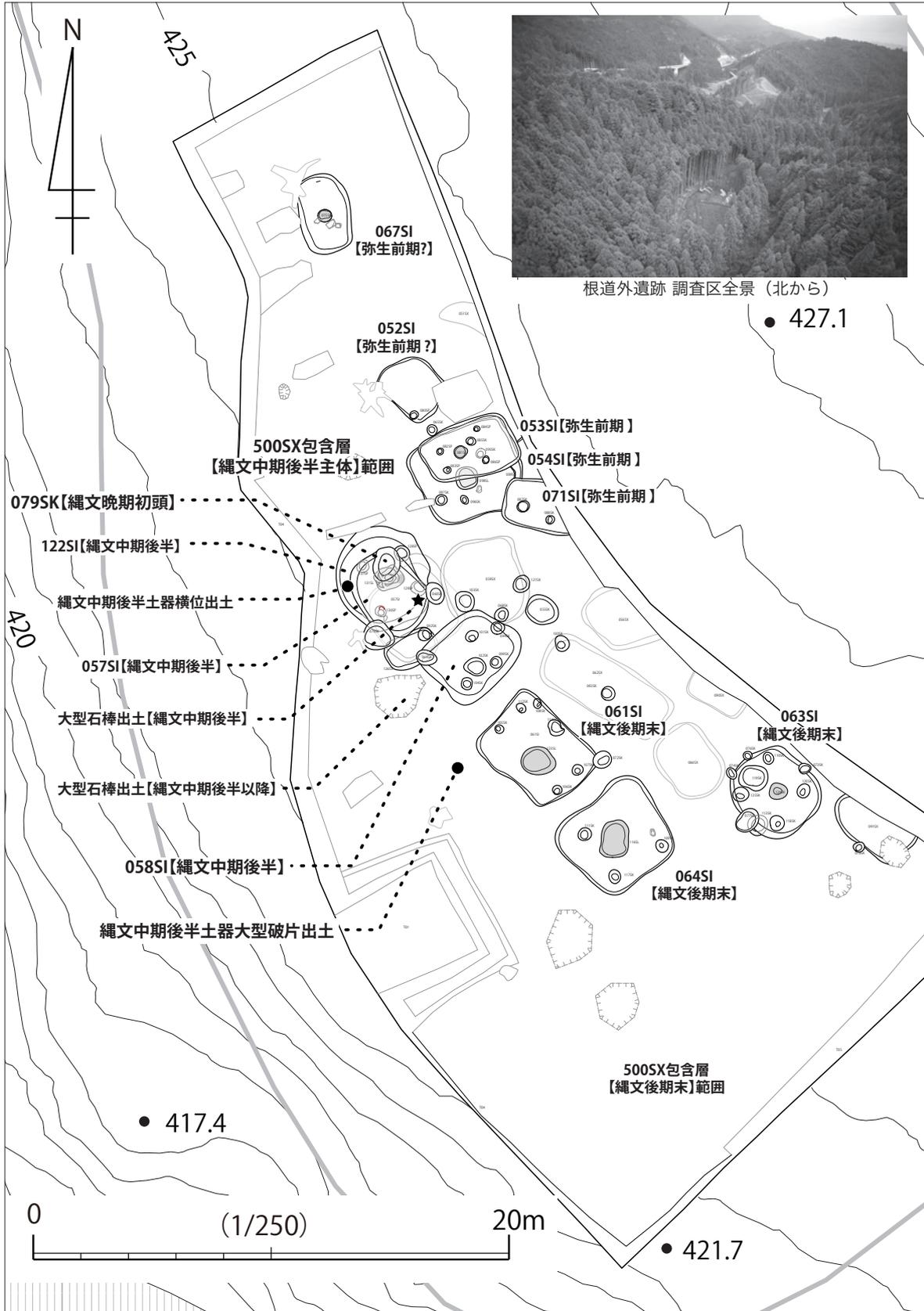
立地と環境 根道外遺跡は、境川とタコウズ川との間に形成された細尾根の北東から南西に向かって延びる緩斜面上に立地する。遺跡は北から東側にクラクして流れるタコウズ川の左岸にあり、調査前の地表で標高は420～426mを測る。当地は、境川とタコウズ川の合流点「べんてんぶち」から北に約300mの距離に位置している。遺跡北・東・南の各側には片麻岩由来の尾根筋によって遺跡全体が囲われている形となっており、緩傾斜の高まりは、このなかで北東から南西方向に向かって流れ込んだ土石流堆積によって形成されている。



下延坂遺跡 調査区位置図

調査の概要 基本層序は調査区南壁の土層断面情報が参考になる。上からⅠ層：表土(5cm)、Ⅱ層：灰褐色粘土(旧耕作土、20～30cm)【近世以降】、Ⅲ層：赤褐色礫層(土石流堆積層Ⅰ、80cm)【古墳～古代】、Ⅳ層：灰褐色粘土(遺物包含層、20cm)【縄文時代中期～弥生時代中期】、Ⅴ層：赤褐色の砂礫層(土石流堆積層、20cm)【縄文時代前期か】、Ⅵ層：にぶい褐色粘土質シルト層(水成堆積層、20cm)【縄文時代早期以前か】、Ⅶ層：赤褐色礫層(土石流堆積層Ⅲ、厚さ不詳)【縄文時代早期以前か】、Ⅷ層：黄褐色粘土・シルト層および黄褐色砂礫層【地山】、である。地形全体は北側が高く南側に向かって低くなっており、調査区中央で堆積状況に変化が認められる。すなわち、調査区北側半分では、Ⅴ層～Ⅶ層の堆積がなく、Ⅳ層下に、低位の地山層である黄褐色砂礫層が露出する。この黄褐色砂礫層は河床景観を呈するもので、旧タコウズ川が開削されて現在の位置に固定する前段階の河床であったと考えられる。

戦国期～近世 調査は、Ⅲ層上面での検出面(検出Ⅰ)と、Ⅳ層～Ⅴ層上面での検出面(検出Ⅱ)で調査を実施した。検出Ⅰでは、耕作地跡が調査区全体で検出された。この面では、調査区外東側をも含めて中世～戦国期の陶器片が表面採集されたことから、少なくとも戦国期以降には、Ⅲ層の堆積後に地盤が安定し土地利用が活発化した可能性がある。今回の調査では、戦国期と直接的に特定できる遺構の検出はなかった。また、耕作地跡は近世～近代に属す



調査区全体図【縄文時代・弥生時代】

るものと考えられる。

縄文～弥生 検出2では、縄文時代中期後半から弥生時代の遺構・遺物が調査された。さらに以下の3時期に分けることができる。

縄文時代中期後半 縄文時代中期後半の活動痕跡は、調査区中央部付近でまとまって見つかっている。主要遺構には、竪穴建物跡3基がある。058SIは一辺4m弱の隅丸方形プランを呈しており、中央に大型の土坑、四隅にはピットと思われる遺構が確認されている。出土遺物は少なく、中期後半の大型土器片が遺構底面から出土した。057SIと122SIは重複して確認された遺構である。057SIは4×3mほどの隅丸方形プランを呈するもので、底面中央には焼土の広がりを確認するとともに、南東端では石に囲われて大型石棒が横位状態で出土した。この石棒は埋土の堆積が進んだ段階で、土坑が掘られて埋設されたもので、大型石棒はもともと立てられていた可能性もある。122SIは掘り方底面から5～10cm上面に板石が敷かれた痕跡があり、床面が更新された痕跡であると考えられる。この床面更新の埋土中からは、縄文時代中後半の深鉢が一個体横位状態で出土した。また、本来はこの面で築かれたと考えられる石囲炉跡も見つかっており、北西隅には副炉が設けられていた。西側斜面下方に向かって、遺物包含層500SXを検出した。深鉢大型破片などが見つかった。

縄文時代後期末 縄文時代後期末～晩期の活動痕跡は調査区南側が主体で、中央にも局所的に確認された。竪穴建物跡3基と土坑が調査された。竪穴建物跡の中で、061SIは5×4mの隅丸方形の竪穴建物跡で、地床炉跡内から土器片がまとまって出土した。また、062SIは5×5mほどの隅丸方形の竪穴建物跡で、遺構掘り方に対して、中央には炉跡に由来する焼土の塊が盛り上げるように検出された。おそらく本来は同じ場所に掘り方を共有する竪穴建物跡の床面が上位レベルに存在していたものと考えられる。057SIに重複する形で、土坑079SKが築かれていた。埋土には焼土塊と礫が多量に含まれており、炉跡の構造物などが一括廃棄された可能性が高い。西側斜面下方に向かって形成された遺物包含層500SXからは、土器片や打製石斧などの石器のほか、有溝石錘や石棒が出土した。

弥生時代前期 弥生時代前期の活動痕跡は、調査区北側が主体である。竪穴建物跡5基が調査された。特に良好な状態で見つかったのは、053SIと054SI、067SIで、いずれも掘り方中央に地床炉跡とおぼしき焼土範囲が確認された。053SI・067SIは4×3m程度、054SIは5×4m程度である。いずれの炉跡も脇から板石などが見つかっており、炉縁石であった可能性が高い。053SIと054SIからは、条痕文土器の中でも、特に大型壺片が散在して出土していた。

(川添和暁)

根道外遺跡 23区 調査成果一覧

段階	調査層位	時期	検出遺構	出土遺物	備考
検出1	Ⅲ層上面	戦国期以降	耕作地跡(水田区角)20以上	縄文土器・石器・山茶碗・天目茶碗など	調査区西端で調査された500SX(遺物包含層)は、傾斜地での層位認識の誤りのため、「検出1」で調査を実施した。
検出2	Ⅳ層およびⅧ層上面(調査区北側) Ⅳ層およびⅤ層上面(調査区南側)	縄文時代中期～弥生時代中期	○縄文時代中期後半【竪穴建物跡3・ピット・土坑・遺物包含層】 ○縄文時代後期末～晩期【竪穴建物跡3・土坑・ピット・遺物包含層】 ○弥生時代前期～中期【竪穴建物跡5・ピット】	○縄文時代中期【土器・石器(石鏃・剥片石核類・磨石敲石類・石皿台石類)・大型石棒】、 ○縄文時代後期末～晩期【土器・石器(石鏃・打製石斧・剥片石核類・磨石敲石類・石皿台石類)・有溝石錘】 ○弥生時代前期～中期【土器・石器(剥片石核類・磨石敲石類・石皿台石類)】	



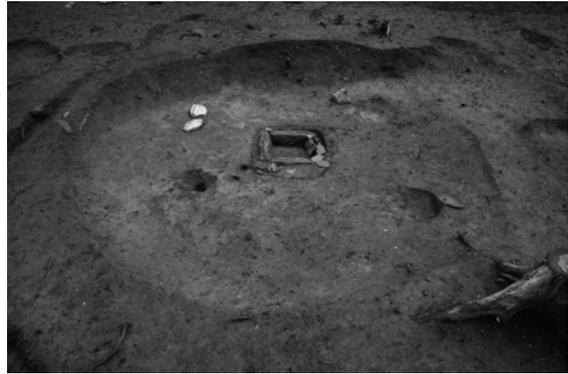
竪穴建物跡057SI内 大型石棒(北東から)



竪穴建物跡122SI内土器出土状況(南から)



竪穴建物跡122SI床面検出1(北から)



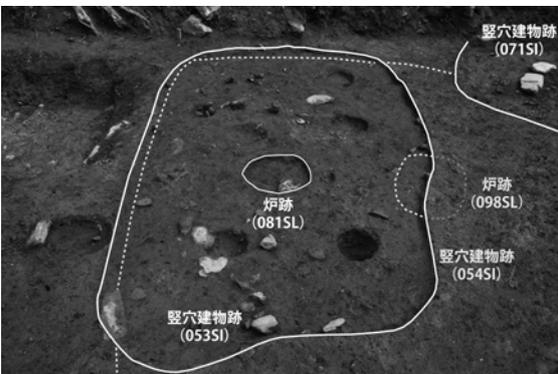
竪穴建物跡122SI床面検出2(西から)



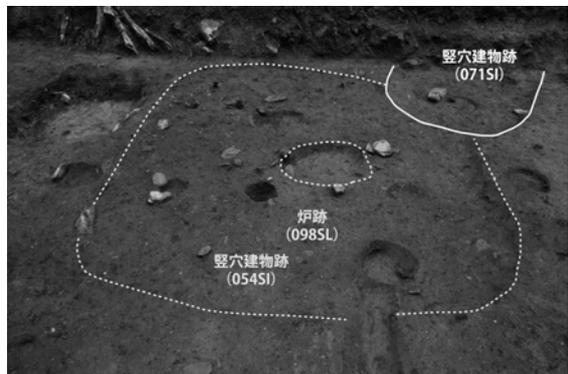
竪穴建物跡061SI 炉跡内遺物出土状況(北西から)



竪穴建物跡064SI炉跡検出状況(南西から)



竪穴建物跡053SI・054SI・071SII(西から)



竪穴建物跡054SI・071SI(西から)

はな きぎた
花の木北遺跡 (本発掘調査B)

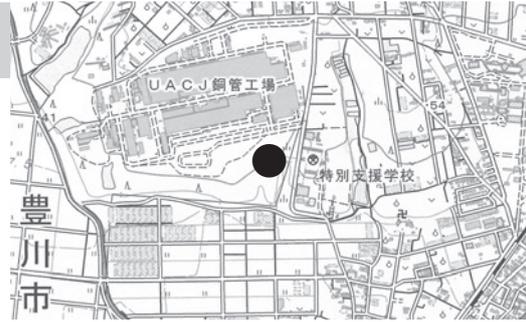
所在地 豊川市大木町新道
(北緯34度51分34秒 東経137度24分48秒)

調査理由 一般国道151号(一宮バイパス)

調査期間 令和5年5月～7月

調査面積 375㎡

担当者 樋上昇・田中良



調査地点 (1/2.5万「新城」)

調査の経過 調査は、愛知県建設局道路建設課による一般国道151号(一宮バイパス)に伴う事前調査として、愛知県民文化局を通じた委託事業として実施した。本遺跡では令和3年度に2,110㎡、令和4年度に1,355㎡の調査が行われており、今年度は令和4年度調査区の北東に隣接する375㎡の調査区が設定された。

立地と環境 遺跡は豊川市の北部にあり、旧宝飯郡一宮町に該当する。遺跡の立地は、西原台地と呼ばれる本宮山山麓から広がる扇状地の末端に位置する。小規模な谷を挟んだ南側には、令和2年度に調査された花の木古墳群・花の木遺跡がある。花の木遺跡では弥生時代中期～後期の集落跡、花の木古墳群では古墳時代中期前半を中心とする古墳群が確認されている。

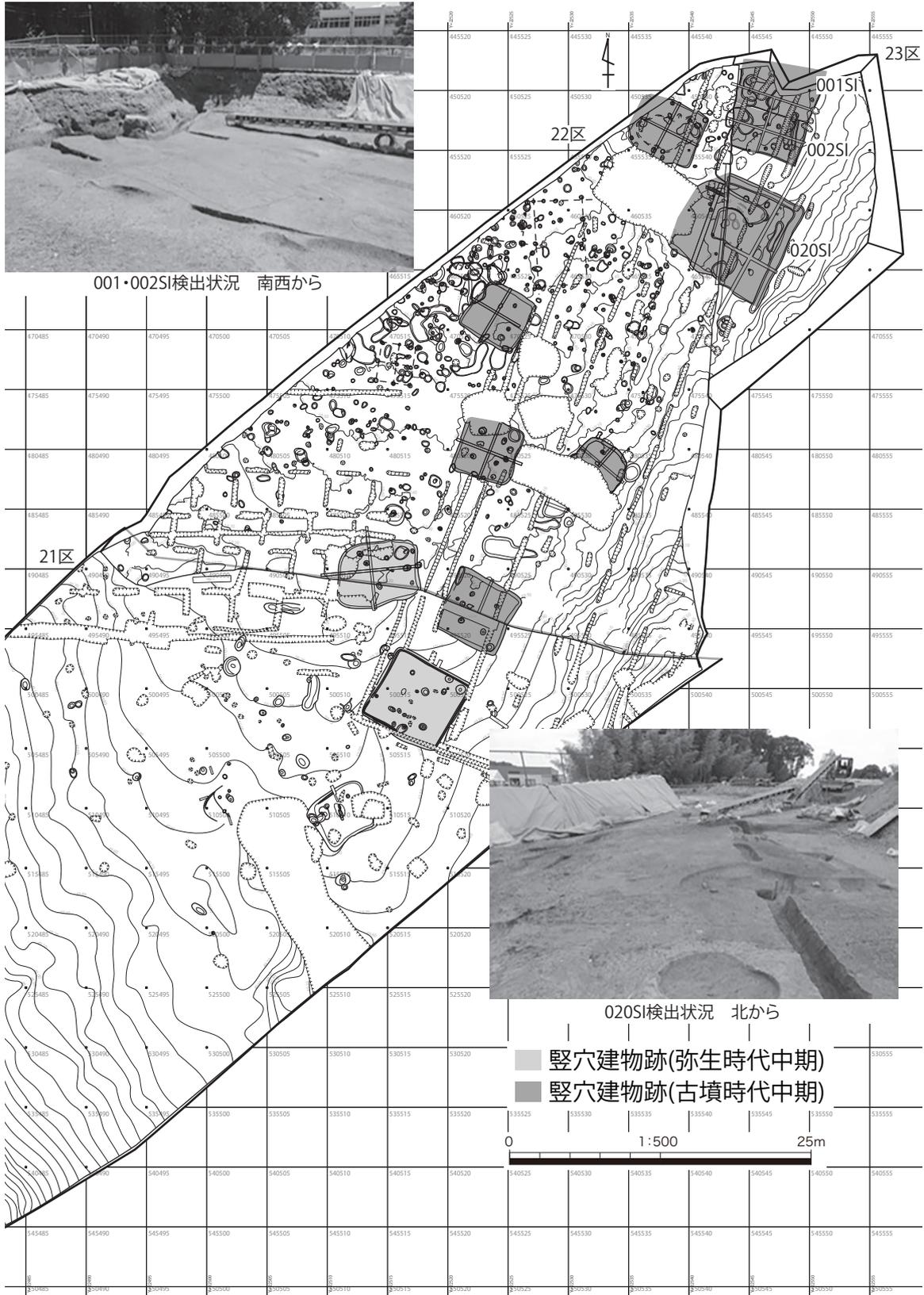
調査の概要 今年度の調査は、令和4年度調査区の東側に隣接する。今回の調査では、令和4年度と同様、古墳時代中期の竪穴建物跡が3棟検出されたほか、土坑や溝も検出された。また、遺構のほとんどが調査区の西側で検出されており、東側に向かって谷状地形となることから、本調査区が集落の東側縁辺部に相当することがわかった。

古墳時代中期の竪穴建物 今回検出された竪穴建物跡は、北端で2棟重複して検出され、その南側では大型の竪穴建物跡が検出された。北側の竪穴建物跡は、後世の削平を受けており掘方の一部しか残っておらず、遺物も少量であった。一方、南側の竪穴建物跡では、後世の削平以外に中世以降に土坑が形成されており、それらによって床面まで掘り返されていた。そのため、遺物はあまり出土していないが、壁溝と考えられる溝から小型壺の完形品が出土している。

(田中 良)



遺跡全景 東から



遺構全体図 (S=1/500)

のぞえ
野添遺跡 (本発掘調査B)

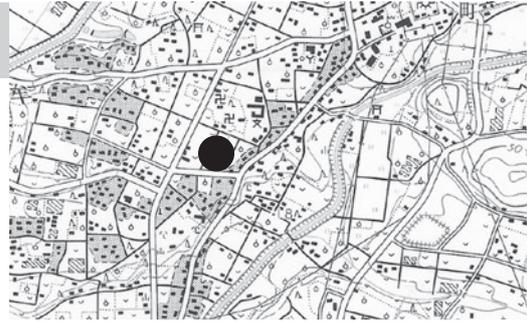
所在地 豊橋市石巻本町地内
(北緯34度47分55秒 東経137度26分15秒)

調査理由 道路改良工事(交付金(主) 東三河環状線)

調査期間 令和5年8月～10月

調査面積 960㎡

担当者 樋上昇・田中良



調査地点 (1/2.5万「豊橋」)

調査の経過 調査は、愛知県建設局道路建設課による道路改良工事(交付金)(主) 東三河環状線に伴う事前調査として、愛知県民文化局を通じた委託事業として実施した。本遺跡は平成25年度に2,000㎡の調査が行われ、令和4年度は、高位の段丘上を4,055㎡の調査を実施した。今年度の調査は、令和4年度調査区22C区の西側にあたる、960㎡を調査した。

立地と環境 遺跡は豊川左岸の河岸段丘縁辺部に立地し、東側には神田川沿いの低地がある。調査地点は河岸段丘上に位置し、平成25年度調査地点は低地および段丘崖にあたる。遺跡の周辺には、神田川沿いの低地に弥生時代中期から後期、中世を主体とする東下地遺跡がある。

調査の概要 今回の調査では、隣接する22C区と同様な区画溝と掘立柱建物跡からなる区画が検出された。また、掘立柱建物跡は12棟確認され、区画溝の南西からは素掘りの井戸が検出された。出土遺物には、大量の内耳鍋片や土師皿などの土師器、天目茶碗などの陶器片、磁器片、鉄滓などがあり、時期は15世紀末から16世紀が主体となる。

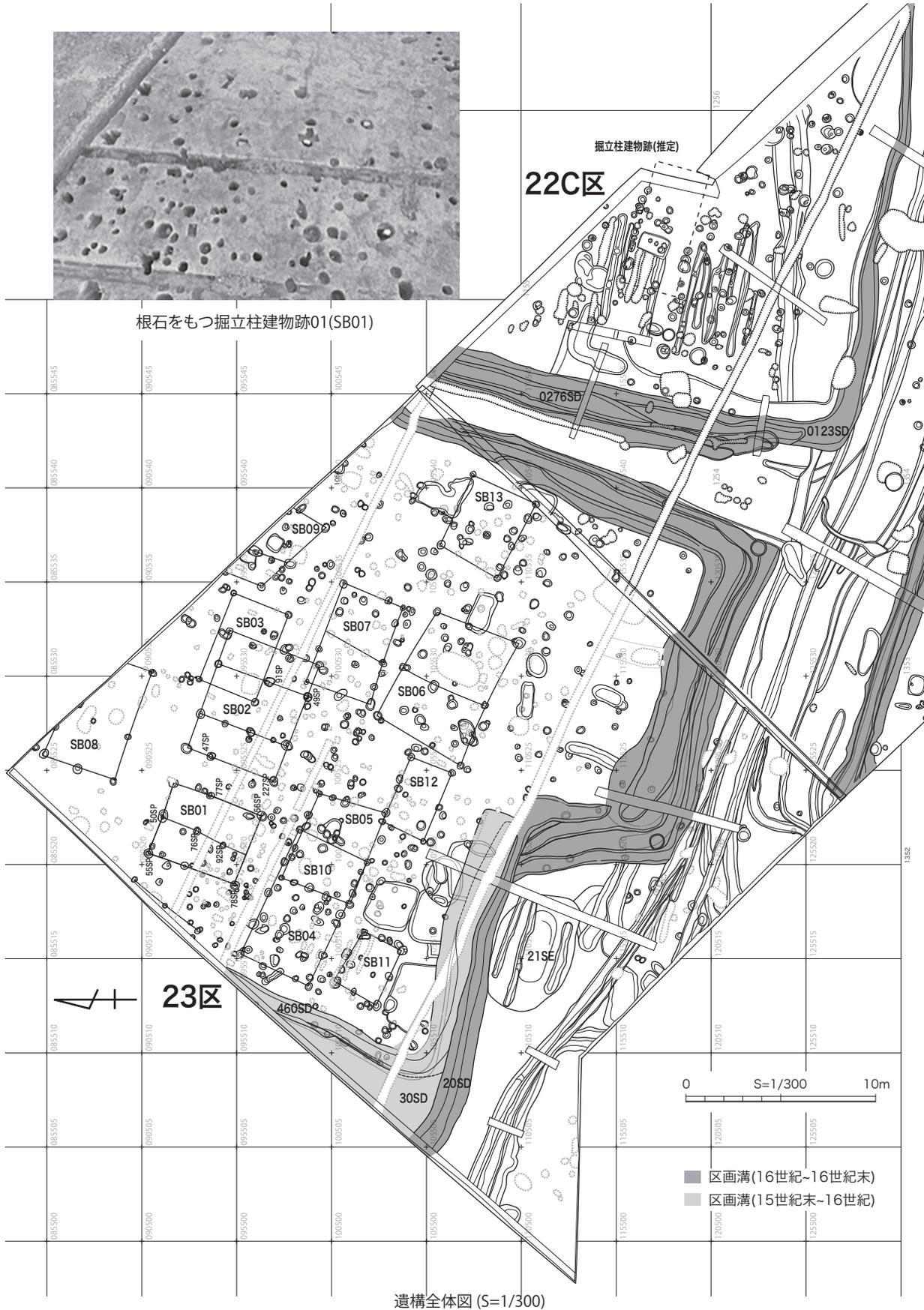
2 3 区 23区からは、22C区の北西から西へ伸びる区画溝の続きとなる20SD・30SDと区画された屋敷地内で掘立柱建物跡が12棟検出された。また、本調査区は遺構の残りが良好で、表土から遺構検出面までは約30cmである。中には、遺物包含層から掘り込まれる遺構もあり、堆積状況も良好であった。23区では、22C区の区画よりも若干古い15世紀末の遺物が出土しており、17世紀前半の遺物がほとんど出土していないのが特徴的である。また、一番古い区画溝の底面からは、15世紀末の土師器皿が出土している。さらに、柱穴や土坑からは天目茶碗や稜皿、青花端反皿など22C区よりも多彩な遺物が出土している。

2 0 S D 今回の調査区で検出された区画溝は、屋敷地の北西を区画する溝で、22C区の区画溝と同様、幾度も掘り返されており、20SDは其中でも一番新しい区画溝である。この区画溝は、西側は深さ約50cmになるが、南側へ屈曲する部分は約10cmと急激に浅くなり、また東側で約30cmの深さとなる。南側へ屈曲する部分が屋敷の出入りに相当するか。しかし、特に構造物のようなものは確認できていない。出土遺物は、内耳鍋のほか土師器皿が多く出土している。また、硯の破片が1点出土している。

区画溝の中でも一番古い区画溝460SDの底面からはロクロ成形の土師器皿が出土しており、屋敷地の開始時期は15世紀末と考えられる。

S B 0 1 根石を伴う掘立柱建物跡(SB01)は23区北西部で検出された。SB01を構成する柱穴のうち、50・55・56・76・77・78・92SPの底面に拳大～人頭大の垂角礫が検出された。時期は、周囲の遺物から16世紀頃と考えられる。

S B 0 2 礎石を伴う掘立柱建物跡(SB02)は、23区北側から検出された。SB02を構成する柱穴のうち、47・49・91・227SPの埋土中から人頭大の垂角礫が検出された。SB01と違い、柱穴



遺構全体図 (S=1/300)

の底面ではなく埋土中から板状の亜角礫が検出されたため、礎石と考えている。

ま と め 今年度の調査では、22C区よりも多くの掘立柱建物跡を含む柱穴群と新たに井戸21SEが検出された。また、柱穴や区画溝から出土した遺物は、22C区よりも古い15世紀末から16世紀のものが主体である。さらに、多彩な陶磁器や硯などからも今回の調査区が屋敷の中心により近いことが伺える。このことから、屋敷地は西側に中心があり、何度も建て替えながら、徐々に東側へと広がっていったことが分かった。

(田中 良)



調査区全景(南から)



区画溝 20・30SD 土層断面(東から)



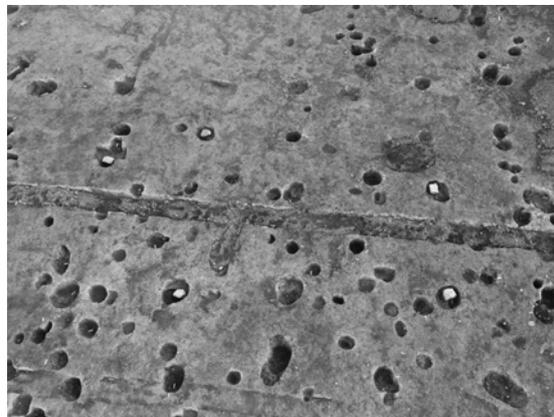
区画溝 20SD 硯出土状況(北から)



区画溝 20SD 遺物出土状況(西から)



井戸 21SE 土層断面(南から)



礎石を伴う掘立柱建物跡 SB02(南から)

III. 刊行報告書抄録

第222集 万瀬遺跡

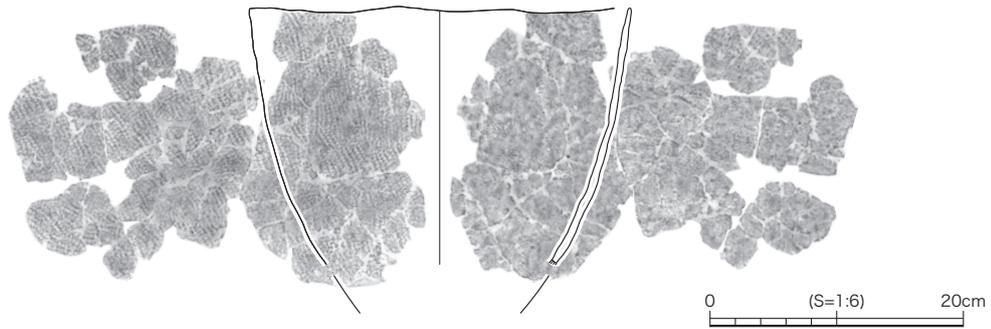
万瀬遺跡は設楽町内を流れる境川の右岸、東向き緩斜面に立地し、周辺では笹平遺跡、大栗遺跡、上ヲロウ・下ヲロウ遺跡などが知られている。

万瀬遺跡の平成26年度・令和元年度調査では、縄文時代草創期から近世に至るまでの成果を得た。

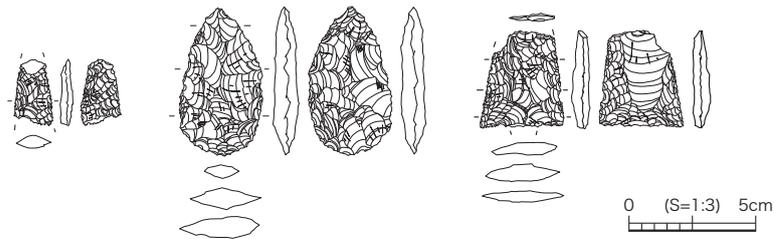
縄文時代は、早期前半に比定される竪穴建物、炉穴が確認され、土器は、縄文時代草創期～早期前半、縄文時代後期前葉～中葉前半、後期後葉～弥生時代前期のものが出土する。中でも遺存状態のよいものとしては、縄文時代草創期～早期前半の表裏に縄文を施す深鉢がある。石器は、草創期に遡る尖頭器が3点出土し、その他にも剥片・石核、石鏃、スクレイパー、打製石斧、礫器、磨石・敲石類などが見られた。

中世は、13世紀前葉ごろの鍛冶遺構とその作業場が確認され、15世紀後葉には大型掘立柱建物が建てられる。遺物は、12世紀前葉から13世紀後葉にかけての山茶碗が一定数出土し、空白期の後、古瀬戸中期様式IV期～大窯期の施釉陶器が出土する。

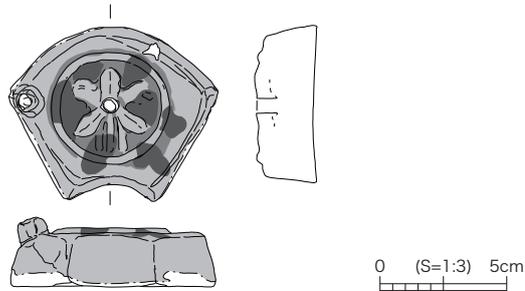
近世は、遺跡内の山側で複数の掘立柱建物跡や柱穴列が確認され、川側では複数の土葬土坑墓が展開する。遺物は、大窯期から連房式登窯期の瀬戸美濃産陶磁器が半分以上を占め、他地域のものは少量ながら常滑産、肥前産などがある。その他、鍋類を中心とした土師器が一定数出土する。 (河嶋優輝)



縄文時代草創期～早期前半 深鉢



縄文時代草創期 木葉形尖頭器・有舌尖頭器



近世 扇面形水滴

報告書抄録

ふりがな	まんぜいせき							
書名	万瀬遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第222集							
編著者名	河嶋優輝、川添和暁、鬼頭 剛・古澤 明・パレオ・ラボAMS年代測定グループ、小林克也（パレオ・ラボ）、鈴木正真、パレオ・ラボAMS年代測定グループ、(株) 第四紀地質研究所							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町字野方802-24 TEL0567(67)4161							
発行年	西暦2024年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
まんぜいせき 万瀬遺跡	あいちけんきたしたらくんしたらちよう 愛知県北設楽郡設楽町 かわむきあざまんぜ 川向字マンゼ	23561	700165	35度 06分 43秒	137度 33分 54秒	2014.6.～ 2014.10. 2019.6.～ 2020.1.	10,250m ²	設楽ダム
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
万瀬遺跡	集落 集落・墓地	縄文時代 中～近世	竪穴建物跡・煙道付炉穴・ 集石炉 掘立柱建物跡・柱穴列・ 鍛冶遺構・土葬土坑墓		土器・石器 陶磁器・土師器・銅銭・煙管		草創期の尖頭器 早期前半の竪穴建物群 大型掘立柱建物	
文書番号	発掘届出 (26埋セ第28-1号・平成26年5月2日 / 31埋セ第5号・平成31年4月10日) 通知 (26教生第566号・平成26年5月2日 / 31教生第277号・平成31年4月19日) 終了届・保管証・発見届 (26埋セ第88号・平成26年11月4日 / 31埋セ第117号・令和2年1月24日) 監査結果通知 (26教生第2082号・平成26年11月20日 / 31教生第3671号・令和2年2月18日)							
要約	万瀬遺跡の発掘調査成果は大きく二時期に分かれ、縄文時代では草創期に遡る石器の出土をみたほか、早期前半の竪穴建物跡を複数棟確認した。一方、中近世では中世の鍛冶場と思われる遺構を確認したほか、中世から近世に及ぶ、倉と思われる大型の掘立柱建物なども含まれる居住域が確認された。居住域から離れた位置では複数の土葬土坑墓も発見され、当時の土地利用についての知見も得られる結果となった。							

第223集 姫下遺跡Ⅱ・寄島遺跡Ⅱ・下懸遺跡Ⅲ

姫下遺跡・寄島遺跡・下懸遺跡は矢作川右岸、鹿乗川流域に所在する。これらは鹿乗川流域遺跡群と呼称される遺跡群の一部である。当センターはこの遺跡群の調査を平成10年度から行っており、本報告は平成26年から令和3年間の調査に関するものである。これまでの調査によって古墳時代前半の遺構・遺物が調査域全体で検出され、集落が展開することが確認されている。集落は上流の姫下遺跡から下流の五反田遺跡にかけて6ヶ所存在し、墓域は3カ所が確認されている。これらは古墳時代以前の旧河道と沖積微高地に関係性を持つ。本報告は遺跡の内容をより詳細にするものである。(酒井俊彦)



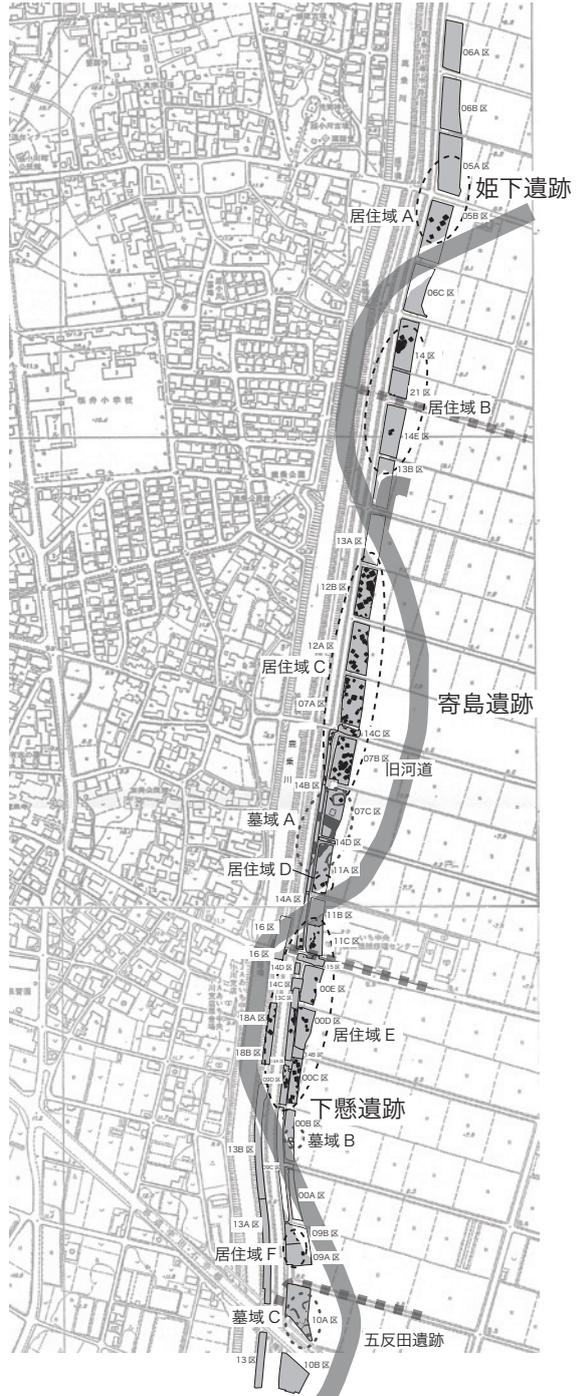
姫下遺跡 14区 (東から)



寄島遺跡 全景 (南から)



下懸遺跡 18A区 (南から)



古墳時代前半の集落と墓域

報告書抄録

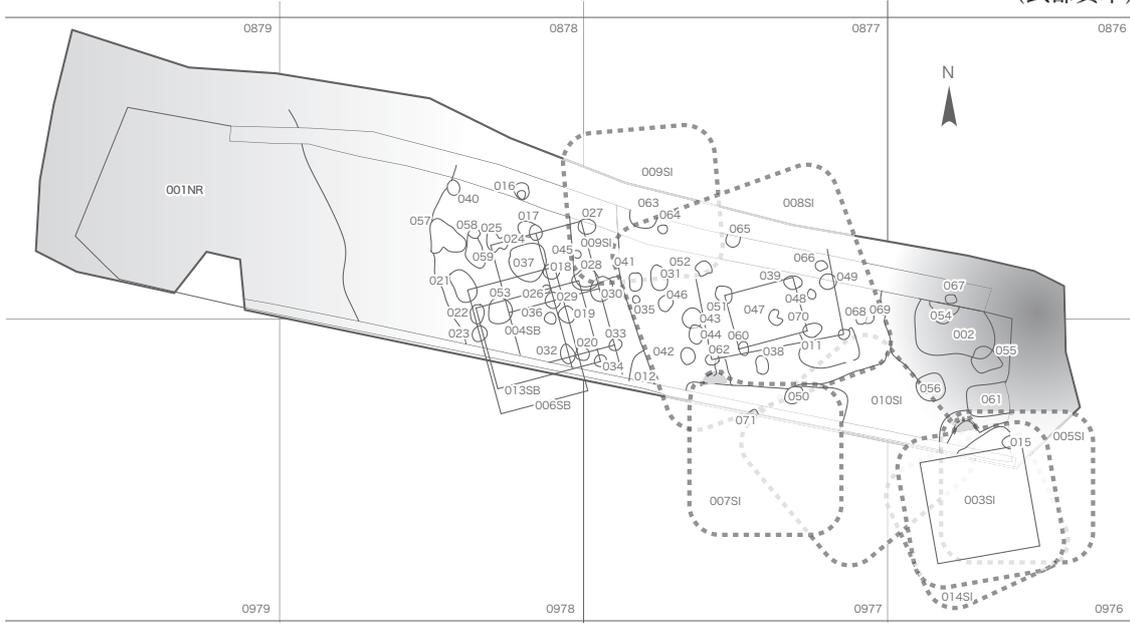
ふりがな	ひめしたいせきに・よせじまいせきに・しもかけいせきさん							
書名	姫下遺跡Ⅱ・寄島遺跡Ⅱ・下懸遺跡Ⅲ							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第223集							
編著者名	酒井俊彦							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161							
発行年月日	2024年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ' / "	東経 ° / ' / "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひめしたいせき 姫下遺跡	あんじょうしおがわちよう 安城市小川町	23213	540121	34° 54' 52"	137° 05' 49"	2014年11月～ 2015年3月 2021 年7月～9月	1820㎡	中小河川改良事業(鹿乗川) 緊急防災対策河川事業(鹿乗川)
よせじまいせき 寄島遺跡			540124	34° 54' 30"	137° 05' 45"	2014年6月～12月 2017年1月～2月	3208㎡	中小河川改良事業(鹿乗川)
しもかけいせき 下懸遺跡			540127	34° 54' 20"	137° 45' 43"	2017年1月～2月 2018年11月～ 2019年1月	1152㎡	中小河川改良事業(鹿乗川)
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
姫下遺跡 寄島遺跡 下懸遺跡	集落遺跡	古墳時代		竪穴建物 土坑 溝 方形周溝墓 井戸 自然河道		土器 木製品 土製品 石製品		
文書番号	遺跡名	発掘届	発掘許可	調査終了届	遺物発見届	埋蔵文化財 保管証	埋蔵文化財 認定	
	姫下遺跡	25埋セ155 21. 3. 25	26教生19 26. 4. 4	26埋セ137 27. 3. 11	26埋セ137 27. 3. 11	26埋セ137 27. 3. 11	26教生3225 27. 3. 31	
	姫下遺跡	3埋セ9 3. 4. 8	3文芸378 3. 4. 27	3埋セ95 3. 9. 21	3埋セ95 3. 9. 21	3埋セ95 3. 9. 21	3文芸1577 3. 10. 4	
	寄島遺跡	25埋セ153 26. 3. 25	26教生138 26. 4. 11	26埋セ102 26. 12. 17	26埋セ102 26. 12. 17	26埋セ102 26. 12. 17	26教生2512 27. 1. 27	
	寄島遺跡	28埋セ83 28. 12. 20	28教生2979 28. 12. 28	28埋セ104-1 29. 2. 14	28埋セ104-3 29. 2. 14	28埋セ104-2 29. 2. 14	28教生3463 29. 2. 27	
	下懸遺跡	28埋セ82 28. 12. 20	28教生2978 28. 12. 28	28埋セ103-1 29. 2. 14	28埋セ103-3 29. 2. 14	28埋セ103-2 29. 2. 14	28教生3464 29. 2. 27	
	下懸遺跡	30埋セ70 30. 9. 27	30教生2497 30. 10. 25	30埋セ124 31. 2. 20	30埋セ124 31. 2. 20	30埋セ124 31. 2. 20	30教生4011 31. 3. 11	
要約	姫下遺跡・寄島遺跡・下懸遺跡は矢作川右岸の沖積地に立地する。鹿乗川流域に所在し、鹿乗川流域遺跡群と呼称される。当センターはこの遺跡群を平成10年度から調査を行っており、今回平成26年から令和3年間に5回の調査を行なった。この調査によってこれまで確認されてきた古墳時代前期の居住域と墓域の展開および旧河道の状況がより明らかになった。							

第224集 南山町遺跡・白木遺跡

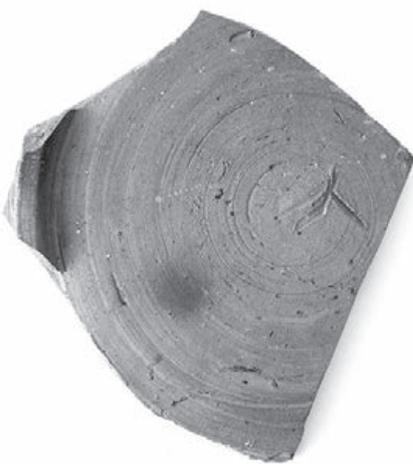
各遺跡は、五条川を挟んだ右岸の江南市に南山町遺跡、左岸の大口町に白木遺跡が位置する。周辺の江南市小折・曾本地区には古墳時代中期から後期を中心とする古墳が多数分布し、遺跡の南方約2.0kmには調査により明らかにされた7世紀第3四半期に造営された長福寺廃寺が存在する。しかし、これまで古代の遺跡についての情報は乏しく空白期であった。

調査では、両遺跡で竪穴建物・掘立柱建物で構成される7世紀～8世紀の集落が確認されたほか、出土遺物では刻書須恵器、瓦塔などが遺跡の性格を考える上で注目される。

(武部真木)



白木遺跡 基本遺構平面図・概略図



刻書須恵器 (白木遺跡)

刻書須恵器 (南山町遺跡)

報告書抄録

ふりがな	みなみやまちょういせき・しらぎいせき							
書名	南山町遺跡・白木遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第224集							
編著者名	武部真木(編集) 早野浩二 鬼頭 剛 (株)パレオ・ラボAMS年代測定グループ							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2024年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みなみやまちょういせき 南山町遺跡	あいちけん こうなんし 愛知県江南市 みなみやまちょう 南山町	23217	060063	35度 18分 51秒	136度 52分 50秒	2020.07.06～ 10.16 2022.01.06～ 03.07	1,040 700	道路改良 工事
しらぎ いせき 白木遺跡	あいちけん にわぐん 愛知県丹羽郡 おおぐちちょうよだ 大口町豊田	23361	230024	35度 18分 50秒	136度 52分 59秒	2020.02.07～ 03.17	370	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
南山町遺跡	集落	古墳時代 ～ 江戸時代	竪穴建物、溝、 集石遺構、土坑等	古墳時代土師器、 瀬戸美濃窯産陶器、 石製品、金属製品等		瓦塔(小片)		
白木遺跡	集落	古墳時代 ～ 奈良時代	竪穴建物、土坑、 掘立柱建物等	土師器・須恵器等		大型竪穴建物 刻書須恵器		
文書番号	南山町遺跡 発掘届出(2埋セ第30号 2020.6.9) 発掘届出(3埋セ第83号 2021.8.20) 通知(2文芸第783号 2020.6.9) 通知(3文芸第1433号 2021.9.6) 終了届・保管証・発見届(2埋セ第112号 2020.10.21) 終了届・保管証・発見届(3埋セ第149号 2022.3.14) 鑑定結果通知(2文芸第2512号 2020.11.18) 鑑定結果通知(3文芸第2636号 2022.3.24) 白木遺跡 発掘届出(31埋セ第101号 2019.12.24) 通知(31教生第3141号 2020.1.14) 終了届・保管証・発見届(31埋セ第154号 2020.3.19) 鑑定結果通知(2文芸第55号 2020.4.7)							
要約	犬山扇状地扇中部に立地する遺跡であり、五条川の自然堤防上に両遺跡は立地する。 南山町遺跡(江南市)では古墳時代、奈良・平安時代、鎌倉・室町時代まで断続的に 遺物が認められた。主な遺構の分布から、調査地点は7世紀後葉から8世紀には竪穴建 物からなる集落が展開し、12,13世紀には集落の縁辺部となっていたと考えられる。 白木遺跡(大口町)では竪穴建物、大型の柱穴をもつ掘立柱建物で構成される遺構群 が検出され、刻書された須恵器が出土するなど、7世紀後葉から8世紀前葉を盛期とす る集落が確認された。この周辺ではこれまで空白期であった時期の資料である。							

第225集 引田遺跡

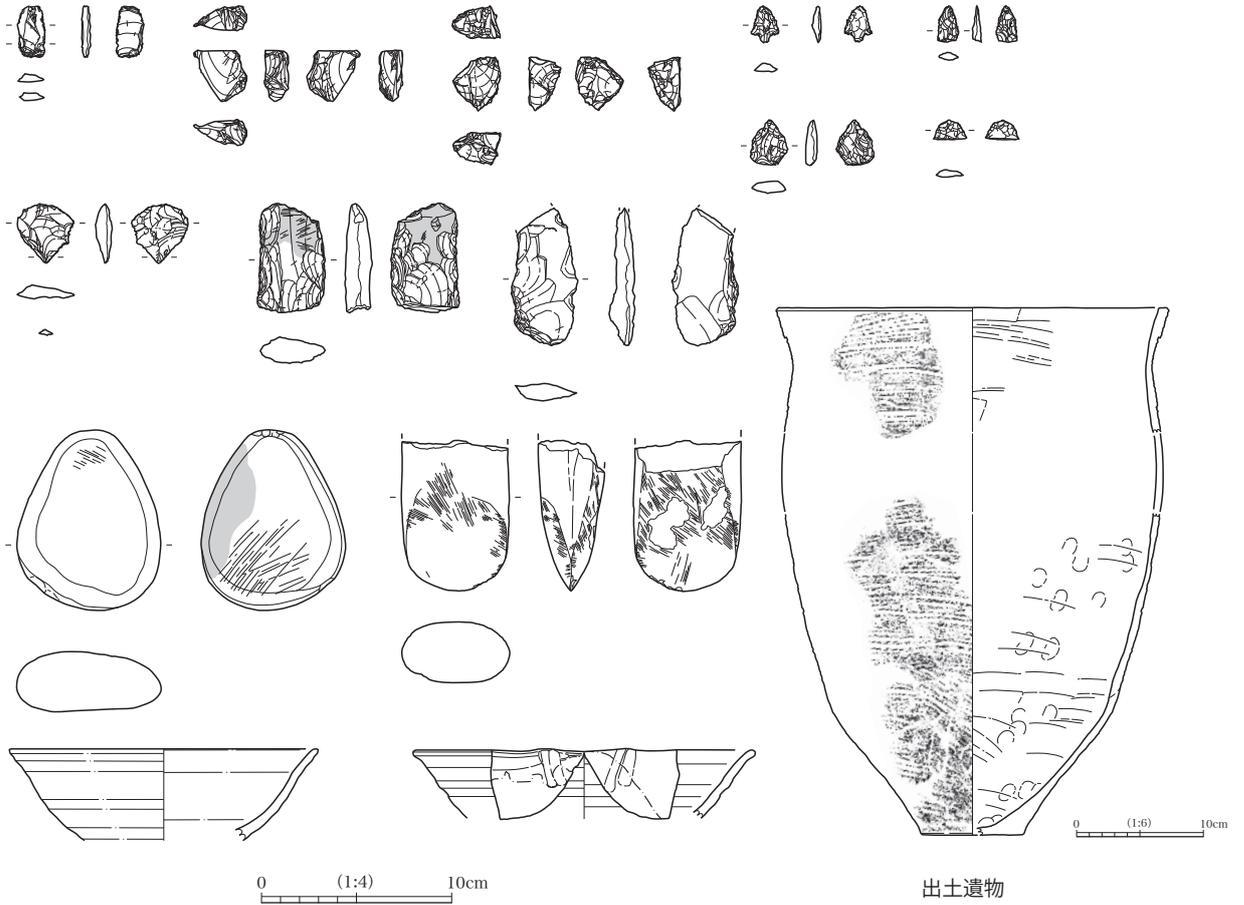
引田遺跡は愛知県東北部の北設楽郡東栄町に所在する。この地域は三河山地にあり、遺跡は御殿川左岸の河岸段丘上に立地する。本遺跡は1985年に圃場整備事業に伴う立ち会い調査が愛知県によって行われ、縄文時代から弥生時代にかけての遺構・遺物が確認されている。今回の調査では旧石器時代から中世までの遺構・遺物が確認された。主な遺物としては旧石器時代の削器などの石器類、縄文時代晩期等の土器と石器、現在では弥生時代とされる条痕文土器が出土した。また、中世では渥美・湖西窯第4型式の山茶碗が出土し、同時期の掘立柱建物が検出された。



遺跡全景（東から）



遺跡の位置



出土遺物

報告書抄録

ふりがな	ひきだいせき							
書名	引田遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第225集							
編著者名	酒井俊彦							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161							
発行年月日	2024年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経		調査面積	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "	調査期間	m ²	調査原因
ひきだいせき 引田遺跡	きたしたらぐんとうえいちよう おおあざつき 北設楽郡東栄町大字月	235628	710005	35° 04' 27"	137° 39' 20"	20230115 ～ 20230331	400	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
引田遺跡	集落遺跡	弥生時代・中世		掘立柱建物 土坑		縄文土器 条痕文土器 山茶碗 削器 石核 磨製石斧		
文書番号	遺跡名	発掘届	発掘許可	調査終了届	遺物発見届	埋蔵文化財 保管証	埋蔵文化財 認定	
	引田遺跡	3埋セ84 3.8.25	3文芸1418 3.9.2	3埋セ159 4.3.31	3埋セ159 4.3.31	3埋セ159 4.3.31	4教生575 4.4.8	
要約	引田遺跡は愛知県の東北部三河山地に所在する遺跡である。遺跡は戦時中より認知され、1985年に圃場整備事業に伴う立ち会い調査が愛知県によって行われている。今回の調査では旧石器時代から中世までの遺構・遺物が確認された。旧石器時代の石器の出土と中世の遺構検出は、今後のこの地域での発掘調査にとって意義あるものである。							

第226集 史跡 断夫山古墳

発掘調査は愛知県と名古屋市による史跡 断夫山古墳調査事業にかかる学術調査として実施。前方部両側と後円部主軸線上付近の墳丘裾から周濠・周堤が想定される部分に調査区を設定。併せて二重周濠の有無の確認を目的とした調査区を設定。

前方部東側で周濠外側斜面と周堤？、後円部北側で周濠状の落ち込み、周堤？と外濠？、前方部西側で周濠状の落ち込み、周堤？、後円部北東で外濠？を検出。調査区で葺石、その形跡は未検出。墳丘規模の計測値はいずれも概算で、全長 150m、後円部径 80m、前方部長 70m、前方部幅 120m（従来の概算の計測値を踏襲）。

円筒・朝顔形埴輪が出土。形象埴輪（蓋・家）はごく少ない。装飾須恵器（脚付連結須恵器）が出土。須恵器は東山 10 号窯式期から東山 61 号窯式期に対応し、6 世紀前半の年代を想定。古墳の裾や周囲は後世の宅地、耕作地、公園整備等による改変が著しいことが判明。（早野浩二）



断夫山古墳の調査成果

報告書抄録

ふりがな	しせき だんぶさんこふん							
書名	史跡 断夫山古墳							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第226集							
編著者名	早野浩二・洲崎和宏・パレオ・ラボAMS年代測定グループ・森 将志・鬼頭 剛							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2024年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しせき 史跡 だんぶさんこふん 断夫山古墳	あいちけん なごやし 愛知県名古屋市中 あつたくはたや 熱田区旗屋 いっちょうめちない 一丁目地内	23109	012019	35度 07分 52秒	136度 54分 14秒	2020.11～ 2023.03	290	史跡 断夫山古墳 調査事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
史跡 断夫山古墳	古墳	古墳時代 鎌倉時代 江戸時代	古墳周濠 溝・土坑・整地層	円筒・朝顔形埴輪 形象埴輪・須恵器 山茶碗、土師器皿 瀬戸・美濃窯製品		前方部周濠の検出 周堤と二重周濠？ 蓋・家形埴輪の出土 装飾須恵器の出土 周濠の浚渫 古墳周辺の整地		
要約	<p>発掘調査は愛知県と名古屋市による史跡 断夫山古墳調査事業にかかる学術調査として実施。前方部両側と後円部主軸線上付近の墳丘裾から周濠・周堤が想定される部分に調査区を設定。併せて二重周濠の有無の確認を目的とした調査区を設定。</p> <p>前方部東側で周濠外側斜面と周堤？、後円部北側で周濠状の落ち込み、周堤？と外濠？、前方部西側で周濠状の落ち込み、周堤？、後円部北東で外濠？を検出。調査区で葺石、その形跡は未検出。墳丘規模の計測値はいずれも概算で、全長 150m、後円部径 80m、前方部長 70m、前方部幅 120m（従来の概算の計測値を踏襲）。</p> <p>円筒・朝顔形埴輪が出土。形象埴輪（蓋・家）はごく少ない。装飾須恵器（脚付連結須恵器）が出土。須恵器は東山 10 号窯式期から東山 61 号窯式期に対応し、6 世紀前半の年代を想定。</p> <p>古墳の裾や周囲は後世の宅地、耕作地、公園整備等による改変が著しいことが判明。</p>							

IV. 普及・公開活動の記録

埋蔵文化財展

愛知県埋蔵文化財センターでは、遺跡の発掘調査により発見された資料を広く公開するとともに、講座や体験プログラムなどの企画を通じて、県民の埋蔵文化財に対する理解を深め、文化財保護意識の向上を図ることを目的とした埋蔵文化財展を行っている。

令和5年度は、春には愛知県埋蔵文化財調査センターと共催して新出土品展「やとみ新発見展」2023」と「春の特別公開2023」を行った。また、秋には『名古屋城三の丸遺跡展』と題し、愛知県埋蔵文化財調査センター資料管理閲覧室での展示を行った。なお愛知県埋蔵文化財調査センターは、同時期に名古屋城三の丸遺跡出土品4点の特別公開を行った。

春の埋蔵文化財展「やとみ新発見展」2023」

1. 会場 愛知県埋蔵文化財調査センター
2. 会期 令和5年4月10日(月)～4月21日(金)
3. 内容

- 展示
 - ① 2F収蔵庫C 「やとみ新発見展」2023」
令和4年度に本発掘調査Bを実施した17遺跡の出土遺物と写真パネル等を展示。
 - ② 2F資料管理閲覧室 「発掘された愛知の城 AGAIN」
令和3年度「秋の埋蔵文化財展」で行った「愛知の城」の展示の一部を復活させた。
- 配布資料 「埋文桜ニュース」
令和4年度調査の概要説明および本年度イベント案内、同時開催の「春の特別公開」(愛知県埋蔵文化財調査センター)の展示解説を掲載した。期間中に配布した部数は77部。

4. その他

新型コロナウイルス感染症対策のため、弥富市で例年開催されてきた「やとみ桜まつり」は中止。当センターも体験などの多人数が近接するイベントは中止となった。期間中の総入場者数は86名。



▲春の埋蔵文化財展 チラシ



▲「埋文桜ニュース」

秋の埋蔵文化財展「名古屋城三の丸遺跡展」

1. 会場 愛知県埋蔵文化財調査センター 資料管理閲覧室
2. 会期 令和5年10月30日(月)～11月30日(木)
3. 実施体制

「名古屋城三の丸遺跡展」(公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター)
 「秋の特別公開2023」(愛知県埋蔵文化財調査センター)

4. 目的

愛知県埋蔵文化財センターは、これまでに8回に渡って名古屋城三の丸遺跡における発掘調査を実施してきた。今回、約15年ぶりに「名古屋第4地方合同庁舎整備等事業」による発掘調査が実施されるにあたって、普段収蔵されている過去の発掘調査の出土品を再び見直すことを目的とした。

5. 内容

「名古屋城三の丸遺跡展」では1988年度の「愛知県図書館地点」の調査から2006～2007年度の「地方簡易裁判所合同庁舎地点」の調査までの成果を踏まえ、「弥生時代」「古墳時代」「古代」「那古野城期」「名古屋城三之丸期」「近代(陸軍兵営時代)」の時代ごとに遺物を展示し、それぞれに出土した遺構の解説を付した。

6. 関連イベントなど

同時に開催された「秋の特別公開2023」に関連した講演会・イベントを11月3日に実施した。演題・演者は次の通り。講演会には37名の参加があった。

- ・「名古屋城三の丸遺跡を掘る」城ヶ谷和広氏(愛知県埋蔵文化財調査センター)
- ・「名城公園遺跡の調査成果」永井邦仁(愛知県埋蔵文化財センター)

同日に一般向けの体験重視の催しとして、拓本体験(埋蔵文化財調査センター担当)、城輪投げ(埋蔵文化財センター担当)を実施し、参加者は30名であった。

なお、「秋の埋蔵文化財展」開催期間中の11月24日(金)、および11月27日(月)は「あいち県民の日」に関連する「県民の日学校ホリデー」として県内の公立学校が休業し、保護者の有給休暇の取得が推奨されたことに合わせて、「秋の埋蔵文化財展」(埋蔵文化財センター)、「秋の特別公開」(埋蔵文化財調査センター)の展示解説を両日の午前・午後の計4回実施し、計17名の参加があった。

上記の講演会、展示解説を含めた「秋の埋蔵文化財展」開催期間中の入場者の総数は143名であった。(鈴木恵介)

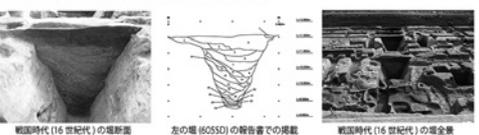
財団設立 50 周年記念事業

令和5年度 秋の埋蔵文化財展

名古屋城三の丸遺跡展

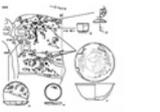
開催日時：令和5年10月30日(月)～11月30日(木) 午前9時～午後4時
 11月3日(金曜・祝日)を除く土・日・祝日は観覧(入場無料・申込不要)
 展示会場：愛知県埋蔵文化財調査センター2階 資料管理閲覧室

秋の埋蔵文化財展 2023 では、「名古屋城三の丸遺跡展」と題して、愛知県埋蔵文化財センターが1988年度から長年行ってきた発掘調査の成果を振り返り紹介します。
 名古屋城三の丸遺跡では、近世の名古屋城三之丸としての遺構・遺物のみならず、下層では旧石器時代から中世・戦国時代にかけての遺構・遺物が検出され、複合的な遺跡としての性格が色濃くあります。今回は、名古屋城三の丸遺跡の古代、那古野城期の中世・戦国時代、名古屋城三之丸期の江戸時代の3つの時代の発掘調査の成果を中心に展示を行います。



戦国時代(16世紀)の堀跡面 (60550・2006年度調査)
 左の堀(60550)の踏査書での埋蔵「名古屋城三の丸遺跡」
 戦国時代(16世紀)の堀全貌 (60550・2006年度調査)





江戸時代(19世紀前半)の土坑(49250)出土青磁鉢
 2006年度調査江戸時代(19世紀前半)の土坑(49250)
 土坑(49250)の青磁鉢出土状況の概観「名古屋城三の丸遺跡」

即時開催
秋の特別公開 2023
 (愛知県埋蔵文化財調査センター主催)
 収蔵品の中から逸品を選んで展示します。
 展示予定
 色絵婦人座像(平成2年度調査出土)
 原始灰釉双耳瓶(昭和63年度調査出土)他
 会場：愛知県埋蔵文化財調査センター2階ホール
 お問い合わせ
 愛知県埋蔵文化財調査センター TEL.0567-67-4164




色絵婦人座像(平成2年度調査出土)
 原始灰釉双耳瓶(昭和63年度調査出土)

秋の埋蔵文化財展 チラシ



秋の埋蔵文化財展 展示会場



秋の埋蔵文化財展 講演会

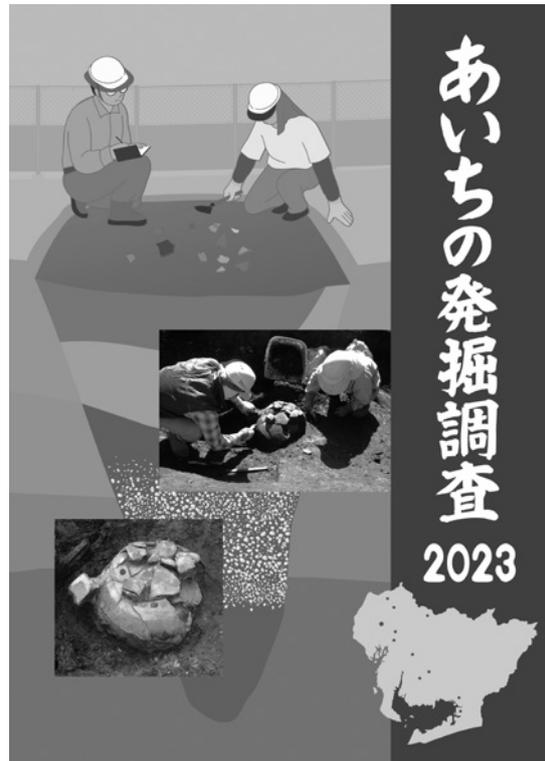
あいち朝日遺跡ミュージアム企画展「あいちの発掘調査2023」

愛知県民文化局文化財室の委託事業として、あいち朝日遺跡ミュージアムで企画展「あいちの発掘調査 2023」を実施した。

本展では、県内各地で行われた最新の発掘調査の出土品を展示した。今回は、扶桑北窯跡（瀬戸市）、天王塚遺跡（小牧市）、宮後城跡（江南市）、名城公園遺跡（名古屋市北区）、熱田 B 遺跡（名古屋市熱田区）、池田遺跡（岡崎市）、井ヶ谷古窯跡群（刈谷市）、中狭間遺跡（安城市）、境松・若宮遺跡（豊橋市）、史跡 三河国分寺跡（豊川市）の 10 遺跡を紹介した。また、朝日遺跡からは、赤と黒を配色した珍しいパレス・スタイル壺を展示し、関連講演会では壺の文様について天文学の観点から新たな解釈などを提示した。印刷物としては、ポスター・チラシ・パンフレットの企画・編集とガイドブックの作成を行った。



「あいちの発掘調査 2023」チラシ



「あいちの発掘調査 2023」普及本表紙



企画展示室の展示状況



成果報告会 I の開催状況

1 企画展

- (1) 会期 2024年1月20日(土)から3月10日(日)まで
休館日(毎週月曜日 ※2月12日(月・祝)は開館し、翌13日(火)は休館。
(2) 開館時間 午前9時30分から午後5時まで
(3) 会場 あいち朝日遺跡ミュージアム 本館(企画展示室)

2 関連講演会

- (1) 講演会・トークセッション「斜め上から見たパレス・スタイル土器」
(清須市教育委員会共催事業)
①日 時:2024年2月25日(日)午後1時30分から午後4時30分まで
②場 所:清洲市民センター(ホール)
③講 師:北條芳隆氏(東海大学教授)
講演「パレス・スタイル壺に描かれた弥生時代の暦」
原田 幹氏(あいち朝日遺跡ミュージアム学芸課長)
報告1「朝日遺跡から見たパレス・スタイル土器」
岩淵 寛氏(愛知県陶磁美術館主任陶芸指導員)
④参加費:無料
⑤当日参加人数115名
- (2) 発掘調査最新成果報告会Ⅰ「三河の遺跡」
①日 時:2024年1月27日(土)午後1時から午後4時まで
②場 所:あいち朝日遺跡ミュージアム本館(研修室)
③講 師:村上 昇氏(豊橋市文化財センター)「境松・若宮遺跡」
鈴木涼平氏(豊川市教育委員会)「史跡 三河国分寺跡」
池本正明(愛知県埋蔵文化財センター)「中狭間遺跡」
河野あすか氏(刈谷市歴史博物館)「井ヶ谷古窯跡群」
④参加費:無料
⑤当日参加人数46名
- (3) 発掘調査最新成果報告会Ⅱ「尾張の遺跡」
①日 時:2024年2月10日(土)午後1時から午後3時30分まで
②場 所:あいち朝日遺跡ミュージアム本館(研修室)
③講 師:河合君近氏(公益財団法人瀬戸市文化振興財団)「扶桑北窯跡」
田中芳樹氏(小牧市教育委員会)「天王塚遺跡」
永井邦仁(愛知県埋蔵文化財センター)「名城公園遺跡」
④参加費:無料
⑤当日参加人数48名 (永井宏幸)

あいち朝日遺跡ミュージアム ナイトミュージアム・体験!弥生ムラへの出店

あいち朝日遺跡ミュージアムでは様々なイベントが開催されている。今年度は8月19日(土)の午後4時~午後8時に『ナイトミュージアム』・3月2日(土)の午前10時~午後4時30分に『体験!弥生ムラ』が開催された。同施設の指定管理者から依頼を受け、ナイトミュージアムではミュージアム本館の体験学習室で銅鐸形のべっこう飴による鑄込み体験のワークショップを出店した。参加人数は26人であった。『体験!弥生ムラ』では「弥生王族の衣装を着よう」を実施した。(樋上 昇)

連続歴史講座

1. 目的

愛知県内外の考古学に関する成果などを広く一般県民に公開するための歴史講座を開催する。

2. 場所

愛知県埋蔵文化財調査センター 2階研修室

3. 定員

各講座 50名

4. 内容

今年度の連続歴史講座のテーマは『モノの「形」の考古学』とした。埋蔵文化財の発掘調査で扱うさまざまな物質文化である「モノ」の形の変化から技術の変化、生活文化の向上、社会の変化などを講義する内容である。いずれの回も午前10時30分～正午に開催。参加費は無料。

	日時	タイトル	講師	参加人数
第1回	5月13日(土)	うつりかわる「鍋」の形	鈴木正貴	20人
第2回	5月27日(土)	うつりかわる「住まい」の形	永井邦仁	25人
第3回	6月10日(土)	うつりかわる「村」の形	鈴木正貴	27人
第4回	6月24日(土)	うつりかわる「墓」の形	早野浩二	29人

前年度は新型コロナウイルス感染防止対策を講ずる必要があったため定員も半分となっていたが、今年度は、以前の定員に戻しての開催となった。各回とも講師への熱心な質問が見られた。(鬼頭 剛)

「連続歴史講座」チラシ

愛知県生涯学習推進センター協力講座

『令和5年度生涯学習あいち県民講座』の一環として、愛知県埋蔵文化財センターと愛知県生涯学習推進センターの協力講座が開催された。今年度は3回で、いずれも室内講座と現地学習の組み合わせである。

【1】『あいちの遺跡を学ぼう「尾張平野のゲートウェイ」一色青海遺跡のすべて』

稲沢市の一色青海遺跡は弥生時代中期の集落で、彩色をほどこした鹿の絵画土器などの重要遺物が出

土している。また、三重県北中部の土器・石器や長野県～西三河地域特有の竪穴建物の炉があることから、尾張平野に西からの文化を受け入れこれを東へと伝えていくための「ゲートウェイ（玄関口）」のような存在と位置づけて、講義と現地学習を行った。定員は24名。

- ①講義 2023年7月19日(水) 午後1時30分～3時 愛知県教育会館 3階教室
「一色青海遺跡のすべて」 樋上昇 参加者17名
- ②現地学習 2023年7月26日(水) 午後1時30分～2時30分 一色青海遺跡(日光川上流浄化センター内)
「一色青海遺跡を見る」 鈴木恵介 参加者17名

【2】『あいちの遺跡を学ぼう 名古屋城「尾張名古屋は城で持つ」～最新調査成果から検証する～』
愛知県埋蔵文化財センターが行なった名古屋城三の丸遺跡の発掘調査成果をもとに戦国時代の城の構造や江戸時代の武家屋敷の様子を解説し、発掘調査中の名古屋城三の丸遺跡の様子を見学しながら江戸時代の名古屋城や戦国時代の那古野城についての最新の調査成果を紹介した。定員は24名。

- ①講義 2023年8月8日(火) 午前10時00分～11時45分 愛知県教育会館 3階教室
「名古屋城と武家屋敷」 鈴木正貴 参加者22名
- ②現地学習 2023年8月17日(木) 午前9時30分～11時10分 本町門跡(集合)、
名古屋城三の丸遺跡発掘現場、護国神社付近～本丸内施設へ(解散)
「名古屋城武家屋敷地の発掘」 武部真木 参加者21名

【3】『あいちの遺跡を学ぼう 安城市鹿乗川流域遺跡群～三河の古墳時代社会をひらく～』

安城市東部の沖積低地は、「鹿乗川流域遺跡群」と呼ばれる弥生時代から古墳時代の集落遺跡が密集し、愛知県埋蔵文化財センターでは20年以上にわたって発掘調査を行ってきた。そして遺跡群背後の台地上には遺跡群と同時代の古墳群があり、集落と古墳の関係について注目される。講座3回と現地学習1回を行った。定員は24名。

- ①1日目(講義) 2023年11月1日(水) 午前10時00分～11時45分 愛知県教育会館 3階教室
「鹿乗川流域遺跡群からみた桜井古墳群」 永井邦仁 参加者22名
- ②2日目(現地学習) 2023年11月15日(水) 午後1時30分～3時30分 名鉄桜井駅(集合)、
桜井古墳群～鹿乗川流域遺跡群(亀塚遺跡・中狭間遺跡他)の約4kmの徒歩コース
「鹿乗川流域遺跡群と桜井古墳群をめぐる」 永井邦仁・池本正明・河嶋優輝 参加者20名
- ③3日目(講義) 2023年11月29日(水) 午前10時00分～11時45分 愛知県教育会館 3階教室
「亀塚遺跡にみるムラとモノ」 河嶋優輝 参加者17名
- ④4日目 講義 2023年12月13日(水) 午後1時30分～3時15分
「鹿乗川流域遺跡群にみる墓とまつり」 池本正明 参加者20名

(永井邦仁)

清須市文化財講座(協力講座)

清須市教育委員会が主催する「文化財講座」において、1回協力講座を行った。

日 時：2023年9月28日(木) 午前10時00分～11時30分

場 所：清須市清洲市民センター

担当と題目：社本有弥「石器の見方とあいちの石器」

栄中日文化センター協力講座

栄中日文化センター（久屋中日ビル）において協力講座を行った。

【1】上半期のテーマ『中部発！弥生時代研究最前線』

日程：4月13日・6月6日・6月20日の3回、いずれも10:00～11:30

担当：永井宏幸

内容：「弥生時代の開始年代が500年さかのぼる」という2003年5月に日本考古学協会総会で国立歴史民俗博物館年代測定チームが行った研究発表は、当時の全国ニュースにも取り上げられ学会のみならず、社会でも大きな反響を呼んだ。その後20年経った現在、新たな弥生時代研究が蓄積されている。講座では愛知県を中心とした中部日本の調査研究から紹介した。

4月13日は「いままでの弥生時代像～朝日遺跡から振り返る～」として、朝日遺跡の発掘調査成果を中心に、この地域の弥生時代研究の成果を振り返った。6月6日は「弥生時代はなかった？」として、近年注目される研究成果をもとに改めて弥生時代の枠組みを紹介した。6月20日は「縄文文化と弥生文化再考」として、高度に発達したといわれる狩猟採集民の「縄文人」、灌漑設備を備えたコメづくり技術と文化を育んだ農耕民の「弥生人」へと移行する過程を「生まれは縄文、育ちは弥生」の視点から伊勢湾周辺の調査成果を紹介した

参加者は、第1回が15名、第2回と第3回が17名であった。

(永井宏幸)

【2】下半期のテーマ『考古学における自然科学の授業 あいち埋文・分析室だより』

日程：10月17日(火)・11月21日(火)・12月19日(火)の3回、いずれも10:00～11:30

担当：堀木真美子

内容：昆虫遺体の分析、珪藻・花粉分析、石材同定、樹種同定、骨の同定、蛍光X線分析など様々な自然科学分析の原理と事例の紹介し、簡単な実習を実施。また、愛知県埋蔵文化財センターがホームページなどで行っている情報公開の取り組みについても「情報」として紹介した。

10月17日は『考古学における自然科学の授業「生物」』として、自然環境復元のための分析事例として、「珪藻」・「花粉」の分析事例とその結果の解説を実施。昨今話題となった昆虫遺体分析を紹介。またカメや哺乳類の骨の同定や年齢推定のポイントを解説し、図面を見ながら、シカとイノシシの同定作業を実習。11月21日は『考古学における自然科学の授業「物理・化学」』として、レーダー探査、脂肪酸分析、同位体比分析等を紹介。埋蔵文化財センターで実施している蛍光X線分析の分析事例として、赤色顔料やガラス玉、埴塼の分析などを紹介し、X線のスペクトル解析の実習を行った。12月19日は『考古学における自然科学の授業「地学」「情報」』とし、石器によく使われる岩石の特徴を解説した後、石材サンプルの同定実習を行う。また埋蔵文化財センターの情報発信について解説し、奈良文化財センター等の最新の情報発信の状況も解説した。

参加者：10月17日：11名、11月21日：8名、12月19日：12名。

(堀木真美子)

あいち考古学フェア 2023

概要：これまで考古学セミナー「あいちの考古学」として開催していたものを、今年度より「あいち考古学フェア 2023」と称し、考古学の研究ポスター・口頭発表を行う「考古学セミナー」と、考古学関連のワークショップを集めた「考古学フェア」の2本立てのイベントとして「考古学フェア」を開催した。

「考古学セミナー」では従来通り、愛知県内および近隣地域で活動する県・市町村教育委員会、公益財団法人、大学、特定非営利活動法人(NPO)、研究グループ、関連企業などによる遺跡調査と、考古学に関係する研究成果について広く一般に公開し情報を共有することを目的に開催した。ポスターの展示期間はほぼ3週間であった。

「考古学フェア」は、今年度初めて開催するものであり、考古学をより身近に感じていただくためのワークショップを集めたイベントである。会場は金山南ビル1階と11階の2か所であった。

【主催】 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団

公益財団法人名古屋まちづくり公社

【主管】 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター

公益財団法人名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター

【開催場所】 〒460-0023 名古屋市中区金山町一丁目1番1号 金山南ビル

【開催日時と場所・内容】

1 考古学セミナー（ポスター展示・シンポジウム・発表会）

1-1. ポスター展示

(1) 開催期日 令和5年11月7日(火)から11月26日(日)まで

(2) 開館時間等 火～金 10:00～18:00 土・日・祝 10:00～17:00 月曜日休館

(3) 会場 名古屋都市センター11階 まちづくり広場

(4) 観覧料等 無料

<< 口頭発表資料 >>

OP1「筑摩御厨跡遺跡で出土する東海地方の窯業製品(素描)」 中川 永(豊橋市美術館)・大西 遼(愛知県陶磁美術館)

OP2「愛知県豊田市舞木古窯の発掘調査」 秋松大允・井上隼多・早川紘布・張 睿帆(名古屋大学大学院人文学研究科)

OP3「古代の製塩実験 製塩体験からみえてきた古代人の苦勞」 安城市教育委員会・西尾市教育委員会

OP4「名古屋市八事一堂跡出土陶器の再検討」 大西 遼(愛知県陶磁美術館)

OP5「瓦師から犬山焼窯元へ」 青木 修・佐久間真子・宮川菜々子・中野耕司・鈴木智恵・安藤 悟・井上あゆこ(犬山焼ミュージアム)

OP6「先史時代の行動復元3-川向東貝津遺跡では、どんな安山岩・玄武岩が利用されているのか?」 平井義敏・野村啓輔(東海石器研究会)

OP7「小牧市大山廃寺跡の再検討 -3次元測量調査成果-」 永井邦仁・河嶋優輝・大村 陸・鈴木悠介(大山廃寺検討会)

OP8「名古屋大学発!文化財3Dデータ配信用WebアプリCulpticon(カルプティコン)で愛知の考古資料を楽しもう!!」

井上隼多(名古屋大学考古学研究室)・梅村綾子(名古屋大学博物館)・早川紘布(名古屋大学考古学研究室)

<< シンポジウム関連情報 >>

「シンポジウム 名古屋の城づくり、まちづくり」

「岩瀬文庫所蔵の「清洲図」について」 鈴木正貴

<< ポスター発表資料 >>

P09「犬山焼の獅子・狛犬の表現～瀬戸・美濃焼との比較から～」

青木 修・井上あゆこ・佐久間真子・宮川奈々子・中野耕司・鈴木智恵・安藤 悟(犬山焼ミュージアム)

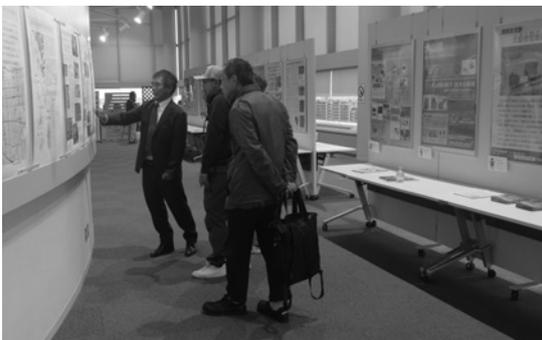
- P10「久留倍官衙遺跡を紹介します ～活用と管理～」 大原涼子(四日市市シティプロモーション部文化課)
- P11「大府市 石丸遺跡発掘調査I 成果報告」白樫 淳・島軒 満(株式会社アコード)・大府市歴史民俗資料館
- P12「松阪市粥見井尻遺跡の旧石器とその石材」高木 康裕(株式会社パレオ・ラボ)
- P13「史跡 伊勢国分寺跡歴史公園へ行こう！」吉田真由美(鈴鹿市考古博物館)
- P14「史跡船来山古墳群秋の特別開館・上保本郷遺跡展」恩田知美(本巣市教育委員会)
- P15「姉小路氏城館跡の発掘調査 ～中世飛騨国でみる領域支配の変遷～」三好清超(飛騨市教育委員会) P16「尾張名古屋博覧会目録に描かれた考古遺物 - 木地杓を中心として -」高尾将矢(株式会社ノガミ)
- P17「安城市亀塚遺跡でほぼ完形の竪櫛が出土」河嶋優輝(愛知県埋蔵文化財センター)
- P18「愛知県内の受託発掘調査紹介」山田哲也(株式会社イビソク)
- P19「岐阜県垂井町綾戸古墳の測量調査」若山鈴奈・桑山真里奈・小出一磨・高井英吉・高橋 杏・富田聖乃・村瀬稔治(名古屋大学文学部)
- P20「東海地域の特殊扁壺と三足壺について」陳 永強(名古屋大学大学院人文科学研究科)
- P21「地域の考古学、そして地域との考古学」上峯篤史(南山大学人文学部人類文化学科)
- P22「岐阜県下呂市『湯の平遺跡』2023 年度発掘調査概要」
安達友隆・加藤智大・上野 楓・田中花香(南山大学人文学部人類文化学科)・
中林大智・伊藤彩花(愛知学院大学文学部歴史学科)
- P23「静岡県木島遺跡出土品の再整理」
上野 楓・加藤智大・安達友隆・田中花香・高本涼平・伊藤和香奈(南山大学人文学部人類文化学科) -
- P24「東海地方における特殊弥生土器の使用用途 - 円窓付土器を事例に -」安達友隆(南山大学人文学部人類文化学科)
- P25「勝川遺跡出土木製品の工学的解析による用途推定」
桃井宏和(公益財団法人元興寺文化財研究所)・久保光徳(千葉大学大学院)・
高橋 敦(株式会社古生態研究所)

1-2. シンポジウム「名古屋の城づくり、まちづくり」

- (1) 開催期日 令和5年11月23日(木・祝)
- (2) 開催時間 午後1時から4時(開場:午後0時30分)
- (3) 会 場 名古屋都市センター11階 ホール 参加無料
- (4) 内 容

記念講演「名古屋の城づくり、まちづくり」 講師:服部英雄(名古屋城調査研究センター所長)
 関連発表「清須の城づくり、まちづくり」 講師:鈴木正貴(愛知県埋蔵文化財センター)
 座談会「名古屋の城づくり、まちづくり」 パネラー:服部英雄・鈴木正貴
 司会:木村有作(愛知県埋蔵文化財調査センター)

- (5) 参加者数 91名



考古学セミナー ポスター展示



考古学セミナー シンポジウム

1-3. 調査・研究発表会

- (1) 開催期日 令和5年11月11日(土)・12日(日)
- (2) 開催時間 午後1時から4時
- (3) 会場 名古屋都市センター 11階ホール
(参加無料)
- (4) 内容 口頭発表 11日(OP1-OP4)・
12日(OP5-OP8)
- (5) 参加者延べ数: 11日 182名 12日 152名

2. 考古学フェスタ

- (1) 開催期日 令和5年11月26日(日)
- (2) 開催時間 正午から4時(準備は午前10時から)
- (3) 会場 名古屋都市センター 11階ホール・
金山南ビル 1F
(参加無料、材料費は別途)
- (4) 内容及び参加者数 スタンプラリー配布数 109枚
1F: かりうち(愛知埋文・奈良文化財研究所)
立寄り40名・体験20名・チラシ配布100名
1F: 石器づくり(東海石器研究会) 174名
11F: 金箔瓦づくり(愛知県埋蔵文化財センター)
21名
11F: プラバンづくり(鈴鹿市考古博物館)
36名
11F: こども学芸員(犬山焼ミュージアム)
70名
11F: ボールペンづくり(財団事務局企画推進課)
27名
(堀木真美子)



考古学フェスタのチラシ



考古学フェアのチラシ



考古学フェア 1階 かりうちブース



考古学フェア 11階 名古屋都市センターホール

あいち埋文サポーターズクラブ

令和5年度から、愛知県埋蔵文化財センターの普及活動を外部からサポートしていただくための組織「あいち埋文サポーターズクラブ」を立ち上げた。年会費1,000円で、愛知県埋蔵文化財センターが企画する遺跡見学会やワークショップにご参加いただくとともに、将来的には普及活動のお手伝いも願いをすることを目的としている。

令和5年5月から募集を開始し、令和6年1月現在で、41名の方々にご登録いただいている。

令和6年1月末までに、10回の例会を開催した。内訳は、遺跡見学会が7回、ワークショップが2回、イベント参加が1回である。

遺跡見学会は、一般向けに公開する地元説明会の直前に実施する内部の遺跡検討会（平日開催）に併せて行い、埋文センター職員による遺跡・遺構・遺物の検討を直にご覧いただくとともに、参加者からの質問も受け付けた。これは在職年数の少ない若手職員にとって、地元説明会の予行演習になるとともに、参加者からも臨場感のある見学会として好評を得ている。

ワークショップについては、『あいちの発掘調査2023』のシンポジウムに関連してパレススタイル壺の製作および焼成実験を実施した。来年度以降は、さらにワークショップの回数を増やしていきたいと考えている。

イベント参加は『あいちの考古学フェア2023』の「考古学フェスタ」のみだが、今後はイベントのお手伝いもお願いできるようにしていきたい。

(樋上 昇)

考古学フェア 11階 名古屋都市センターホール

日付	イベント	参加者
R.5.6.23	花の木遺跡見学会	7名
R5.7.20	名古屋城三の丸遺跡見学会	6名
R5.8.17	亀塚遺跡見学会	8名
R5.8.21	一色青海遺跡見学会	10名
R5.10.4	パレス壺土器づくり1	5名
R5.10.5	野添遺跡見学会	9名
R5.11.26	考古学フェスタ	3名
R5.12.7	中狭間遺跡見学会	8名
R6.1.25	青山神明遺跡見学会	4名
R6.1.26	パレス壺土器づくり2	5名



一色青海遺跡見学会



パレス壺土器づくり



青山神明遺跡見学会

V. 埋蔵文化財センターの活動

資料の貸出一覧

貸出先	目的	遺跡名	貸出・提出資料	期間
瀬戸市文化振興財団	新出土品展「品野の窯業」に使用	宇トケ窯跡 中洞窯跡 桑下東窯跡 上品野E窯跡 勘介窯跡	完掘写真等 2点 完掘状況写真他 3点 完掘状況写真3点・遺物写真2点 遺構写真4点・遺物写真1点 遺構写真3点・遺物写真2点	20点 2023/4/5
磁祖加藤氏吉顕彰事業実行委員会	HPIに掲載するため	滝町古窯	調査区全景 1点 完掘状況 1点	2点 2023/4/6
北海道立埋蔵文化財センター指定管理者公益財団法人北海道埋蔵文化財センター	北海道立埋蔵文化財センター2023.6.30発行予定『年報』24巻博藤尾慎一郎先生講演会要旨挿図に使用	朝日遺跡	新資料館地点の調査の人骨出土状況	1点 2023/4/14
株式会社グレイル	宝島社発行TJM00K『いまこそ行きたい信長、秀吉、家康の城』（仮称）に掲載	清洲城下町遺跡	石垣写真	1点 2023/5/11
西尾市岩瀬文庫	市制70周年・岩瀬文庫リニューアル20周年記念特別展『家康を支えた武将・松井忠次』に利用	鳥羽城跡	全景写真	1点 2023/5/22
一宮市博物館	博物館講演会「尾張平野を語る27 一宮の発掘調査～あの頃の発掘調査～」のリーフレットに利用	八王子遺跡	現場説明会風景	3点 2023/5/22
NHK大阪放送局コンテンツセンター第3部	テレビ番組「歴史探偵 歴史探偵 古墳最前線(仮) (本放送予定2023年7月26日(水) 22:00～22:45NHK 総合) にて使用。	花の木古墳群	蛇行剣 出土状況と写真	2点 2023/6/16
個人	区史「豊栄町一区の今・昔一ふじやぶ100年のあゆみ」に掲載	水入遺跡	遺物写真・遠景写真	2点 2023/6/29
西尾市教育委員会	西尾市資料館企画展「発掘された！中世西尾の城跡跡」に使用	鳥羽城跡 室遺跡	遺構写真 2点 遠景写真 1点	3点 2023/6/29
豊田市	『新修豊田市史24巻 総集編』（令和5年7月刊行予定）に掲載	三斗目・三本松遺跡 川原遺跡 天神前遺跡 郷上遺跡 本川遺跡 矢追遺跡 水入遺跡 城山城跡 荒山古墳群	遺構写真 2点 遺物写真 1点 遺構写真 1点 遺構写真 1点 遺物写真 2点 遺構写真 1点 遺構写真 2点 遺物写真 2点 遺構写真 1点 遺構写真 1点	15点 2023/7/6
日本放送協会	歴史探偵 桶狭間の戦い	清洲城下町遺跡	発掘調査現場の記録の再放送	1点 2023/8/5
株式会社 文英堂	文英堂刊 高校生対象の学習参考書『理解しやすい日本史探究』に掲載	朝日遺跡	56A2区 方形周溝墓（西から）	1点 2023/8/8
一宮市博物館	特集展示「どきどきフレンズとその出身地」	八王子遺跡 山中遺跡	出土状況 4点 出土状況 2点	6点 2023/8/23
豊橋市図書館	「グルメだった縄文人 ～海と山～ 東三河の縄文時代」展のチラシ等に使用	下延坂遺跡 大崎遺跡	竪穴建物跡 注口土器出土状況	2点 2023/9/12
株式会社国書刊行会	「1000の縄文」に掲載	東光寺遺跡	遺物写真	1点 2023/10/5
公益財団法人瀬戸市文化振興財団	企画展「時代をめぐる碗の世界」に利用	黒笹89号窯跡 清洲城下町遺跡8 清洲城下町遺跡11 名古屋城三の丸遺跡4 名古屋城三の丸遺跡5	全景写真 全景写真 遺構写真 遺構写真 遺構写真	5点 2023/10/3
安城市歴史博物館	企画展「家康と三河の城」に利用	加美遺跡 室遺跡 木戸城遺跡 東端城跡 矢並下本城跡 城山城跡	全景写真 全景写真 全景・図面 土塁写真・図面 空撮写真 空撮写真・遺構写真	8点 2023/10/10
西尾市教育委員会	一色学びの館企画展「弥生時代の西尾」に利用	岡島遺跡	遺構写真2点 全景写真1点 遺物出土状況1点	4点 2023/10/18
一宮市博物館	一宮市芸術文化協会情報誌「いちのみやの芸術文化」	大毛沖遺跡	作業風景・空撮写真・墨書土器	3点 2023/10/25
有限会社島海社	西谷正著「東亜考古学論攷（仮題）」に利用	勝川遺跡	刻書瓦写真	1点 2023/11/2
豊橋市図書館	「グルメだった縄文人 ～海と山～ 東三河の縄文時代」展の広報に利用	笹平遺跡 川向東貝津遺跡	遺跡遠景・岩偶写真 遺構写真	3点 2023/11/17
株式会社山川出版	書籍「日本史の中の愛知県」に利用	朝日遺跡	玉原石・ガラス玉	2点 2023/12/16
株式会社雄山閣	出版物「季刊考古学166号」表紙・口絵に掲載	朝日遺跡	13号人骨出土状況	1点 2023/12/21
横浜市歴史博物館	常設展示「原始 I」において使用	朝日遺跡	60B区空撮写真・貝層写真	2点 2024/1/5
個人	風媒社刊行予定「ぶらし地学たび」（仮題）に使用	一色青海遺跡	遺物写真	1点 2024/1/29

ホームページなど

今年度末までに公開された PDF 及び画像データは右表のとおりである。動画コンテンツは、上ヲロウ・下ヲロウ遺跡の調査成果について解説したものを1本追加した。これは造成工事区域内のため一般の方々の入場が難しいことから、Webでの解説を行ったものである。現在公開している動画12本について、今年度の動画再生回数は、いずれも50回程度ずつ増加している。

報告書PDF	277点
説明会資料	121点
年報PDF	576点
研究紀要PDF	235点
各遺跡の広報誌	217点
埋蔵文化財展資料	20点
講座資料	37点
その他チラシ類	100点
遺跡位置登録	277点
写真登録（遺跡アルバム）	45,055点
実測図登録	31,373点
YouTubeコンテンツ	12点

地元説明会・成果報告会

遺跡名等	所在地・開催地	開催日	参加人数	種別
名古屋城三の丸遺跡	名古屋市中区丸の内	令和5年7月22日(土)	38名	地元説明会
万瀬遺跡	設楽町川向字マンゼ	令和5年8月11日(金・祝)	13名	地元説明会
亀塚遺跡	安城市東町・桜井町地内	令和5年8月19日(土)	131名	地元説明会
一色青海遺跡	稲沢市儀長町1丁目	令和5年8月26日(土)	42名	地元説明会
野添遺跡	豊橋市石巻本町西下地	令和5年10月9日(月・祝)	42名	地元説明会
根道外遺跡	設楽町八橋字根道外	令和5年12月16日(土)	5名	地元説明会
青山神明遺跡	豊山町青山字神明	令和6年1月27日(土)	149名	地元説明会
鹿乗川流域遺跡群	安城市東町公民館	令和6年2月3日(土)	34名	成果報告会
名古屋城三の丸遺跡	名古屋市中区丸の内	令和6年3月9日(土)		地元説明会
新設楽発見伝 10	設楽町町議場(設楽町田口)	令和6年3月9日(土)		成果報告会



万瀬遺跡地元説明会



名古屋城三の丸遺跡地元説明会



野添遺跡地元説明会



青山神明遺跡地元説明会

報告書作成のための指導

遺跡名	指導者	指導日	所属
大崎遺跡	城ヶ谷和広	令和5年7月31日	愛知県埋蔵文化財調査センター
	増子康真	令和5年8月4日	名古屋考古学会

発掘調査における遺構・遺物などの指導

遺跡名	指導者	指導日	所属
名古屋城三の丸遺跡	丸山 宏	令和5年6月21日(水)	名城大学名誉教授
	赤羽一郎	令和5年6月21日(水)	元愛知淑徳大学非常勤講師
廻間遺跡	赤塚次郎	令和5年9月14日(木)	NPO法人古代瀬波里文化遺産ネットワーク理事長
中般若北浦遺跡	岡本直久	令和5年11月22日(水)	瀬戸市埋蔵文化財センター所長
亀塚遺跡	宮腰健司	令和5年12月7日(木)	元愛知件埋蔵文化財センターセンター長
	西島庸介	令和5年12月11日(月)	安城市教育委員会文化振興課専門主査
根道外遺跡	綿田弘実	令和5年12月15日(金)	長野県埋蔵文化財センター調査指導員
	石黒立人	令和5年12月21日(木)	元愛知県埋蔵文化財センター副センター長
	設楽博巳	令和6年3月9日(土)	東京大学名誉教授

令和5年度 愛知県埋蔵文化財センター 組織一覧

運営協議会委員

金田明大 独立行政法人国立文化財機構
 奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター長
 黒澤 浩 南山大学人文学部人類文化学科教授
 城ヶ谷和広 愛知県埋蔵文化財調査センター調査研究課 主任
 高本訓久 愛知県都市教育長協議会 会長（豊川市教育長）
 竹内 誠 名古屋大学大学院環境学研究科 教授
 都築暢也 元中京大学文学部歴史学科 非常勤講師
 古尾谷知浩 名古屋大学大学院人文学研究科 教授
 森岡士郎 愛知県民文化局 文化部長

センター長兼管理課長 高橋 寿人
 管理課

主 任 榊原 聡史
 主 任 矢野 茂樹
 主 事 青山 徳彦
 主 事 村岡 香

調査課

調 査 課 長 鈴木 正貴
 主任専門員 樋上 昇 堀木 真美子
 永井 宏幸 鬼頭 剛
 武部 真木

専門委員

考 古 学 伊藤秋男 南山大学 名誉教授
 岩 石 学 榎並正樹 名古屋大学 名誉教授
 考 古 学 柴垣勇夫 元愛知淑徳大学 教授
 形質人類学 多賀谷 昭 長野県看護大学 名誉教授
 古代史学 西宮秀紀 愛知教育大学 名誉教授
 建築史学 濱田晋一 名古屋工業大学大学院 准教授
 木材組織学 吉田正人 名古屋大学大学院生命農学研究科 准教授
 保存科学 脇谷草一郎 独立行政法人国立文化財機構
 奈良文化財研究所 保存修復科学研究室長

調査研究専門員 蔭山 誠一 川添 和暁
 永井 邦仁 早野 浩二
 調査研究主任 鈴木 恵介 酒井 俊彦
 池本 正明
 調査研究主事 田中 良 河嶋 優輝
 渡邊 峻 社本 有弥
 梶田 真由 荒木 徳人
 宮腰 健司

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
浜池遺跡

2024

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

浜池遺跡発掘調査報告

調査の経過 浜池遺跡は豊橋市西幸町浜池に所在する。発掘調査は、県道405号小松原街道線の街路改良工事に伴う事前調査として愛知県民文化局を通じた委託事業である。調査面積は100㎡、調査期間は令和5年7月25日～8月16日である。調査担当は当センター調査課の樋上昇（主任専門員）と田中良（調査研究主事）である。遺跡の位置は、北緯34度43分25秒、東経137度24分12秒である。県遺跡番号は791411、県埋文遺跡記号は4THIである。調査では表土・遺構掘削を橋本技術（株）が行い、測量も同社が行った。遺構検出と土層観察、写真撮影は田中が行った。なお本書の編集は田中が行った。

地理的環境 遺跡は豊橋市の東南部に位置し、三河湾へ西流する梅田川右岸の河岸段丘上に立地する。梅田川の河道は比較的最近まで蛇行しており、地割などにその痕跡がみられる。梅田川は、豊橋市と静岡県湖西市の県境となる弓張山系の山地に源を發し、三河湾へとそそぐ二級河川である。梅田川の北側には中位段丘面の高師原面があり、豊川によって運ばれ堆積した高師原礫層からなるいわゆる「三万年段丘」である。この段丘は、温暖な気候化で堆積したため、土壌中の鉄分が酸化して赤色風化をおこしている。そのため、この台地は酸性土壌となり、木の根に酸化鉄が付着した「高師小僧」が多量に出土し、名称の由来地であるため、愛知県の天然記念物に指定されている（岩瀬1996）。

周辺の遺跡 遺跡のある西幸町は、梅田川の中流域にあたり、縄文時代から中世の遺跡や灰釉陶器窯の多い地域である。桜遺跡は、縄文時代前期～晩期の各時期に渡る遺物が出土し、長期的に集落が営まれたとされている。古代では、灰釉陶器の古窯が多く分布しており、一大生産地を形成している（岩瀬1996）。

【参考文献】

岩瀬彰利 1996 「百々池B古窯」
『百々池B古窯・東田遺跡(Ⅱ)』
豊橋市埋蔵文化財発掘調査報告書第32集
豊橋市教育委員会

小坂延仁 2023 「浜池遺跡」
『愛知県埋蔵文化財試掘・確認調査報告書』
愛知県埋蔵文化財調査センター



図1 浜池遺跡の位置（1/2.5万「豊橋」に加筆）



図2 浜池遺跡周辺の遺跡分布（1/2.5万「豊橋」に加筆）



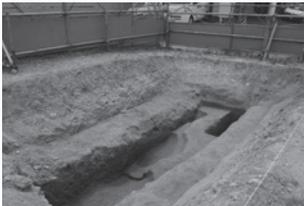
調査前風景 (南から)



表土掘削 (23B区、南東から)



遺構検出 (23B区、南西から)



遺構完掘 (23B区、北西から)



遺構完掘 (23A区、北東から)



遺跡遠景 (西から)



調査完了状況 (北から)

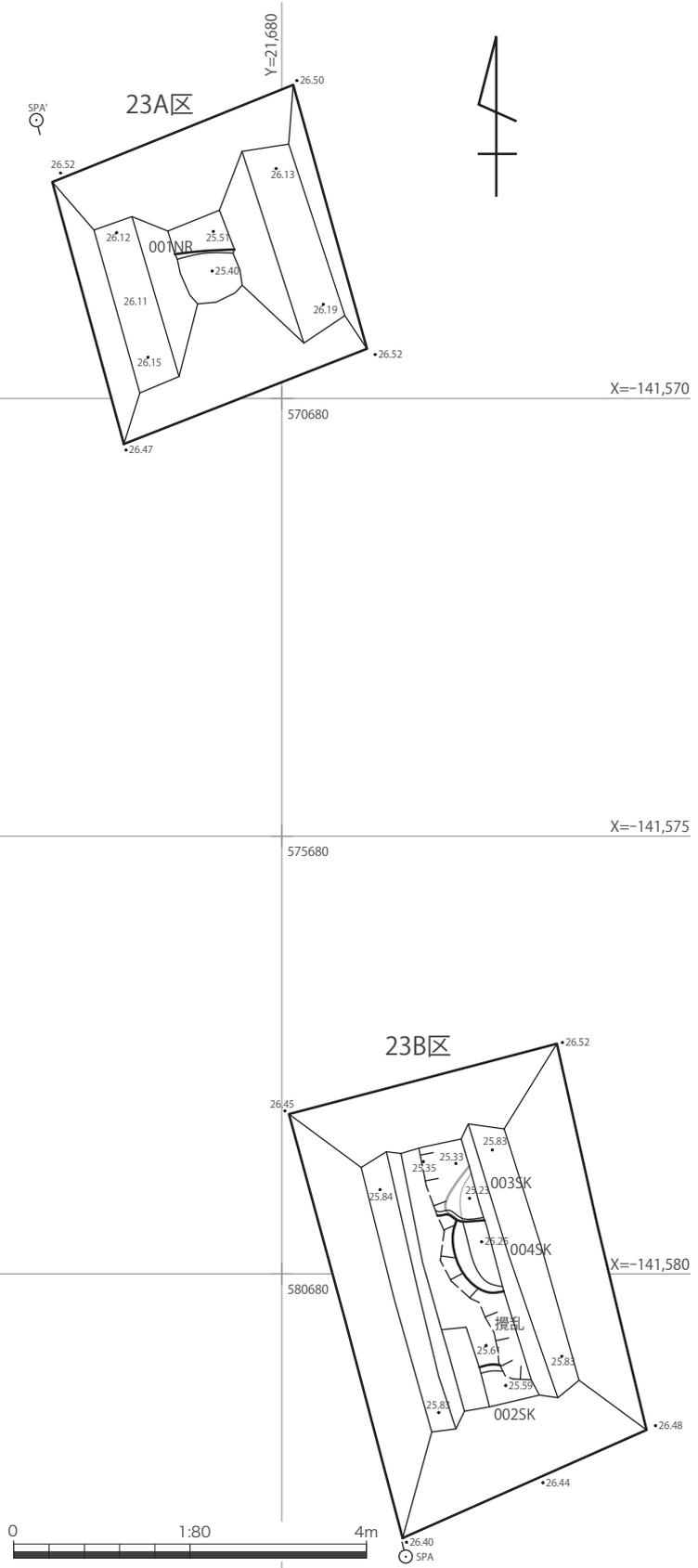


図3 浜池遺跡調査区全体図 (1:80)

調査の概要 浜池遺跡は、令和3年度に県道405号小松原街道線の街路改良工事に伴う試掘調査が愛知県埋蔵文化財調査センターにより実施され、新規の遺跡として登録された(小坂2023)。

基本土層 遺跡は、段丘面を構成する礫混じりのシルト層および粘土層を基盤層とし、基本的には約1m厚の表土を掘削してあらわれるシルト層上面で遺構が検出される。遺跡の基本土層は、宅地の造成土(1層)、耕作に伴う床土(2層)、造成土(3・4層)、地山(8-10層)となる。

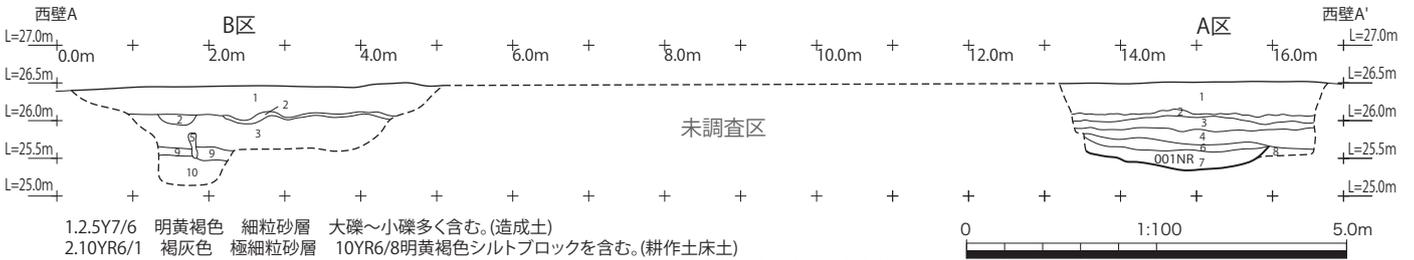
遺構 遺構は、23A区と23B区で検出された。23A区では、自然流路001NRが検出され、その埋土中から碗型鉄滓が出土した。

23B区では、土坑が3基検出された。出土遺物こそないものの、003SKと004SKの埋土には焼土と炭化物が多量に含まれていた(表1)。

遺物 遺物は、自然流路001NRの碗型鉄滓と表面採取で陶器片がある。碗型鉄滓は、コークスが付着しており、近代のものの可能性が高い。この地域では、明治時代に陸軍の練兵場があったとされており、その時代に関連する遺物の可能性がある。(田中良)

表1 浜池遺跡23A・B区遺構一覧

調査区	遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	埋土	出土遺物
23A	001NR	565675	(0.65)	(0.6)	0.12	10YR6/4 にぶい黄橙色 シルト層 炭化木片を含む。(001NR)	碗型鉄滓
23B	002SK	580680	0.54	0.47	0.05	10YR6/3 にぶい黄橙色 シルト質中粒砂層 10YR7/8黄橙色シルトブロック、炭化物を含む。(002SK埋土)	
23B	003SK	575680	0.63	0.32	0.13	10YR6/4 にぶい黄橙色 細粒砂質シルト層 2.5YR7/6橙色焼土ブロック、10YR8/8黄橙色細粒砂ブロック、炭化物を含む。(003SK)	
23B	004SK	575680 580680	0.85	0.43	0.21	10YR6/3 にぶい黄橙色 シルト質細粒砂層 2.5YR7/6橙色焼土ブロック、炭化物多く含む。(004SK)	



- 1.2.5Y7/6 明黄褐色 細粒砂層 大礫～小礫多く含む。(造成土)
- 2.10YR6/1 褐灰色 極細粒砂層 10YR6/8明黄褐色シルトブロックを含む。(耕作土床土)
- 3.10YR6/2 灰黄褐色 細粒砂層 小礫、10YR6/8明黄褐色シルトブロックを含み、炭化物を少量含む。(造成土)
- 4.10YR5/3 にぶい黄褐色 細粒砂質シルト層 10YR8/3浅黄橙シルトブロックを含み、炭化物を多く含む。(造成土)
- 5.10YR8/4 浅黄褐色 シルト質細粒砂層 炭化物含む。(植生痕)
- 6.10YR6/3 にぶい黄褐色 シルト層 炭化物含む。(造成土)
- 7.10YR6/4 にぶい黄橙色 シルト層 炭化木片を含む。(001NR)
- 8.10YR7/8 黄橙色 粘土層 (地山)
- 9.10YR8/6 黄褐色 シルト質極細粒砂層 炭化物含む。(地山)
- 10.10YR8/8 黄褐色 シルト層 小礫、10YR8/4浅黄褐色シルトブロックを含む。(地山)

図4 浜池遺跡土層断面図(1:100)



写真1 浜池遺跡001SD出土鉄滓(表)



写真2 浜池遺跡001SD出土鉄滓(裏)



写真3 浜池遺跡遠景(西から)



写真4 23A区西壁土層断面(東から)



写真5 23B区西壁土層断面(東から)



写真6 23B区土坑003・004SK検出状況(北西から)



写真7 23B区土坑003・004SK土層断面(西から)

ふりがな	はまいけいせき
書名	浜池遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	
編著者名	田中 良
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦 2024 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はまいけ 浜池	あいちけんとよほしし 愛知県豊橋市 にしみゆきちょう 西幸町	23201	791411	34 度 43 分 25 秒	137 度 24 分 12 秒	2023.7 2023.8	110	小松原 街道線 街路改 良工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
浜池遺跡	集落	近代	土坑 自然流路	鉄滓	炭化物と焼土を伴う 土坑 2 基と鉄滓を含 む自然流路を 1 条検 出。

文書番号	発掘届出：埋文（5 埋セ第 35 号） 発掘届出：県教委（5 文芸第 470-2 号） 完了報告（5 埋セ第 60 号） 文化財認定（5 文芸第 1055 号）
------	---

要約	本遺跡は、豊橋市の東南部に位置し、三河湾へ西流する梅田川右岸の河岸段丘上に立地し、周辺には古代の灰釉陶器の古窯が多く分布する。従前の調査では、土器片が出土したが、今回の調査では遺構・遺物とも寡少であった。近代に土壤改良を受けた痕跡があり、このことが遺構・遺物がほとんど検出されなかった原因の可能性はある。
----	--

年報 令和5年度

令和6年3月

編集・発行 (公財) 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

印刷 西濃印刷株式会社

